

第5回  
AEON

eco-1 グランプリ  
エコワン

# あなたの学校の取り組みを応援する 高校生のエコ活動事例集

地球環境を守ろう！  
エコ活動の環を広げよう！



エコワンくん

役立つ  
保存版

主催：公益財団法人イオン1%クラブ 共催：毎日新聞社

後援：内閣府、文部科学省、環境省

協力：全国高等学校長協会、公益財団法人産業教育振興中央会、特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議 (ESD-J)

# 高校生のパワーで地球を救おう！

エコ活動をしている高校は、  
ぜひ『**エコの環スクール**』に登録を！  
現在216校が登録、活動中！  
(2017年3月31日現在)



進む地球温暖化。生物多様性の危機。

——悲鳴をあげる地球を救うために、全国各地の高校生が行動を起こしています。

エコ活動の基本は、身近なところから課題を見つけて動き出すこと。ささやかな活動でも大勢が動けば大きなパワーとなります。

イオンエコワングランプリは、全国の高校生のエコへの取り組みを募集、顕彰するとともに、新たな活動への取り組みを呼びかけています。

そして、活動する高校が情報交換や連携していくことを目指して、『エコの環』スクール登録制度を設けています。あなたの学校も『エコの環』スクールに登録して、エコ活動の環を広げていきませんか。

『エコの環』スクールの登録校と活動内容は、エコワングランプリのホームページで見ることができます。

Facebook で情報交換を。LINE@ でも、エコワングランプリの募集や審査経過などの情報を発信しています。高校生の力で、エコ活動の環を広げよう！



ひょうたんイルミの飾りつけ  
(岐阜県立大垣養老高等学校)



地元の小・中学生を高校に招いての  
環境授業  
(静岡県立浜松城北工業高等学校)



緑のリサイクル街頭啓発活動  
(徳島県立新野高等学校、徳島県立  
小松島西高等学校勝浦校)



環境フェアで生分解性プラスチック  
ポットを配布  
(エクセラン高等学校)



地元の小学生を対象にエコ教室  
(佐賀県立佐賀商業高等学校)



再生紙を利用した福祉交流  
(埼玉県立小鹿野高等学校)



紙バックを使用して再生紙作製  
(栃木県立国分寺特別支援学校)



地域住民と連携した清掃活動  
(徳島県立池田高等学校)

## エコワングランプリ公式アカウント



見てみてね!

〈ホームページ〉

イオンエコワングランプリ 検索

<http://www.eco-1-gp.jp/>

★Facebook、LINE@いずれも「@eco1.grandprix」で  
検索することができます。

〈Facebook〉



〈LINE@〉



# エコ活動のいっそうの普及を目指して

第5回「AEON eco-1 グランプリ」にご応募、ご参加いただいた高校生の皆さま、学校関係者の皆さまに心から御礼を申し上げます。

今回は、これまで2部門（＜普及・啓発部門＞＜研究・専門部門＞）で募集していたところを、＜普及・啓発部門＞1部門に絞り実施しました。

これは、エコワングランプリの本来の目的であるエコ活動の幅広い普及に力点を置き、だれでもどこでも始めることが出来る活動の応募を促すことがねらいでした。

また、幅広い普及に向けて、鳥の巣箱設置やペットボトルキャップの回収運動を呼びかけ、エコ活動の新しい取り組みへのキッカケづくりを提案しました。

お陰様で、今回の応募点数は121点（114校。昨年普及・啓発部門の応募点数は69点）にのぼり、鳥の巣箱設置には16校、ペットボトルキャップ回収には38校（どちらも2017年3月31日現在）が賛同して、新たな活動をスタートしています。

今後は、＜普及・啓発部門＞を毎年、＜研究・専門部門＞を隔年開催として実施してまいります。じっくり時間をかけて研究を続け、その成果をご応募いただけることを期待しています。

今回の最終審査会には一次審査、二次審査を通過した14校が臨み、プレゼンテーションと質疑応答による審査を行いました。また惜しくも最終選考に残れなかった応募校やエコの環スクール登録校から抽選で10校を招待し、出場14校のプレゼンテーションを聴講の上、質疑応答にも参加していただきました。また、インターネットを通じたライブ中継を行い、エコワングランプリの認知度の向上を通しエコ活動の普及発展に力を入れてまいりました。

この活動事例集には、全国各地の高校生の皆さんが、日ごろ取り組んでいる身近なエコ活動、環境保全に対する優れた活動事例をまとめてありますので、存分にご活用いただければ幸いです。よりよい環境づくりにつながるヒントやアイデアがきっと見つかることでしょう。

イオン1%クラブは、これからも「次代を担う青少年の健全な育成」「諸外国との友好促進」「地域社会の持続的発展」を柱に、地域や国際社会と連携しながら、次の世界を背負って立つ人材の育成に向けた活動を進めてまいります。

最後になりましたが、ご後援いただいた内閣府、文部科学省、環境省、ならびに全国高等学校長協会、公益財団法人産業教育振興中央会、持続可能な開発のための教育推進会議（ESD-J）に厚く御礼申し上げます。審査員共同代表をお引き受けいただいたC.W.ニコル様、末吉竹二郎様、そしてPR大使をお務めいただいた女優の南沢奈央様に改めて御礼申し上げます。

2017年4月

公益財団法人イオンワンパーセントクラブ

理事長

横尾 博



も  
く  
じ

巻頭のことば	1
もくじ	2
第5回「イオン エコワングランプリ」の概要	3
イージー・エントリー ペットボトルキャップの回収	4
イージー・エントリー 鳥の巣箱設置	5
エコの環スクールに登録を！	6
第5回イオン エコワングランプリ全応募校	8
最終審査会（グランプリ大会）	9
表彰式	10
表彰式&発表紙面	12
審査講評	13
受賞校の活動と選評	14
審査員賞選評	15
内閣総理大臣賞 岐阜県立大垣養老高等学校	16
文部科学大臣賞 静岡県立浜松城北工業高等学校	18
環境大臣賞 徳島県立新野高等学校・徳島県立小松島西高等学校（勝浦校）	20
審査員 C.W. ニコル 特別賞（長野県）エクセラン高等学校	22
審査員 末吉竹二郎 特別賞 佐賀県立佐賀商業高等学校	24
審査員 南沢奈央 特別賞 埼玉県立小鹿野高等学校	26
「エコの環」賞 栃木県立国分寺特別支援学校	28
神奈川県立氷取沢高等学校	30
徳島県立池田高等学校定時制	32
奨励賞（北海道）札幌新陽高等学校	34
埼玉県立浦和高等学校	36
岐阜県立坂下高等学校	38
兵庫県立神戸商業高等学校	40
山口県立防府商工高等学校	42
二次審査進出校 宮城県志津川高等学校	44
埼玉県立特別支援学校さいたま桜高等学園	46
（千葉県）東海大学付属市原望洋高等学校	48
（神奈川県）慶應義塾湘南藤沢高等部	50
長野県須坂園芸高等学校	52
（京都府）大谷高等学校	54
京都府立北稜高等学校	56
香川県立多度津高等学校	58
（福岡県）中村学園三陽高等学校	60
佐賀県立伊万里農林高等学校	62
佐賀県立致遠館高等学校	64
長崎県立諫早農業高等学校	66
大分県立津久見高等学校	68
沖縄県立中部農林高等学校	70
第1～5回全応募高等学校	72
都道府県別応募校数一覧	79
第1～5回入賞校一覧	80
奥付	83
寄附・協賛企業一覧	84

## 第5回「イオンエコワングランプリ」の概要

### ●募集内容

高校生が取り組む環境保全活動全般を対象とします。

※審査対象＝2015年4月以降の活動を主たる審査対象とします。

### ●募集部門

《普及・啓発部門》(だれでも、どこでも始められるエコ活動) 1部門

※《研究・専門部門》(地域固有の問題に着目したエコ活動)は隔年開催とし、第6回は2部門で募集します。

### ●応募資格

日本国内の全日制・定時制高等学校で、授業および学校が承認しているクラブ活動(サークル・部活)の取り組みを対象とし、学校単位での応募(複数応募可)とします。

### ●募集期間

2016年7月上旬～9月30日(金) ※消印有効

### ●審査

- ・一次審査 10月12日(水) 毎日新聞東京本社
- ・二次審査 11月15日(火) 毎日新聞東京本社
- ・最終審査 12月10日(土) 毎日新聞東京本社 毎日ホール
- ・表彰式 // 如水会館(東京都千代田区)
  
- ・審査員 C.W.ニコル氏(作家・探検家、ナチュラリスト)  
末吉 竹二郎氏(国連環境計画・金融イニシアティブ特別顧問)  
南沢 奈央氏(女優、エコワングランプリPR大使)  
真田 正義(毎日新聞社 常務執行役員環境担当)

### ●賞

- ・内閣総理大臣賞(1校) …… 賞状と副賞「活動奨励金」
- ・文部科学大臣賞(1校) …… 賞状と副賞「活動奨励金」
- ・環境大臣賞(1校) …… 賞状と副賞「活動奨励金」
- ・審査員 C.W.ニコル 特別賞(1校) …… 賞状と副賞「活動奨励金」
- ・審査員 末吉竹二郎 特別賞(1校) …… 賞状と副賞「活動奨励金」
- ・審査員 南沢奈央 特別賞(1校) …… 賞状と副賞「活動奨励金」
- ・「エコの環」賞(複数校) …… 賞状と副賞「活動奨励金」
- ・ベストプレゼンテーション賞(1校) …… 賞状と副賞「活動奨励金」

※最終審査会出場校の引率教員の互選により選出

- ◇ 二次審査通過校(14校)に「活動奨励金」
- ◇ 一次審査通過校(28校)に「活動奨励」として図書カード1万円分
- ◇ 全応募校に「参加賞」としてオリジナルタンブラー3本(1活動に対し)贈呈
- ◇ 「エコの環」スクール登録校にオリジナル・クリアファイルセット贈呈

主催：公益財団法人 イオンワンパーセントクラブ

共催：毎日新聞社

後援：内閣府、文部科学省、環境省

協力：全国高等学校長協会、公益財団法人 産業教育振興中央会、

特定非営利活動法人 持続可能な開発のための教育推進会議 (ESD-J)

# イージー・エントリーでエコ活動を始めてみよう！

## ペットボトルキャップの回収

まだエコ活動をしていない学校を対象に、エコワングランプリ事務局では2つのプログラムを提案しました。「ペットボトルキャップの回収」と「鳥の巣箱設置」です。いずれもイージー・エントリーが可能なエコ活動ですが、どのような成果が得られるかは各校の工夫次第です。エントリー校には活動奨励として図書カード（1万円分）を贈呈しました。

「ペットボトルキャップの回収」については、特にロードマップはありません。各校でいかに工夫して集めるか、校内の事情に即して効率的に集めるにはどうしたら良いかを高校生の視点で考えることが求められます。そして集めたキャップをどこに預託したら、ワクチン・文房具の寄贈や途上国の貧困救済支援などに役立ててもらえるのか、それを決めることが一つのポイントです。地域の实情に沿った最善策について、検討の課程も含めてご報告ください。



日本福祉大学付属高校からの報告

### 参加校一覧

2017年3月31日現在

北海道枝幸高等学校、(北海道)クラーク記念国際高等学校、青森県立八戸高等学校、秋田県立横手城南高等学校、茨城県立笠間高等学校、(茨城県)鹿島学園高等学校、埼玉県立鴻巣女子高等学校、埼玉県立和光高等学校、(神奈川県)秀英高等学校、新潟県立十日町高等学校松之山分校、新潟県立長岡農業高等学校、岐阜県立不破高等学校、(岐阜県)大垣日本大学高等学校、(岐阜県)麗澤瑞浪高等学校、静岡県立浜松城北工業高等学校、愛知県立一宮興道高等学校、(愛知県)日本福祉大学付属高等学校、三重県立あけぼの学園高等学校、京都府立乙訓高等学校、大阪府立日根野高等学校、大阪府立枚方高等学校、大阪府立山田高等学校、(大阪府)箕面学園高等学校、兵庫県立芦屋高等学校、(奈良県)智辯学園高等学校、広島県立高陽東高等学校、広島市立美鈴が丘高等学校、徳島県立小松島西高等学校勝浦校、徳島県立徳島商業高等学校、愛媛県立西条農業高等学校、高知県立安芸桜ヶ丘高等学校、高知県立高岡高等学校、福岡県立小倉工業高等学校、佐賀県立太良高等学校、熊本県立天草工業高等学校、(大分県)別府溝部学園高等学校、宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校、沖縄県立コザ高等学校定時制

**1** 「目標設定」活動開始にあたり、どのくらいの期間で、どれくらいの回収量を目標にするか。できればそれによってどれほどのワクチンや文房具を提供できるか見込みを立ててみよう。



**2** 「行動」目標達成に向かい、どのような方法で呼びかけたら良いか。学内・学外の人たちが持ち寄りやすい方法はないか、回収に際して注意することはないか、など常に工夫を重ねてみよう。



**3** 「預託先の選定」集めたキャップをどこに預託したら、最も効率良くワクチンや文房具の寄贈につながるのか事前にリサーチしよう。自治体が対応している地域や民間企業に送付するケースなど様々なはずだ。

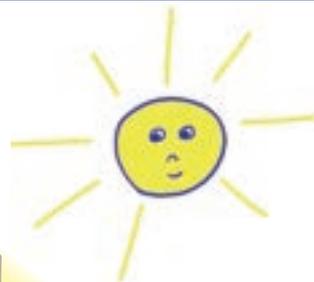


**4** 「まとめ・検証」自分たちの活動でどのような成果が得られたか、キチンとまとめて記録に残そう。反省点や改善点があれば、それを踏まえて次の回収活動を考えてみよう。

(公式Facebookより)



## 鳥の巣箱設置



エントリー校には巣箱と取り付けキット（ロープ、ガイド、バードコール）を進呈いたします。学校内または地域の協力を得て、実際に小鳥が営巣してくれるような場所を探して設置してください。

巣箱を取り付けたからといって直ぐに小鳥が来てくれる訳ではありません。その地域にどんな種類の鳥たちが生息していて、その鳥に棲みついてもらうにはどういう条件で巣箱を設置したら良いのか、その検討の過程も含めて、適宜経過の報告をしてください。作戦会議をした、設置場所を交渉した、設置作業を実際に行った、撒き餌を考えた……など、読んでいる人もその場で参加している気持ちになるような報告をお待ちしています。もちろん、「鳥が棲みはじめました！」との声、お待ちしております。

それぞれ報告はメールやお手紙でお送りいただいても良いですが、ホームページやFacebookで掲載いただければ、エコワングランプリ公式Facebookでシェアさせていただき、共有化を図ります。

ぜひあなたの学校でもトライしてみませんか？



第2回グランプリ受賞校の岐阜県立加茂農林高等学校協力によるエコワングランプリ特製巣箱。設置にあたって気をつける点などを記したガイド付き



(公式Facebook より)



シジュウカラ



ヤマガラ



スズメ

今回提供の巣箱で営巣を想定している小鳥たち

### 参加校一覧

2017年3月31日現在

青森県立三戸高等学校、福島県立修明高等学校鮫川校、栃木県立小山北校高等学校、埼玉県立吉川美南高等学校、東京都立大島高等学校、(神奈川県) 秀英高等学校、新潟県立十日町高等学校松之山分校、岐阜県立加茂農林高等学校、岐阜県立飛騨高山高等学校、静岡県立浜松城北工業高等学校、大阪府立日根野高等学校、(大阪府) 箕面学園高等学校、兵庫県立芦屋高等学校、和歌山県立那賀高等学校、(宮崎県) 鷗翔高等学校、沖縄県立コザ高等学校定時制



# エコの環スクールに登録を！

実際に全国で高校生が取り組むエコ活動を紹介します。



以下に紹介する各校の応募内容は、この事例集でも紹介していますが、過去の応募事例（二次審査通過校のみ）はエコワングランプリ公式ホームページでも紹介しています。ぜひご参照いただき、気になる活動や参考としたい活動を探してみてください。近隣の地域でなくとも、貴校のエコ活動の悩みを解決してくれる学校があるかもしれませんよ。

エコ活動をしている学校は『エコの環スクール』に登録して、自校の取り組みを掲載しませんか？

写真などの図版の紹介も今後拡充していきます。

募集は随時行っておりますので、いつでもお問い合わせください。

エコワングランプリ運営事務局 = 03-6265-6813 (平日10~17時)

ホームページ = <http://www.eco-1-gp.jp>

Facebook = <https://www.facebook.com/eco1.grandprix/>

始めて  
みよう！



## 1 ゴミの分別・ゴミの削減

札幌新陽高等学校(北海道)p.34、宮城県志津川高等学校 p.44、国分寺特別支援学校(栃木県)p.28、エクセラ  
ン高等学校(長野県)p.22、浜松城北工業高等学校(静  
岡県)p.18、東海大学付属市原望洋高等学校(千葉県)  
p.48、小鹿野高等学校(埼玉県)p.26、特別支援学校さ  
いたま桜高等学園(埼玉県)p.46、慶應義塾湘南藤沢高  
等部(神奈川県)p.50、坂下高等学校(岐阜県)p.38、大  
谷高等学校(京都府)p.54、北稜高等学校(京都府)p.56、  
新野高等学校・小松島西高等学校(徳島県)p.20、池田  
高等学校定時制(徳島県)p.32、伊万里農林高等学校(佐  
賀県)p.62、佐賀商業  
高等学校(佐賀県)p.24、  
致遠館高等学校(佐賀県)  
p.64、津久見高等学校  
(大分県)p.68



致遠館高等学校

## 2 資源リサイクル活動

札幌新陽高等学校(北海道)p.34、宮城県志津川高等  
学校 p.44、国分寺特別支援学校(栃木県)p.28、浜松  
城北工業高等学校(静岡県)p.18、東海大学付属市原  
望洋高等学校(千葉県)p.48、小鹿野高等学校(埼玉県)  
p.26、浦和高等学校(埼玉県)p.36、特別支援学校さ  
いたま桜高等学園(埼玉県)p.46、氷取沢高等学校(神奈  
川県)p.30、坂下高等学校(岐阜県)p.38、大谷高等学  
校(京都府)p.54、北稜高等学校(京都府)p.56、神戸商  
業高等学校(兵庫県)p.40、防府商工高等学校(山口県)  
p.42、新野高等学校・小松島西高等学校(徳島県)p.20、  
池田高等学校定時制(徳島  
県)p.32、中村学園三陽  
高等学校(福岡県)p.60、  
致遠館高等学校(佐賀県)  
p.64、津久見高等学校(大  
分県)p.68



国分寺特別支援学校

## 3 グリーンカーテン設置

浦和高等学校(埼玉県)p.36、大垣養老高等学校(岐阜県)p.16、北稜高等学校(京都府)p.56、  
多度津高等学校(香川県)p.58、新野高等学校・小松島西高等学校(徳島県)p.20、池田高  
等学校定時制(徳島県)p.32、中村学園三陽高等学校(福岡県)p.60、中部農林高等学校(沖  
縄県)p.70



多度津高等学校

## 4 清掃活動

エクセラン高等学校(長野県)p.22、浜松城北工業高等学校(静岡県)p.18、特別支援学校さいたま桜高等学園(埼玉県)p.46、慶應義塾湘南藤沢高等部(神奈川県)p.50、大谷高等学校(京都府)p.54、北稜高等学校(京都府)p.56、神戸商業高等学校(兵庫県)p.40、新野高等学校・小松島西高等学校(徳島県)p.20、池田高等学校定時制(徳島県)p.32、中村学園三陽高等学校(福岡県)p.60、致遠館高等学校(佐賀県)p.64



特別支援学校さいたま桜高等学園

## 5 節電・節水

浦和高等学校(埼玉県)p.36、北稜高等学校(京都府)p.56、新野高等学校・小松島西高等学校(徳島県)p.20、池田高等学校定時制(徳島県)p.32



池田高等学校定時制

## 6 商品開発

国分寺特別支援学校(栃木県)p.28、氷取沢高等学校(神奈川県)p.30、新野高等学校・小松島西高等学校(徳島県)p.20、諫早農業高等学校(長崎県)p.66、津久見高等学校(大分県)p.68



諫早農業高等学校

## 7 植樹、緑化、花いっぱい運動

須坂園芸高等学校(長野県)p.52、浜松城北工業高等学校(静岡県)p.18、浦和高等学校(埼玉県)p.36、坂下高等学校(岐阜県)p.38、北稜高等学校(京都府)p.56、防府商工高等学校(山口県)p.42、新野高等学校・小松島西高等学校(徳島県)p.20、中村学園三陽高等学校(福岡県)p.60、致遠館高等学校(佐賀県)p.64



須坂園芸高等学校

## 8 環境調査活動

札幌新陽高等学校(北海道)p.34、エクセラン高等学校(長野県)p.22、浜松城北工業高等学校(静岡県)p.18、浦和高等学校(埼玉県)p.36、大谷高等学校(京都府)p.54、北稜高等学校(京都府)p.56、神戸商業高等学校(兵庫県)p.40、津久見高等学校(大分県)p.68



浦和高等学校

## 9 普及・啓発活動

札幌新陽高等学校(北海道)p.34、志津川高等学校(宮城県)p.44、国分寺特別支援学校(栃木県)p.28、エクセラン高等学校(長野県)p.22、浜松城北工業高等学校(静岡県)p.18、東海大学付属市原望洋高等学校(千葉県)p.48、小鹿野高等学校(埼玉県)p.26、浦和高等学校(埼玉県)p.36、特別支援学校さいたま桜高等学園(埼玉県)p.46、慶應義塾湘南藤沢高等部(神奈川県)p.50、大垣養老高等学校(岐阜県)p.16、大谷高等学校(京都府)p.54、北稜高等学校(京都府)p.56、神戸商業高等学校(兵庫県)p.40、防府商工高等学校(山口県)p.42、新野高等学校・小松島西高等学校(徳島県)p.20、池田高等学校定時制(徳島県)p.32、中村学園三陽高等学校(福岡県)p.60、佐賀商業高等学校(佐賀県)p.24、致遠館高等学校(佐賀県)p.64、諫早農業高等学校(長崎県)p.66



佐賀商業高等学校

## 10 その他

浜松城北工業高等学校(静岡県)／ISO14001内部監査員養成研修の普及・啓発)p.18、慶應義塾湘南藤沢高等部(神奈川県)／TYCAやTTAといった国際交流の学習会への参加)p.50

## 第5回イオン エコワングランプリ応募校 (全)

### 【北海道・東北】

札幌新陽高等学校  
浜中町立北海道霧多布高等学校  
北海道美幌高等学校  
北海道標茶高等学校  
北海道龍谷学園双葉高等学校  
青森県立柏木農業高等学校  
青森県立名久井農業高等学校  
岩手県立大槌高等学校  
宮城県黒川高等学校  
宮城県志津川高等学校  
宮城県小牛田農林高等学校  
宮城県農業高等学校  
宮城県白石工業高等学校  
宮城県迫桜高等学校  
仙台市立仙台工業高等学校  
山形県立村山産業高等学校  
秋田県立増田高等学校  
福島県立会津農林高等学校  
福島県立修明高等学校鮫川校  
福島県立相馬農業高等学校  
福島県立平工業高等学校

### 【関東・甲信越】

栃木県立さくら清修高等学校  
栃木県立国分寺特別支援学校  
栃木県立小山北桜高等学校  
栃木県立馬頭高等学校  
群馬県立中之条校高等学校  
群馬県立利根実業高等学校  
エクスラン高等学校 (長野県)  
長野県下高井農林高等学校  
長野県須坂園芸高等学校  
長野県飯田 OIDE 長姫高等学校  
山梨英和中学高等学校 (山梨県)  
山梨県立甲府南高等学校  
オイスカ高等学校 (静岡県)  
静岡県立磐田農業高等学校  
静岡県立浜松城北工業高等学校  
静岡県立富岳館高等学校

### 【首都圏】

東京都立つばさ総合高等学校  
東京都立井草高等学校  
東京都立園芸高等学校  
東京都立大島高等学校  
東海大学付属市原望洋高等学校 (千葉県)  
埼玉県立いづみ高等学校  
埼玉県立浦和高等学校  
埼玉県立小鹿野高等学校  
埼玉県立特別支援学校さいたま桜高等学園  
慶應義塾湘南藤沢高等部 (神奈川県)  
神奈川県立氷取沢高等学校

### 【北陸・中部】

富山県立氷見高等学校  
石川県立津幡高等学校  
福井県立若狭高等学校  
岐阜県立可児工業高等学校  
岐阜県立岐山高等学校  
岐阜県立岐阜工業高等学校  
岐阜県立坂下高等学校  
岐阜県立大垣養老高等学校  
岐阜県立池田高等学校

愛知県立佐屋高等学校  
愛知県立碧南工業高等学校  
名古屋大谷高等学校 (愛知県)

### 【近畿】

京都市立伏見工業高等学校  
京都市立洛陽工業高等学校  
京都府立綾部高等学校  
京都府立乙訓高等学校  
京都府立福知山高等学校三和分校  
京都府立北稜高等学校  
大谷高等学校 (京都府)  
清風高等学校 (大阪府)  
大阪府立園芸高等学校  
兵庫県立香住高等学校  
兵庫県立三木北高等学校  
兵庫県立篠山東雲高等学校  
兵庫県立飾磨工業高等学校多部制  
兵庫県立神戸商業高等学校  
兵庫県立西宮甲山高等学校  
兵庫県立豊岡総合高等学校  
和歌山県立那賀高等学校  
和歌山県立箕島高等学校

### 【中国・四国】

鳥取県立智頭農林高等学校  
米子工業高等専門学校 (鳥取県)  
出雲西高等学校 (島根県)  
岡山県立高松農業高等学校  
岡山県立真庭高等学校  
岡山県立津山工業高等学校  
岡山県立矢掛高等学校  
岡山県立邑久高等学校  
山陽女子高等学校 (岡山県)  
広島県立加計高等学校  
広島県立油木高等学校  
広島市立広島工業高等学校  
山口県立山口農業高等学校  
山口県立防府商工高等学校  
徳島県立新野高等学校・徳島県立小松島西高等学校  
徳島県立池田高等学校校定時制  
香川県立高松工芸高等学校  
香川県立多度津高等学校  
愛媛県立伊予農業高等学校  
愛媛県立南宇和高等学校  
高知県立嶺北高等学校  
清和女子中高等学校 (高知県)

### 【九州・沖縄】

中村学園三陽高等学校 (福岡県)  
福岡県立水産高等学校  
佐賀県立伊万里農林高等学校  
佐賀県立佐賀商業高等学校  
佐賀県立致遠館高等学校  
長崎県立島原農業高等学校  
長崎県立諫早農業高等学校  
大分県立玖珠美山高等学校  
大分県立津久見高等学校  
熊本県立阿蘇中央高等学校  
鹿児島県立薩摩中央高等学校  
鹿児島県立市来農芸高等学校  
沖縄県立中部農林高等学校  
沖縄県立読谷高等学校

## 最終審査会（グランプリ大会）

2016年12月10日（土）、毎日新聞社・毎日ホール（東京都千代田区）にて、第5回エコワングランプリの最終審査会が行われました。プレゼンテーションは抽選で発表順番を決定。各校5分間のプレゼンテーション、10分間の質疑応答が進められました。会場には最終審査会出場14校のほかに「エコの環」スクール登録校から選ばれた9校も参加し、質疑応答の時間には会場からの質問も相次ぎました。審査会、表彰式の様子はYouTube Liveでライブ中継されました。

### ● 出場校（発表順）

《午前》札幌新陽高等学校(北海道)／徳島県立池田高等学校定時制／佐賀県立佐賀商業高等学校／山口県立防府商工高等学校／岐阜県立大垣養老高等学校／兵庫県立神戸商業高等学校／栃木県立国分寺特別支援学校

《午後》埼玉県立浦和高等学校／エクセラン高等学校(長野県)／徳島県立新野高等学校・徳島県立小松島西高等学校／埼玉県立小鹿野高等学校／静岡県立浜松城北工業高等学校／神奈川県立氷取沢高等学校／岐阜県立坂下高等学校

### ● 招待校（五十音順）

宮城県志津川高等学校／福島県立修明高等学校鮫川校／長野県下高井農林高等学校／石川県立津幡高等学校／京都府立北稜高等学校／清風高等学校(大阪府)／香川県立多度津高等学校／中村学園三陽高等学校(福岡県)／鹿児島県立市来農芸高等学校

### 《発表風景》



岐阜県立坂下高等学校



神奈川県立氷取沢高等学校

### 《審査員》



審査員共同代表のC.W. ニコルさん



審査員共同代表の末吉竹二郎さん



審査員の南沢奈央さん



審査員の真田和義さん

### 《会場の様子》



審査員だけでなく会場からも質問を受け付けました



パワーポイントによるプレゼンを視聴する満員の会場

## 表彰式

12月10日(土) 如水会館(東京都千代田区一ツ橋)

内閣総理大臣賞：岐阜県立大垣養老高等学校



(左から) 授与者・石原宏高 内閣府副大臣、野村姫威さん、河瀬紗希乃さん、青木祐太先生  
※同校はベストプレゼンテーション賞も受賞

文部科学大臣賞：静岡県立浜松城北工業高等学校



(左から) 授与者・清原洋一 文部科学省初等中等教育局主任視学官  
中谷優介さん、平山輔信さん、飯尾美行先生

環境大臣賞：徳島県立新野高等学校・徳島県立小松島西高等学校



(左から) 授与者・正田寛 環境省大臣官房審議官  
山田朔実さん、中川貞登さん、湯浅正浩先生、野賀田耕一先生

審査員 C.W. ニコル 特別賞：エクセラン高等学校(長野県)



(左から) 授与者・末吉竹二郎さん、阿南智也さん、竹内久代先生  
※C.W. ニコルさんは都合により表彰式を欠席されました。

審査員 末吉竹二郎 特別賞：佐賀県立佐賀商業高等学校



(左から) 授与者・末吉竹二郎さん  
今林あかねさん、高柳菜月さん、田原幸男先生

## 表彰式



石原内閣府副大臣から内閣総理大臣賞を受賞する岐阜県立大垣養老高等学校

審査員 南沢奈央 特別賞：埼玉県立小鹿野高等学校



(左から) 授与者・南沢奈央さん  
齋藤磨銀さん、小林賢太さん、川島久直先生

「エコの環」賞：栃木県立国分寺特別支援学校



(左から) 授与者・横尾博 公益財団法人イオン1%クラブ理事長  
柳澤翔さん、篠崎美奈恵さん、宮田宜浩先生

「エコの環」賞：神奈川県立氷取沢高等学校



(左から) 授与者・横尾博 公益財団法人イオン1%クラブ理事長  
小嶋幸仁さん、駒澤理宏さん、古屋唯生先生

「エコの環」賞：徳島県立池田高等学校定時制



(左から) 授与者・横尾博 公益財団法人イオン1%クラブ理事長  
里久夢羅さん、岡崎泰佳さん、中川可奈子先生

## グランプリ大会 表彰式 & 発表紙面

### ●記念写真



表彰式を終え、晴れやかな表情の最終審査会出場者全員と審査員、来賓、関係者（2列目中央がグランプリ受賞校チーム）

### ●新聞発表



毎日新聞 2016年12月13日（火）付全国版朝刊

## 高校生らしい取り組みに感動

審査員共同代表

末吉竹二郎 氏（国連環境計画・金融イニシアティブ特別顧問）



【末吉竹二郎 氏 プロフィール】

鹿児島県出身。2003年より国連環境計画（UNEP）・金融イニシアティブ特別顧問に就任。現在、地方自治体アドバイザーや企業の社外役員を務めるほか、環境問題やサステナビリティ・CSR（企業の社会的責任）分野において、講演や執筆活動を精力的に行っている。

受賞された各校のみなさんに心からおめでとうと申し上げます。

最終審査会に進んだ14校のプレゼンテーションを聞き、2つの点において大変感動いたしました。ひとつは、地域の課題に強い関心を持っている点です。高齢者や糖尿病患者の増加といった地域課題の解決に取り組み、街おこしに貢献したいという情熱に心が打たれました。

2つ目は、それらの地域課題を、環境問題を糸口に解決しようと取り組んでいる点です。瓢箪やペットボトルなど身近にあるものを使い、課題解決と環境活動を見事に結びつけています。

2016年もまもなく終わりますが、今年もまた記録的に暑い一年でした。世界中で異常気象がもたらす自然災害に、日本を含む世界各地で多くの人が苦しんでいます。

折しも先頃、2020年以降の地球温暖化対策を定めたパリ協定が発効されました。この協定の最も大事な点は、21世紀の後半には人間はCO<sub>2</sub>を出さない、ということを決めたことです。そこに至るまでの途中経過にはいろいろあると思いますが、今日ここにいる君たちが人生をエンジョイする頃には、もうCO<sub>2</sub>を一切出さないという時代に生きていくことになります。このことは日本だけじゃない、アジアも全世界もともに温暖化と戦っていくことを意味しています。この温暖化との戦いに勝つために、君たちにこれから一生懸命取り組んでもらいたいと思います。そのことが、実は君たち自身の人生の将来を、自分の手の中にしっかり握るということに繋がると思います。

日本そして世界のために、柔軟な発想で環境活動を続けてくださることを期待しています。

## 受賞校の活動と選評

### 内閣総理大臣賞

受賞校：岐阜県立大垣養老高等学校／瓢箪倶楽部秀吉

活動テーマ：グリーンカーテンに革命を！ 冬でも楽しめる瓢箪グリーンカーテン

#### (活動内容)

かつては地域の特産品であった瓢箪ですが、農家の高齢化や後継者不足でその生産規模が大幅に縮小してきました。そこで同校では有志によるサークルを設立し、栽培手法や工芸品製作技術の継承を目的として、夏場はグリーンカーテン栽培、冬は実った瓢箪をイルミネーションに加工することで、町ぐるみでのエコ活動となることを目標に活動を行ってきました。

今年度は役場やNPOの協力のもと、苗2000株の無料配布を行い、町全体で瓢箪グリーンカーテンへの取り組みを実現。その成果をコンテスト形式で評価することで、普及拡大にも努めました。

またLEDを利用した瓢箪イルミネーションでは、町民のみ

ならず、ドイツ人留学生もふくめ年間で総勢1000名を超える参加者を集め、町の活性化にも貢献しています。

今後は2020年東京オリンピックで採用されることを目指して活動を行っています。

#### (選評)

苦味により、食用瓢箪が食べられないという逆境になっても、グリーンカーテンやLEDの取り組みに転換して継続し、通年性を持たせられたのは良かった。プレゼンも非常にうまかった。東京オリンピックへの協力要請もうれしい話だ。

### 文部科学大臣賞

受賞校：静岡県立浜松城北工業高等学校／環境部

活動テーマ：地球にやさしいエンジニア

#### (活動内容)

環境に配慮した“ものづくり”と“ボランティア活動”を通じて、生徒自身が地球的規模の環境問題にも対応できるエンジニアとして成長しながら、多くの人々に持続可能な社会の大切さを伝えていくことを目標としています。

具体的には、地域の多くの団体・自治体等の協力のもと、生徒たちによる環境教育活動リーダーの育成や、一般市民・保護者を対象とした「PTA環境教育クラブ」、地域の小・中学生を対象とした「城北ジュニア・エコ・クラブ」を創設。エンジニアとしての“ものづくりのあり方”や市民としての“生活のあり方”から「地球温暖化」をはじめとする環境問題まで、深く考える機会を提供しています。

他にも地域に根ざした清掃活動、里山保全活動、植樹活動などを通じて、豊かな郷土の自然や地球環境、地域社会や世界の持続可能性の上に、自分たちの“ものづくり”も“生活”が成り立っていることを「普及・啓発」していきたいと考えています。

#### (選評)

25年にわたり環境活動に取り組んできた点を高く評価。ジュニア・エコ・スクールの取り組みも良い。学外での環境ボランティア活動を単位として認定する点は他の学校にもぜひ広がってほしい。

### 環境大臣賞

受賞校：徳島県立新野高等学校・徳島県立小松島西高等学校勝浦校／緑のリサイクル・ソーシャル・エコ・プロジェクト

活動テーマ：緑リサイクルモデル「資源循環型肥料の開発」から環境創生へ

#### (活動内容)

先輩たちが開発した、河川や道路・公園等の維持管理で発生する「刈草」を100%活用した資源循環型の土壌改良肥料「もったいない2号」を使用し、資源循環型・脱炭素社会に向けた次の一手として「パッションフルーツ」を使った緩和策・適応策に地域と連携して取り組んでいます。

従来グリーンカーテンといえば「ゴーヤ」や「アサガオ」が広く知られていますが、産業として成立するまでにはなかなか至りません。

そこで徳島県が抱える糖尿病患者数が多いという課題に対して、血糖値を下げる期待がもてる「パッションフルーツ」に着目。「健康と環境」をキーワードに、グリーンカーテンから収穫の喜

びを生み出しつつ、新しい果樹産地としての6次産業化から地域雇用につながる町おこしを目標に取り組んでいます。

地域の疾病問題の解決にも貢献し、「誰でも」「どこでも」「楽しみながら」取り組めるエコ活動として、徳島から「温暖化に負けない街づくり・人づくり」を全国に発信していきます。

#### (選評)

刈草のリサイクルによる肥料づくり、そこから健康をテーマにした展開の二段構えは秀逸で、しかも成果を上げており、学外への広がりも認められる。さらに地域の雇用につながったという発表はこれまでなかったのではないかな。

## 審査員賞選評

### 審査員 C.W. ニコル 特別賞

受賞校：エクセラン高等学校（長野県）

活動テーマ：がらすαの河川・里山整備と

あまのじゃくのエコ活動



【プロフィール】英国ウェールズ生まれ。カナダ、エチオピア他世界各国で自然に関わる仕事に従事。1980年から長野県黒姫に居住し、執筆活動を始める。黒姫高原の荒れた里山を購入し「アフアの森」と名付け、里山の再生運動を展開しエコツーリズムを実践するなど、ナチュラリストとして知られる。

どんな問題でも話題でも、異論について考えたり、ディベートしたりして、フレキシブルに物事を考える必要があると思っていますが、この学校は幅広い環境問題に取り組みながら、議論ができることにホッととしてフレッシュな気持ちになりました。

一度立ち止まって考えるところがいいと思います。ペットボトルは買わないでその分を寄付したらどうか、など面白かった。僕の採点には、面白い、楽しいと思ったところには点数がプラス2になっています。

それに対して評価を低くしたものは、考えが幼い点です。もうちょっと深く考えてほしい。環境番組などで、いま一番新鮮さを感じるののはアフリカです。何も無いから必死に考えていることを感じます。みんなももう一歩踏み込んで考えてほしい。

### 審査員 末吉竹二郎 特別賞

受賞校：佐賀県立佐賀商業高等学校

活動テーマ：みんなではじめる「e-coねつと」ごみ減量化作戦



【プロフィール】鹿児島県出身。2003年より国連環境計画(UNEP)・金融イニシアティブ特別顧問に就任。現在、地方自治体アドバイザーや企業の社外役員を務めるほか、環境問題やサステナビリティ・CSR(企業の社会的責任)分野において、講演や執筆活動を精力的に行っている。

この学校の取り組んでいることで今回一番気に入ったのは、子供たちのための紙芝居です。とても印象に残りました。マンガが素晴らしいですね。絵がとてもいい。そしてそれを小学生に君たちが教える、指導している。そこもまた、とても良かったです。こうした世代を通じた活動で、次の世代になにを教えるか、これが非常に大事です。ぜひこの伝統を継続していただきたいと思います。

### 審査員 南沢奈央 特別賞

受賞校：埼玉県立小鹿野高等学校

活動テーマ：2つのエコ活動から広がる絆

～鹿高生の小さな努力～



【プロフィール】2005年にスカウトされ芸能界デビュー。以後、数々のテレビ、映画、舞台などで活躍、主な出演作にドラマ「社長室の冬」、大河「軍師官兵衛」。現在はNHK Eテレ「サイエンスZERO」のナビゲーターとしても活躍。

エコキャップの回収と手作りはがきというシンプルな活動の中に、すごく温かさや優しさを感じました。そして環境に良いからってうだけじゃなくて、東日本大震災の被災地のためとか、地元の高齢者の皆さんのために、という、誰かを想う気持ちを持ちながら活動しているのがすごく素敵だなと思いました。

そしていろいろなところに足を運んで、ペットボトルキャップの回収箱を設置したり、それを回収しに行ったり、また地元の高齢者の方に会いに行ったりとか、行動して輪を広げていることもすごく印象的でした。

ぜひこれからも環境にだけでなく、人にも優しい活動を続けていってほしいと思います。

### ベストプレゼンテーション賞

受賞校：岐阜県立大垣養老高等学校

活動テーマ：グリーンカーテンに革命を！

冬でも楽しめる瓢箪グリーンカーテン

最終審査会出場全14校および招待校9校の担当先生の審査により選出されました。選考の基準は、①プレゼンテーションの構成が優れている ②画像(パワーポイント等)の処理がすぐれている ③発表態度が堂々としている ④声が聞き取りやすい ⑤チームワークがとれている ⑥質疑応答の答えが的確、等。

※各賞との重複を妨げません。※自校は選考対象外としました。





<b>岐阜県立大垣養老高等学校</b>			
〒503-1305 岐阜県養老郡養老町祖父江向野1418-4 ☎0584-32-3161			
活動団体	瓢箪倶楽部秀吉		
主な活動時間	休み時間や放課後	活動人数	8人
最終審査会発表生徒	河瀬 紗稀乃(2年) 野村 姫威(1年)	担当教諭	青木 祐太

## グリーンカーテンに革命を！ 冬でも楽しめる瓢箪<sup>ひょうたん</sup>グリーンカーテン

### 【目標・今後の計画】

「孝子伝説」で有名な養老町は、伝説にも登場する瓢箪の工芸品が特産で、瓢箪農家が数多く存在していたが、高齢化や担い手不足によりその数は激減。そこで「瓢箪倶楽部秀吉」という有志のサークルを立ち上げ、瓢箪栽培の手法と工芸品製作技術を次世代へとつなぐさまざまな活動を行ってきた。

その中で、夏は瓢箪をグリーンカーテンとし、冬は実った瓢箪をイルミネーションに加工し、一年中楽しむことで普及させることを考えた。そしてこれを町全体のエコ活動に広げるプロジェクトを実行した。

今後は世界中に瓢箪グリーンカーテンを発信するとともに、総務省から提案していただいた2020年東京オリンピックでの瓢箪グリーンカーテン&イルミプロジェクトを成功させることが目標である。



### 【活動内容】

#### 1. 食用瓢箪栽培と加工品開発

新たな町の特産品となる食用瓢箪を使った加工品開発を行った。地元の町おこしNPO法人から苗を提供していただき、学校で栽培。養老町役場と連携して「瓢箪バーガー」を考案。

#### 2. 活動の断念

食用瓢箪に苦みがあるという新聞報道があり、瓢箪

倶楽部の活動を一時断念した。ただし瓢箪の栽培だけは継続した。

#### 3. 瓢箪イルミネーション

苦みにより食用にすることができなくなった食用瓢箪の利用を検討した結果、瓢箪をくりぬきLEDを仕込んでイルミネーションにするプロジェクトを新たに立ち上げる事となった。町役場とNPO法人、瓢箪倶楽部の三位一体町おこし同盟を発足させ、養老鉄道の駅や役場、学校などでイルミネーションを設置し、鉄道利用者や観光客にPRすることができた。またテレビやラジオ、新聞報道があり、認知度が高まった。2016年11月には養老公園に1500個の瓢箪イルミを飾り付け、点灯式には県知事にもお越しいただくことができた。

#### 4. 高校生朝市

養老駅にて実習製品を販売する高校生朝市を開催した。パンやジャム、味噌などを並べたところあっという間に完売。鉄道利用者や周辺住民の方に大好評で、鉄道活性化につながると確信した。今年のシルバーウィークには私たちの活動に賛同していただいた鉄道沿線の高校が集い、高校生デパートに発展した。

#### 5. 養老駅でのインターネット番組による情報発信

NPO法人が養老駅舎内を改装し、インターネット、地元ケーブルTV向けに番組を放送できるスタジオを開設。私達は企画から放送まで全て高校生だけで行う「High School Yeah!」という番組を立ち上げ、月に1度町おこし番組の放送を実施。今までに20回の放送を終えたが、全国各地から視聴コメントをいただいております。YouTubeの再生回数は計3000回にのぼる。

#### 6. 瓢箪グリーンカーテンプロジェクト

昨年、今までの活動の成功を受け町長を表敬訪問した際、私たちが指導役となり幼稚園や小・中学校、役場、老人ホームなどで瓢箪の普及活動を行うこととなっ

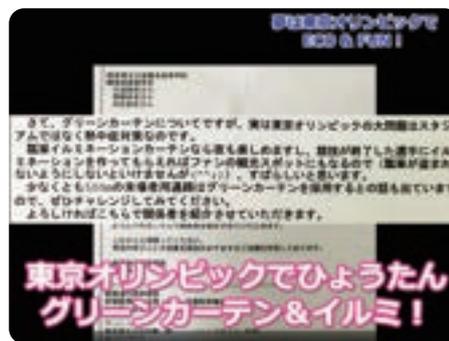
た。そこで、ただ栽培を行うだけでなく、夏場はウリ科の特性を生かしたグリーンカーテンとして、冬場は乾燥させた瓢箪をイルミとして使用することで、一年中瓢箪を楽しむことができる全く新しいグリーンカーテンとして展開するプロジェクトを新たに立ち上げる事となった。早速、昨年私達が学校で栽培した瓢箪を持参し、幼稚園や小学校、一般の方向けに瓢箪イルミ製作会を実施したところ大好評であった。

今年は苗の配布からカーテン設置、イルミまでを一貫して行う計画を立て、収穫した瓢箪を食べる際の安全性を確保するため純系選抜法による育種も行った。今年の5月、NPO 法人と役場の協力のもと、瓢箪の苗を1300株用意し町民に対して無料配布を行った。用意した苗はすぐに無くなり、追加分も合わせて2000株以上の苗を配布した。幼稚園や小学校では私たち秀吉が児童と一緒にグリーンカーテンの設置を行うことで、環境保全の大切さや郷土愛、町の瓢箪文化を次世代へ伝えることができた。冬には収穫した瓢箪で地域の方と一緒にイルミネーション製作会を実施。また、全世界対象の「瓢箪カーテンコンテスト」を開催し、瓢箪の普及と夏場のエコ促進を目指した活動を展開した。



## 【成果・実績】

1. 苗2000株を町民に配布し、一丸となって瓢箪グリーンカーテンを実施。
2. 養老公園で実施した瓢箪イルミネーションに1万2000人以上の来場者があった
3. 役場やNPOと協力し、全世界対象のコンテストの開催で瓢箪グリーンカーテンの普及に貢献した。
4. 瓢箪イルミ製作会を開催。幼稚園児や小学生、一般の方、ドイツ人留学生など総勢1000名を超える方に参加していただくことができた。
5. 養老駅特設スタジオより高校生手作り町おこし番組をインターネット配信。活動を世界へと発信した。
6. 今年6月、全国版の新聞記事で4回にわたり活動が紹介された。また、9月にはNHKの旅番組「のんびりゆったり路線バスの旅」で活動が紹介された。ほかにも地元情報誌やラジオ、テレビ、新聞で何度も紹介され、瓢箪グリーンカーテン&イルミプロジェクトの普及に貢献することができた。
7. 総務省から東京オリンピックでの瓢箪グリーンカーテン&イルミプロジェクトの実施を提案され、協力していただけることになった。



### ●活動にあたり創意工夫したこと

食用瓢箪でイルミネーションを手作りし、学・民・官の三位一体で町おこしを行ったこと。

### ●活動の際に苦労したこと

町内で苦みの強い食用瓢箪の実が発生したという報道があり、学校で食用としての利用を断念した。そんな状況で、再び瓢箪で町を盛り上げる「瓢箪グリーンカーテンプロジェクト」を始めたが、最初は見向きもされない状況だった。しかし、幼稚園や小学校でイルミ製作会を実施することで次第に地域の方に目を向けてもらえるようになり、今では多くの町民の方に活動を支援していただけるようになった。

## 活動の環をを広げよう 出場者からの提言

◎私たちはNPO法人ヨロストに協力していただき、養老駅スタジオから自分たちの活動を紹介するネット番組を放送しています。夏はグリーンカーテンとして、冬はイルミとして一年中楽しめる瓢箪の魅力をPRし、世界中で瓢箪を育ててもらえるようこれからも積極的に情報を発信していきます。(河瀬 紗稀乃・女・2年)

◎エコワングランプリに出場して、他校の特色あるさまざまなエコ活動について知ることができ、大変勉強になりました。参考となる取り組みは早速自分たちの活動に反映したいと思います。もうすぐ私たちにも後輩ができるので、今回の大会で得たものを共有し、瓢箪倶楽部秀吉の活動をさらに進化させていきたいです。(野村 姫威・女・1年)



<b>静岡県立浜松城北工業高等学校</b>			
〒430-0906 静岡県浜松市中区住吉5-16-1 ☎053-471-8341			
活動団体	環境部		
主な活動時間	休日や放課後、部活動として	活動人数	60人
最終審査会発表生徒	中谷 優介(3年) 平山 輔信(3年)	担当教諭	飯尾 美行

## 地球にやさしいエンジニア

### 【目標・今後の計画】

私たちは、「地球にやさしいエンジニアの育成」を教育目標に掲げ、1991年より地域の多くの団体・自治体等と協力する中で実践的な環境教育活動に取り組んでいます。95年には生徒による環境教育活動のリーダーを育成する「環境クラブ」(延べ約500名/現:環境部)を創設し、99年には一般市民・保護者を対象とした「PTA 環境教育クラブ」(延べ約1000名)、そして、地域の小・中学生を対象とした「城北ジュニア・エコ・クラブ」(延べ約4000名)を創設しました。

私たちの活動の目標は、自然や環境に配慮した“ものづくり”と“環境ボランティア活動”を通して、大切な地域の自然を守り社会貢献に取り組むことです。またその中で、地球的規模の環境問題についても積極的に対応できるエンジニアとして成長し、自らの行動を通して友人や若者たちにも広く共感の輪を広げながら、多くの人々に持続可能な社会の大切さを伝えていくことです。

今後の計画としては、工業高校の生徒であるからこそ、エンジニアとして“ものづくりのあり方”や、市民としての“生活のあり方”について、また、地球温暖化問題をはじめとする環境問題についても、高校生の立場から環境部の活動を通して、広く一般市民の方々に深く考える機会や窓口を設けたいと考えています。

具体的には、年間を通して行われる環境ボランティア活動を通して、豊かな郷土の自然や地球環境、地域社会や世界の持続可能性の上に、私たちの“ものづくり”も“生活”もすべて成り立っているという、極めて重要な「気づきのプロセス」を郷土の自然や社会の持つ教育力と協力しつつ「普及・啓発活動」に取り組んでいきたいと願っています。

### 【活動内容】

本校の取り組みとしては、全国の高校に先駆けた「環境教育宣言」(2000年)、国際規格「環境マネジメントシステム(ISO14001)」内部監査員養成研修の実施(2009年、383名修了)、また、静岡県下初となる環境ボランティア活動の単位認定(2001年:延べ323名認定)、地域の小・中学生を対象とした「城北ジュニア・エコ・スクール」(延べ4000名来校)、一般市民対象の「地球温暖化セミナー」などがあります。こうした数多くの「学校教育による環境教育モデル」を環境部員が中心となり、地域社会に発信してきました。

2015年4月から現在までの具体的な活動としては、以下のとおりです。

1. 郷土の美しい自然を守るため中田島砂丘・浜名湖等のクリーン作戦、および椎ノ木谷等を中心とした佐鳴湖周辺の生態系の回復を目指す里山づくりによる環境ボランティア活動。
2. 環境先進国デンマークをモデルに、循環型社会を目指し分別収集される校内のゴミが社会の資源となるよう、地域における「ゴミゼロの学校モデル」を目標としたりサイクル専門業者との協力による取り組み。



3. 全国の工業高校に先駆け国際規格「環境マネジメントシステム(ISO14001)」内部監査員養成コースの校内・外の普及・推進と、環境部員を中心とした取り組み(環境部の部長・副部長の3名から始まり、現在は生徒383名が修了)。
4. 地域に貢献する工業高校を目指した「城北ジュニア・エコ・スクール」、「城北の森」での環境学習(延べ約4000名が来校)。
5. 本校の潜在自然植生による「城北の森」をモデルとする、市内各所の森の整備や保全活動。浜松市が東海大地震の津波対策として建設中の防潮堤での植樹活動と森づくり(累計長3000m、9000本)。
6. 県下の工業高校の代表生徒、教員を対象とした「静岡県工業教育研究会」における「地球にやさしいエンジニア」をテーマとした研究発表。

### 【成果・実績】

1995年に環境教育活動における生徒たちのリーダー育成を目指した「環境クラブ」をはじめとした先取的な取り組みは、地道な地域社会とのかかわりの中で、多様な啓発・普及活動ができた結果であると考えます。

環境教育活動は、学校教育のみで完結できるものではありません。地元の企業、自治体、大学、小・中学校、自然保護団体、NPO、ライオンズクラブ、国際ソロプチミスト、新聞社、公園緑地協会など様々な地域の教育力と連携・協力する中で、初めて可能となりました。そうした取り組みを通じて、生徒たちのリーダーシップは磨かれ、地域の多くの社会教育力による善意のネットワークが構築されました。また共感の輪を地域社会に大きく広げることができたと考えます。

環境教育活動を25年間にわたり継続できたこと自体も、大きな成果であったと考えます。



#### ●活動にあたり創意工夫したこと

1. 環境教育において、その重要性・必要性に注目し、「学校教育による環境教育モデル」を地域に発信し続けたこと。
2. 学校における環境教育の推進役を先生ではなく、生徒に求めたこと。
3. 「環境クラブ」にて多くの経験の中から得た環境教育活動を、スケールアップしながら取り入れたこと。
4. 本校の本分である工業教育と環境教育を推進するための共通の目標として、「地球にやさしいエンジニアの育成」を掲げたこと。その言葉が生徒、職員、卒業生の合言葉となり、本校の教育目標のひとつとなっていること。

#### ●活動の際に苦労したこと

学校教育において、学習指導要領に規定されない教育に継続して取り組むことは極めて困難です。環境教育に興味を持たれた先生方が研鑽され育っても、転勤等により環境教育の体制の充実・維持できないのが現状です。また、環境教育では大きな予算が付かないことも苦労をする点です。

### 活動の環<sup>わ</sup>を広げよう 出場者からの提言

◎私は、浜松城北工高の環境部で3年間ボランティア活動を行ってきました。自然を通して多くの人々と交流することができました。私たちのボランティア活動は、里山づくり、海岸清掃、植樹などをするだけでなく、人と人をつなぐ「無限大の可能性」を秘めていると思います。(中谷 優介・男・3年)

◎「活動の環」を広げるために必要なことは、一人一人が「自分は地球市民である」という大切な考え方に立つことだと思います。「地域の一員」として同時に「地球の一員」でもあるという「地球市民」の考え方が広がれば、自ずと「活動の環」は広がっていくと思います。(平山 輔信・男・3年)



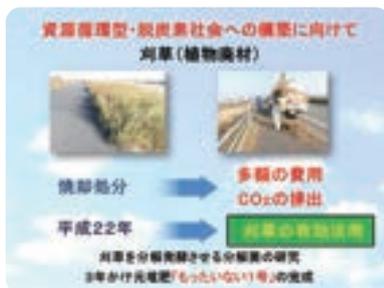
徳島県立新野高等学校 徳島県立小松島西高等学校(勝浦校)		 山田 朔実		 中川 貴登		 湯浅 正浩先生	
〒774-4305 徳島県勝浦郡勝浦町大字久国屋原1 ☎0885-42-2526							
活動団体	緑のリサイクル・ソーシャル・エコ・プロジェクト						
主な活動時間	休み時間や放課後	活動人数	54人				
最終審査会発表生徒	山田 朔実(2年) 中川 貴登(3年)		担当教諭	湯浅 正浩			

## 緑のリサイクルモデル「資源循環型肥料の開発」から環境創生へ

### 【目標・今後の計画】

河川や道路・公園等の維持管理で発生する「刈草」が植物廃材として焼却処分されていることに着目し、刈草をイノベーションした資源循環型肥料「もったいない2号」を開発しました。

資源循環型・脱炭素社会への次の一手として「健康と環境」をキーワードに「誰でも、どこでも、楽しみながら」を活動テーマに「パッションフルーツ」を使って緩和策・適応策に地域と連携して取り組んでいます。「緑のカーテン」といえばゴーヤやアサガオが知られていますが、徳島県が糖尿病ワースト県であることから血糖値を下げる効果のある「パッションフルーツ」に着目しました。この6次産業化によって地域雇用につながる地域を活性化させることを目指しています。また、温暖化防止活動を通じた環境創生を目標に活動しています。



### 【活動内容】

2010年から徳島県と連携し、3年かけて刈草100%の土壌改良材「もったいない2号」を開発しました。そして全国で初めて高校生主体の組織として肥料取締法に基づく製造業並びに販売業の営業許可を受け、毎年6tの生産を行い、徳島県のイベントや地域

での環境活動等に活用しています。

### ◆2015年度の主な取り組み

私たちは、小学校や中学校との交流や各種イベントを通じて地球温暖化防止に向けたツールとして刈草100%の資源循環型肥料「もったいない2号」を活用した啓発実践活動に取り組んできました。

特に、校種間連携を軸に小・中学校での出前授業を展開してきました。そして、異年齢間交流についても園芸教室等を開催するなど温暖化防止に向けた室内緑化や緑のカーテン栽培についても啓発実践活動に取組みました。

さらには、さまざまな業種の皆さんとの交流も積極的に行い、中でもプロ野球四国アイランドリーグに所属する、徳島インディゴソックス球団との連携は、四国4県の公式戦を通じて来場者に私たち自身の声で地球温暖化防止に向けた啓発と地球にやさしい暮らしの在り方の情報を発信することができました。

さらに、徳島県の玄関であるJR徳島駅前をお借りして県民の方々への啓発も行っています。

### ◆2016年度の主な取り組み

2015年度の活動から、今後予想される気候変動や地球温暖化への影響についての出前授業を中心に地球温暖化防止に向けた実践活動に取り組んでいます。

そして、徳島県で開催された徳島環境フォーラムや第11回全国3R推進全国大会等を通じて、地球環境に優しい暮らしの在り方についての情報を県内外へ発信しています。

徳島県は、西日本でも有数の温州ミカン産地です。しかし、このまま温暖化が進むと産地としてのミカン栽培が維持できなくなる恐れがあります。そこで、私たちは、次の一歩、次の一手に向けてミカン産地に代わ

る新しい産地づくりに取り組んでいます。

この取り組みは、トロピカルフルーツの一種である「パッションフルーツ」の栽培を通じて、「誰でも」「どこでも」「楽しみながら」を活動テーマに、コンテナ栽培から「どこでも」を、そして、栽培を私たち高校生がサポートすることで「誰でも」が、収穫した果実を地元の道の駅で販売することで「楽しみ」をもって温暖化の緩和策・適応策にもなる新しい産地づくりを提案しました。町を挙げての活動になり、温暖化に負けない街づくり・人づくりにつながってきました。

今年から夏休みに小松島・勝浦地区の高校5校の生徒たちが集まり徳島県警小松島警察署と連携した「緑のカーテン」の啓発に発展してきました。そして、明るい街づくり活動と兼ねて実践することができました。私たちは、一人一人の環境問題への意識の違いをスタートに、その課題を共有し地球温暖化防止に向けた実践活動に取り組んでいます。

これからも、一人一人が地球温暖化防止活動のトップランナーとして未来の地球を守ります。

### 【成果・実績】

現在、地区代表者12人と連携してコンテナを使った「パッションフルーツ」の緑のカーテンを栽培しています。そして、勝浦町役場をフィールドに役場南面全面に緑のカーテンを設置しました。また、身近なところから取り組める温暖化対策を発信するための高校生による出前授業は延べ20回を超え「もったいない2

号」の配布数は5000袋を超えました。

このエコプロジェクトを通じて、植物廃材としての「刈草」を資源として捉える意識が芽生え、何よりも「刈草」という身近な資源が自然保護につながることを伝えることができたと感じています。

次年度(平成29年度)は、この資源循環型肥料の生産に向けて徳島県が主体となり4人の地域雇用が計画されています。これは高校生の取り組みが行政を動かし、環境産業として雇用を生み出すという大きな成果がありました。今後は、雇用を通じた環境創生でさらなる啓発実践活動に取り組み、身近な資源が自然保護につながることを全国に発信していきます。

そして、地域の産業(温州ミカン)に代わるパッションフルーツ栽培を通じて、徳島県の課題である糖尿病対策に貢献する緑のカーテン栽培を啓発し、徳島から「温暖化に負けない街づくり・人づくり」を全国に発信していきます。



#### ●活動にあたり創意工夫したこと

先輩から引き継いだ活動を継続するにあたり、たくさんの方々に関わっていただきました。感謝の気持ちを持つとともに、一人一人の環境問題に対する意識の違い・課題を共有するようになってきました。

#### ●活動の際に苦勞したこと

刈草堆肥「もったいない2号」は、道路や河川・公園等の刈草が原料のため、ペットボトルのキャップやゴミくず等が多く紛れ込み、手作業で取り除くのに苦勞しています。いずれ河川等に捨てられているゴミを展示してリサイクルに向けた啓発活動にも取り組みたいです。そして街頭などで「ミニ緑のカーテンセット」を手渡す活動は、毎回緊張の連続ではじめは声が小さくなります。しかし、県民の方から「いただいたアサガオの種でアサガオを育てています」と声をかけていただき、私たちの活動から緑のカーテンづくりに取り組んでくれていることに感激しました。

### 活動の環を上げよう 出場者からの提言

◎皆さんは、どこにでもある「刈草」が資源として環境保護につながるということを知っていますか。私たちは、刈草100%の資源循環型肥料を開発しました。緑のカーテンづくりを通じて地球にやさしい暮らしを心がけてみませんか。

(中川 貴登・男・3年)

◎私たちは、地域の課題を切り口に町の活性化を目指した環境創生に取り組んでいます。人口減少や高齢化そして少子化など様々な課題が地方にあります。みなさん地域の課題を切り口にして環境問題の解決に取り組みましょう。

(山田 朔実・女・2年)



<b>エクセラン高等学校</b>		 阿南智也		 竹内久代先生	
〒390-0221 長野県松本市里山辺4202 ☎0263-32-3701					
活動団体	環境科学コース	活動人数	34人		
主な活動時間	授業の一環として、休み時間や放課後	担当教諭	竹内 久代		
最終審査会発表生徒	阿南 智也(3年)				

## ぷらすαの河川・里山整備とあまのじゃく的エコ活動

### 【目標・今後の計画】

今まで8年間、地域の河川・里山環境や生活環境から問題を見出し、外来種の駆除活動などを地域と連携して行ってきた。この活動を継続していくことはもちろんであるが、社会的な風潮や「エコ」「省エネ」とい言葉に流されるのではなく、一度基本に立ち返ることさらに持続的な地球環境を保全していく活動を始めた。この活動は、「あまのじゃくのエコ活動」「ぷらすαエコ活動」と名付けた。

あまのじゃくのエコ活動…「エコバッグ」「エコキャップ」「太陽光発電」「トイレの節水」など環境にやさしいとされているものに関して、LCA (Life Cycle

Assessment)や立場・視点の違いから検討。課題を洗い出し、何を選択するのかを考え、環境新聞を制作して配布している。

ぷらすαエコ活動…今までの保全活動について、CO<sub>2</sub>削減の視点を加えた活動にしていく。例えば河原固有種のカワラナデシコを増やす活動に対して、苗ポットを生分解性プラスチックにしてプラスチックポットについての問題提起をしたり、竹林では竹利用(竹箸・竹炭・竹チップなど)を具体的に実践しつつある。今後はさらに地域に広げていく。

### 【活動内容】

- ・植生調査と特定外来種(アレチウリ・オオキンケイギク)の駆除
  - クズの駆除
    - ⇒+αクズ蔓の利用
  - クイモの駆除
    - ⇒+α味噌漬け活用
- ・河原固有在来種(カワラナデシコ)の苗づくり、定植(繁殖)、苗配布
  - ⇒生分解性プラスチックポットの使用開始
- ・センサーなどでの野生動物の調査→駆除動物(鹿)肉や皮の利用相談(企業：山崎商店)
- ・松枯れ調査→被害木の利用を安曇野市耕地林務課、明北小学校と相談、ペン立てなどとして利用
- ・竹林の調査、整備(NPO寿さとやまクラブ)
  - ⇒竹箸、竹チップ、糠床・土壌改良・消臭用の竹パウダーとして利用、竹炭の利用を検討
- ・身近なものから見える環境問題(地域の方とのエコスクールでも実施)
  - ⇒例えば、コーヒーから見えた環境問題として、コーヒーかすを利用(乾燥させて消臭剤や除草剤として

**レジ袋の環境優良性？(1人あたり)**

レジ袋	高密度PE LLサイズ	295幅×530高×0.017厚 重量: 7.0g	CO <sub>2</sub> 排出係数: 1.169(CO <sub>2</sub> g/kg)
エコバッグ	ナイロン66	490幅×130奥×420高 重量: 175g	CO <sub>2</sub> 排出係数: 3.394(CO <sub>2</sub> g/kg)

マイバッグを持っていることが「エコ」なのではなく  
1つのマイバッグを使い続けることが大切

1袋あたり、エコバッグはレジ袋の約72倍のCO<sub>2</sub>を排出する  
1週間(10日)買い物をすると、エコバッグはレジ袋の16週間(約17年分)に相当

**ぷらすα作戦 その1  
カワラナデシコ苗を育てて増やす  
+ 配布 + ポットを生分解性プラスチックで**

生分解プラスチックポットへの  
植え替えの様子

カワラナデシコ苗配布の様子  
安曇野環境フェアで



配布)したり、フェアトレードやレインフォレストアライアンス商品を文化祭で販売(他コースで)。



トイレから見えた環境問題として、学内でのトイレトーパー節約や節水への呼びかけを実施。



学校内で「環境新聞」の発行開始

- ・学内行事との連携(クリーン大作戦・文化祭・建学の時間など)
- ・年4回のエコスクールの実施(地域の方や学校保護者の方の参加)
- ・出前講座の実施(地元小学校)
- ・地域の環境フェアへの参加で環境問題や保全活動とのつながりを伝えていく(ワークショップ)
- ・パンフレットの作成と配布(平成27年度の新しい大きな活動)→薄川をきれいにする会総会参加

### 【成果・実績】

連携機関の広がり…特定外来種の駆除活動は、これまで学校の学習の一環として細々と行ってきたが、学校全体(学校行事として)や地域、新聞社、行政に呼びかけ、連携の輪が広がってきた。地域の方の参加は

10名程度だったが、散歩ついでに駆除に加わってくださった方もいた。

里山活動については、NPO法人(寿きとやまクラブ)、長野県環境保全課、野生動物の肉利用は山崎商店、安曇野市耕地林務課の方など多くの団体と連携し、野生動物の専門家(信州大学農学部)や行政のアドバイザーが協力してくださるようになった。

アレチウリに関しては駆除の効果があまり見られないが、オオキンケイギクに関しては駆除活動を続けてきたことが分布域を狭くし、草花の勢いを弱めている実感がある。

活動を継続するなかで認知が高まり、活動中に声をかけてもらったり毎年参加している講座やフェアからは継続の声をかけてもらったり、今年は初めて地域の河川をきれいにする総会に呼ばれた。



#### ●活動にあたり創意工夫したこと

駆除と固有種カワラナデシコを増やす活動の両輪でバランスよく保全することを考えた。増やす活動でも技術を必要としない苗づくりを行ってきた。さらに今年は生分解性プラスチックの利用を加えた。

また、活動が「利用」へとつながるように工夫した。例えばクズの駆除をクリスマスリース利用につなげ、竹林の整備も竹箒などへの利用も併せて実施するようにした。またワークショップでもこの関連性を大切に説明した。

#### ●活動の際に苦労したこと

野外での活動が多く、夏の活動では時間の確保が困難であった。

自分とは違う考え方を受け入れ、全体をまとめることが難しい。リーダーの育成が課題である。また、まわりの人の意識を持続させることも難しいと感じた。

### 活動の環<sup>わ</sup>を広げよう 出場者からの提言

◎高校生活の中で行ってきた環境保全活動は、これからの自分の生活を見直すきっかけになり、実体験からの知識や仲間との協力の大切さを学ぶ場になりました。全国に、そして世界に同じ思いの仲間がいて、つながっている事に気が付きました。感謝！  
(阿南 智也・男・3年)



<b>佐賀県立佐賀商業高等学校</b>							
〒840-0804 佐賀県佐賀市神野東4-12-40 ☎0952-30-8571		今林 あかね		高柳 菜月		田原 幸男先生	
活動団体	さが学美舎	活動人数	12人				
主な活動時間	授業の一環として	担当教諭	田原 幸男				
最終審査会発表生徒	高柳 菜月(3年) 今林 あかね(3年)						

## みんなではじめる「e-co ねっと」ごみ減量化作戦

### 【目標・今後の計画】

以下の二つの目標を掲げ、活動を行いました。

1. 将来を担う子どもたちに、環境問題へ高い意識を持ってもらうこと。
2. ごみ減量は意外なところから簡単にはじめられると啓発することで、全国平均を上回る佐賀市のごみ排出量を減らし、環境マインドを持った大人になること。

持続可能な社会を目指して子どももできることを知り、大人の意識も啓発していきたいと考えています。また、今後は佐賀市バイオマス産業都市構想の活動を校外に広げることも目指しています。

### 【活動内容】

#### 1. 地元の小学生を対象に「e-coねっと」(エコ教室)を開催

IPCC4～5 (Intergovernmental Panel on Climate Change)を調査研究した私たちは、30年後の地球を想像して愕然とし、将来を支える子どもに環境マインドを持ってほしいと思いました。そこで、昨年夏から「環境を知ろう自由研究講座『e-coねっと』」を開催しています。神野小学校で昨年は7月24日に15名、今年は7月26日に11名が参加しました。

内容は高校生主導で、環境白書や子ども環境白書な

どから得た知識をわかりやすく、ゲームなどの形式にして2時間の学習を行うというものです。クイズや紙芝居など小学生が楽しみながら学べるように工夫しました。その一例として「ごみ分別ゲーム」では、小学生にごみの分別を学んでもらえるよう、高校生が手作りしたごみパネルを、ホワイトボード上で「燃えるごみ」「燃えないごみ」「資源ごみ」「粗大ごみ」に分別してもらうゲームを考えました。自分のごみパネルがどこに分別されるのか楽しみながらも真剣に考えてくれ、引率者や佐賀市環境課の方々にも高評価をいただきました。

また、共同研究に協力していただいている、佐賀市バイオマス産業都市推進課から、「佐賀わくわくサイエンス」のサポートの依頼をいただき、ユーグレナ社鈴木氏とともに活動をしました。「佐賀わくわくサイエンス」とは、佐賀市が進める藻類によるまちづくりについて、より理解を深めてもらうため佐賀市の小学生にミドリムシについて、見て、学んで、味わってもらおうというイベントです。佐賀市バイオマス産業都市推進課が開催したもので、7月29日と8月19日の2回、佐賀市エコプラザで開催されました。

私たちは、このイベントの講師である鈴木氏のサポートとして参加をし、小学生がミドリムシを顕微鏡で観察する際の補助などを行いました。このイベントを通して、小学生もミドリムシが以前より身近に感じ



られるようになったと思います。また、私たちも今回のイベントで初めて知ることが多々ありました。

## 2. 高校生エコチャレンジに参加

昨年に引き続き、佐賀市環境部が主催した「高校生エコチャレンジ」に夏休みの2週間、全校生徒で取り組みました。佐賀市のごみ排出量は、平成26年度に前年度より1748t減少しましたが、平成27年度は730t増加してしまいました。また、「一人1日あたりのごみの排出量」は、全国平均及び佐賀県平均を上回っており、引き続きごみの減量に取り組む必要がある状況です。この「高校生エコチャレンジ」は、「レジ袋を断る」「紙類を資源物として分別する」「割り箸等を断る」「マイボトルを持参」「生ごみを減らす」という簡単な取り組みで、一人あたりのごみの排出量を減らそうというものです。方法は、5つの取り組みの中から実行した内容・回数・量を記入します。取り組み期間後、ごみ減量の合計を記入し、減量した重さを計



算します。ごみの減量を意識して生活することで普段どれだけごみを出しているかを知ることができます。

### 【成果・実績】

#### 1. e-coねっと

小学生にもエコに関する身近な知識に触れてもらえました。今後も継続することでエコ意識を広げていきたいです。また、中学校や企業の方にも参加できるような企画に発展させていきたいです。

#### 2. 高校生エコチャレンジ

生徒一人一人がごみの減量に取り組んだ結果、2015年は全体で104.5kg、2016年には昨年より67.3kg多い171.8kgのごみの減量に成功しました。特に、マイボトルを持ち、ペットボトルのごみを減らす取り組みでは、2015年に55kgの減量に成功。さらなる呼びかけが必要だと思いました。また、現在家庭で排出されるごみの約4割が生ごみで、8割が水分であるといわれています。水切りで、臭いの防止や焼却時のCO<sub>2</sub>排出量も減らせます。家庭ごみは水分を十分に切ってもらおうよう呼びかけます。

今後は、エコチャレンジを夏休みだけでなく、学期に1回以上定期的に行うことで生徒の意識を高めていきたいです。また、来年度はマイバッグ、マイボトルの持参と生ごみの水切りや食べ残しなしを重点的に呼びかけ、さらに多くの量を減らせるよう努めます。

#### ●活動にあたり創意工夫したこと

1. 難しい内容を小学生にわかりやすく、楽しく学んでもらえるように環境クイズを取り入れたり、授業前に仲を深めるためにアイスブレイクを行ったりしました。
2. エコチャレンジは全国どこでも行えるものなので、多くの学校・団体に取り組んでもらうことができれば、かなりの量のごみが減らせると思います。また、この活動を企業に取り入れてもらうことでコスト意識が芽生え、一人一人の環境への意識を高めることができ、環境改善に繋がると考えています。

#### ●活動の際に苦労したこと

1. 教材の準備や授業前のレクリエーションを考えるのが大変でした。また、難しい内容を小学生にわかりやすく噛み砕いて説明することに苦労しました。エコといっても様々なものがあるので、どのような事柄を紹介すれば小学生に興味を持ってもらえるのかに悩みました。
2. 全校生徒分のデータ結果を集計するのに苦労しました。また、積極的に参加する生徒とそうでない生徒の温度差があったため、これをなくすために呼びかけ方を工夫していきたいです。

### 活動の環<sup>わ</sup>を広げよう 出場者からの提言

◎私たちが取り組んできたエコ活動を全国の高校生に知ってもらうことができ、大変良い機会となりました。また、私たち自身も多くの学校のエコ活動を知り刺激を受けました。審査員の皆様や出場者の方から頂いたアドバイスを生かし、今後もエコの環を広げていきます！  
(今林 あかね・女・3年)

◎エコワングランプリを通して様々な方々と関わり、繋がりを持つことができました。小さなエコが大きなエコに繋がるまでたくさんの時間が必要ですが、私たちの活動を今後も長く継続させるためにもっとたくさんの方々に伝えていけたらと思います！  
(高柳 菜月・女・3年)



<b>埼玉県立小鹿野高等学校</b>							
〒368-0105 埼玉県秩父郡小鹿野町小鹿野962-1 ☎0494-75-0205		齋藤 磨銀		小林 賢太		山村 瑠子先生	
活動団体	ボランティア部	活動人数	12人				
主な活動時間	部活動として	担当教諭	山村 瑠子、川島久直				
最終審査会発表生徒	齋藤 磨銀(3年) 小林 賢太(3年)						

## 2つのエコ活動から広がる絆 ～鹿高生の小さな努力～

### 【目標・今後の計画】

- ・地域と連携し、生徒の社会性の向上をはかる
- ・生徒、地域のエコの意欲・関心を高める
- ・地域のエコ活動の中核を担う



### 【活動内容】

#### ・エコキャップ回収

本校や地域の各機関に協力を依頼し、エコキャップ回収を行う。回収には、回収箱を作製・設置し、生徒が月に1～2度

アポイントをとり回収に行く。その後、キャップの分別・計量(1kg:430個で計る)を行う。そして報告書を作成し、計量結果を報告している。また、本校のホームページでも報告している。

#### ・手作りはがき

紙漉きの要領で、古紙を再生し、はがきを作製している。はがきは2枚10円



で、文化祭や地域のイベント等で販売する。手作りのあたたかみが好評をいただいている。収益はすべて東日本大震災の義援金として寄付をしている。この活動は、東日本大震災後に「離れている場所だが、私たちに何かできる活動はないか?」とエコ活動と被災地支援を組み合わせて生まれた。大きな額にはならないが、コツコツと小さな努力を積み重ねている。

### 【成果・実績】

#### ・エコキャップ回収

27年度は地域の24カ所に協力していただき、64万1891個のキャップを回収した。地域から、28年度もぜひ継続して活動するよう意見をいただいております、その声をうけ継続している。目標は毎年度60万個を超えるキャップを回収するということだ。28年度は7月までの回収結果で28万8401個となっている。また、活動を継続するなかで本校の取り組みの認知度も上がり、協力機関も増えている。

さらに、地域のイベントの際に子供向けに「エコキャップ10個でゲームを1回できる」と呼びかけたり、エコキャップでおもちゃを作製したりして楽しくエコキャップ回収に協力できるよう工夫している。

#### ・手作りはがき

27年度は3万8056円の義援金となった。はがきを加工しメッセージカードやしおり、名刺も販売している。また、購入した方々のアイデアにより様々な方法で使用されている。本校においては、茶道部が懐紙に、華道部が壁飾りに使用した。現在、家庭科の授業でインテリアとして、ティッシュケースやルームフレグランススタンド、電気スタンドとして採用を検討中である。

警察署には、交通安全運動で採用され、交通安全標語

をしおりに書き配布した。社会福祉協議会には、単身高齢者世帯への暑中見舞いや、清掃活動の感謝状に採用された。

地域の方で絵手紙に使用している方もいる。四季折々の絵手紙をいただき、校内のトイレや廊下に飾り、



癒やしの空間ができている。長期休業ではその方を講師として招き、絵手紙公開講座を行った。地域の方々や生徒も参加し、はがきを通してたくさんの方々となることができた。さらに地域の和菓子屋からの依頼で、商品説明書に採用された。このように手作りはがきは様々なアレンジされ、活用されている。

さらに、東日本大震災の義援金としての意味を忘れないために被災地ボランティアにも出向いている。



### ●活動にあたり創意工夫したこと

エコキャップ回収…60万個以上のキャップの回収はどの学校にも負けていないだろう。地域によびかけ、主体的に取り組み、根付いてきたことが成果となって表れている。そこには生徒の小さな努力がある。

手作りはがき…いろいろなアイデアで活用され、活動として拡大している。最近では、色や厚み等も要望があり、それぞれに答えている。

### ●活動の際に苦労したこと

エコキャップ回収…分別の仕方が徹底されないことに苦労した。プルタブなどキャップ以外のものも目立つ。協力機関が増えるのはうれしいが、キャップの数も増えるため、分別に時間がかかる。部活という限られた時間、人数では回収結果を出すのに苦労がある。

手作りはがき…自然乾燥させているため、天気によって左右される。また、秋になると乾きがわるくなり作業もなかなか進まない。それを考慮して、夏休み等にたくさん作製し、ストックしている。また、薄く作製するのは難しく、厚くすると表面の凹凸が目立ってしまい苦労した。

## 活動の環を<sup>わ</sup>広げよう 出場者からの提言

◎ゴミ分別するだけでもエコにつながります。エコ活動は難しくありません。大切なことはエコ活動を続けていくことだと思います。また、小さなエコ活動でもたくさんの方がすれば大きな成果になります。皆さんも身近な小さなエコ活動をしてみませんか？  
(齋藤 磨銀・男・3年)

◎私はエコ活動を数年間続けています。続けられる理由は、身近で気軽にできるからです。電気をこまめに消したり、ゴミを分別するだけで立派なエコ活動になります。この提言から一人でもエコ活動に興味を持ち、継続する人が増えてくれればいいなと思います。  
(小林 賢太・男・3年)



<b>栃木県立国分寺特別支援学校</b>							
〒329-0412 栃木県下野市柴6-2 ☎0494-75-0205		柳澤 翔		篠崎 美奈恵		宮田 宜浩先生	
活動団体	高等部紙工班	活動人数	16人				
主な活動時間	授業の一環として	担当教諭	宮田 宜浩				
最終審査会発表生徒	柳澤 翔(3年) 篠崎 美奈恵(1年)						

## 特別支援学校のエコ活動「たかが紙パック、されど紙パック」

### 【目標・今後の計画】

紙パックの特徴は、軽量でコンパクトに折りたたむことができ、持ち運びがしやすいことである。この特徴を生かして、本校では教員や児童生徒が各家庭で消費された紙パックの回収を行っている。高等部の紙工班では、その紙パックをリサイクルし、和紙を作り、名刺や封筒、一筆箋などを製作している。文化祭や地域の直売所、毎年、イオンモール小山店で開催させていただいている「伸びゆく子供たちの作品展」で販売活動を行っている。年々、和紙の品質は向上してきており、今年度は、来年度本校で使用される集金袋の製作を任せ、活動は拡大している。

今後の目標として高品質の再生品を製作、販売し、多くの方々に購入、使用していただくことで、紙パックリサイクルの関心を高め、地球環境の維持に寄与していきたい。

### 【活動内容】

特別支援学校の職業教育として週時数10時間の作

業学習がある。本校高等部では、室内清掃や除草を行うメンテナンス班、陶器の皿や茶碗の製作をする窯業班、刺し子でふきん等の製作をする縫製班、野菜の栽培、管理を行う農業班、紙パックを原料に紙漉きから封筒や名刺の製作を行う紙工班、給食で毎日飲む牛乳パックを回収し、腐敗を防止するために中面をすすぎ、梱包してリサイクル便で出荷をする軽作業班、企業から木の廃材を提供していただき、ラックやおもちゃを製作する木工班の7つの班に分かれて学習している。

それぞれの班ごとに求められる力や身に着けられる力に違いがあることで一人一人のニーズに応じた学習を展開できる。一番の目的は「働く力」を身に付けるためであるが、リサイクルや清掃などの環境に関係する作業班もあることで環境に対する意識の向上を図れる。

### <紙工班の紙パックから和紙を作るまでの工程>

1. はさみで紙パックを切る
2. 切った紙パックを洗剤を少し溶かしたお湯で煮る



3. 紙パックの両面にラミネートしてあるポリエチレンを剥がし、パルプのみにする
4. 乾かし、パルプを約2cm角にちぎる
5. ちぎったパルプと水をミキサーに掛け、パルプ液を作る
6. 手漉きで紙を漉き、凹凸のない平らな壁面に貼り付け乾かす
7. 乾いた紙をプレス機でまっすぐにする
8. 名刺や封筒などの製品に加工する

本校紙工班の製品は、名刺、封筒、ぼち袋、お祝い袋、一筆箋、レターセットの6つである。どの製品も購入された方が贈答用としても心を込めて書かれる手紙用としても使用できる品質であると自負している。また名刺は、教員も使用していて、紙パックから作られていることを説明することで初対面の方との話題作りにも一役買っている。今後も紙パックから質の良い製品作りを行うことで、多くの方々に紙パックリサイクルの大切さを発信し、エコ活動を広めていきたい。

### 【成果・実績】

リサイクル活動のために本校の生徒、保護者、教員が紙パックをゴミとせず学校に持ってくる意識が確実に向上し、年を追うごとに回収量は増加している。

今後、活動を継続、拡大していくためには、ミキサーなどの設備を充実させることが第一優先と考える。現在、回収される紙パックを設備不足で処理できずにいるため、回収を休止しなければいけない状況である。

設備を充実させることで作業の回転率が向上し、より多くの紙パックをリサイクルすることができると期待される。

日本で使われる紙パックは年間で約45億箱、そのまま捨てればゴミになってしまう。ゴミになれば、焼却するために石油や天然ガスなどの限りある大切な資源を消費し、焼却にはCO<sub>2</sub>が発生してしまう。私たちの紙パックリサイクルは、微力ながらCO<sub>2</sub>の排出量を抑えることに貢献できている。そして、リサイクルという話題で人とのコミュニケーションを図るきっかけにもなっている。今後も私たちの製品でリサイクルの輪を広げていきたい。



#### ●活動にあたり創意工夫したこと

より多くの紙パックを回収するためにポスターを作成し、校内に掲示した。手順表を作成したり、道具を改良したりすることで特別支援学校の生徒が紙パックから質の良い製品作りを行えるように努めた。

#### ●活動の際に苦労したこと

家庭用ミキサーを長時間使用しているため約1年で故障してしまい、ミキサーがけをしたパルプの供給が不安定になることがある。生徒の紙漉きが上達することにより、パルプの消費量は増加し、パルプの需要は高まるばかりである。この状況を改善するために、ミキサーの台数を増やしたいが、予算が毎年縮小されているために十分な設備を整えることができない。

### 活動の環<sup>わ</sup>を広げよう 出場者からの提言

◎私は、すごく緊張しました。他の生徒さんが、ユーモアを交えながら、楽しく発表していたので、うまく話せるか不安になりましたが、大きな声で無事に発表できて良かったです。(篠崎 美奈恵・女・1年)

◎私たちは、牛乳パックをリサイクルし、製品を作っています。「たかが紙パック」かもしれませんが、環境を守るためには、とても大切な活動だと思います。私たちの活動が広まり、皆さんがエコ活動に興味を持っていただけたらうれしいです。(柳澤 翔・男・3年)



<b>神奈川県立氷取沢高等学校</b>			
〒235-0043 神奈川県横浜市磯子区氷取沢町938-2 ☎045-772-0606			
活動団体	ボランティア部		
主な活動時間	部活動として	活動人数	19人
最終審査会発表生徒	駒澤 理宏(2年) 小嶋 幸仁(1年)	担当教諭	古屋 唯生

## 地域交流活動から国際貢献につながる取り組みの模索

### 【目標・今後の計画】

私たちは活動のキーワードを「Think globally Act locally」とし、世界規模で考え、地域的に活動を行うことを目指した。まずは地域のために活動を行い、地域から世界規模で活動するための手がかりを模索している。活動を通して「アイデア力」をのぼし、地域交流の一環としての新たなボランティア活動を考案し続けることも目標のひとつである。また、実践して経験したことは、国際貢献・交流活動につながるようにしたいと考えている。

### 【活動内容】

持続可能な社会に対応した地域貢献のために何ができるのかアイデアを出し、活動の柱として廃油ハーブ石けんづくりを行った。

まず地域ボランティアから家庭廃油を集め、農家から借りた畑で採れたハーブを使い、手作り石けんを開発する。商品は、地域バザーで他のエコ商品とともに

販売を続け、生徒による自主運営を確立した。

なお、廃油ハーブ石けんは、途上国への提供にも挑戦した。途上国の実情を調べ、教職員、JICAと協力関係を築くことで、現在、フィリピン・ベトナム・タンザニアとの交流が可能となっている。どうしたら異文化・言語の壁を乗り越えられるかを考え、生徒自身のプロフィールや活動理念と活動内容を途上国に示すことで、NGOなどにアピールを行った。

畑では、人参、トマト、オクラ、セージ、スペアミント、カモミールを栽培している。育てた野菜でカレーを作ったり、ハーブを使ったケーキを焼くなどし、福祉施設に提供した。

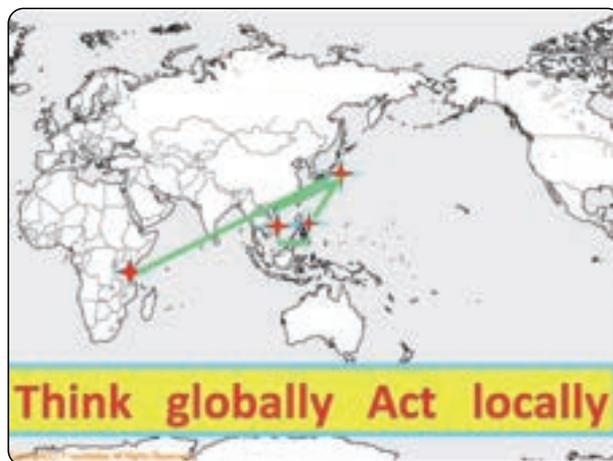
このなかでとくに力を注いだのは、健康ハーブ歯磨き粉の普及である。学校や地域福祉施設で実践させてもらい、さらにフィリピンとベトナムに提供した。今後も途上国に交流を目的とする手段として提供、提案していこうと考えている。



## 【成果・実績】

エコ活動の一環として、落ち葉集め、堆肥づくり、家庭廃油回収、畑運営、商品開発を地域ボランティアに結び付けるといふ、サイクルができた。循環型社会における教育活動・ボランティア活動としては地域交流や国際交流の拡大という結果をもたらした。

大切なことは生徒自身のアイデアと地域をよりよいものにしていきたいという想いを持つことである。そして生徒の間に小さな試みと実践を積み重ね、今後も継続的に新たな発想をしていこうという雰囲気があることである。



### ●活動にあたり創意工夫したこと

ハーブに着目したこと。特性や生育、成分を調べ、健康に役立ち、若年層から高齢者層まで幅広く受け入れられる商品開発を行うとともに、地域交流の新しい手段を模索した。

また、交際貢献活動と関連させるために、セージを主成分とした殺菌能力のあるハーブ歯磨き粉を多くの実践・実験から完成させた。この成果・過程・効能を発信したところ海外でも受け入れられた。

### ●活動の際に苦労したこと

畑の運営は初めての経験であった。土づくりから種まきに始まり、気候、収穫時期を予測し、大量の野菜カレーやハーブケーキを完成物として福祉施設に提供することは容易なことではなかった。ハーブ歯磨き粉もこの過程がなければ受け入れられていないだろう。

## 活動の環<sup>わ</sup>を広げよう 出場者からの提言

◎ eco-1 グランプリを終えて感じたことは、地域とのつながりは不可欠であり、ボランティアの可能性をどう広げていくか常に意識しなければならないということ。もちろん新しい取り組みは不安と希望が混ざりますが、未来をかえる挑戦にこれからも突き進みたいと思います。  
(小嶋 幸仁・男・1年)

◎この度の活動では、未経験のことだらけでした。石けんなんて作ったことないし、ハーブも育てたことがない。何より畑で鍬(くわ)を使用するなんて考えたこともありませんでした。それらを部員で発案し、協力して日々少しずつがんばりました。塵も積もれば山となる！  
(駒澤 理宏・男・2年)



<b>徳島県立池田高等学校定時制</b>				
〒778-8506 徳島県三好市池田町ウエノ2834 ☎0883-72-1280		岡崎 泰佳	里久 夢羅	中川 可奈子先生
活動団体	池定・地域まもり隊	活動人数	18人	
主な活動時間	授業の一環として、休み時間や放課後	担当教諭	中川 可奈子	
最終審査会発表生徒	岡崎 泰佳(4年) 里久 夢羅(3年)			

## 地域と進めるエコフレンドリープロジェクト！

### 【目標・今後の計画】

本校のエコ活動は大きく分けて次の3つの活動を行っている。

1. 大学・関係機関・地域の方を招いての環境学習
  - ・ 専門家・地域住民等を招いての環境学習
  - ・ 地域の環境についての探究的活動
2. 校内の節電・節水・ゴミの分別
  - ・ エネルギー使用量をグラフ化⇒掲示⇒評価
  - ・ グリーンカーテンづくり
3. 「池定・地域まもり隊」のエコ活動
  - ・ 地域と連携した廃油リサイクル活動
  - ・ 地域の方と協同した環境美化活動

こうした活動のうち、重点的に以下の2点を心がけながら実施した。

  - ・ 校内の節電・節水に努めること
  - ・ 地域の方とエコ活動を行うこと

### 【活動内容】

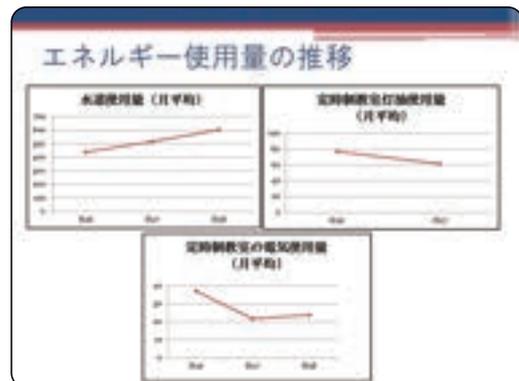
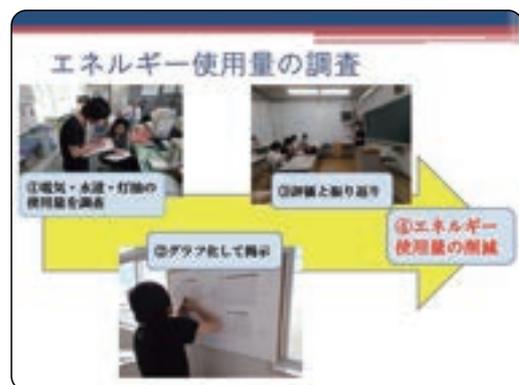
1. 大学・関係機関・地域の方を招いての環境学習
  - ・ 徳島地方気象台の方をお呼びして地球温暖化に関する授業を行っていただいた。また、徳島大学の教授には、地域の河川や水の汚染問題に関する授業を行っていただいた。



- ・ この環境学習は授業を受けるだけでなく、環境問題についての探究的活動とするために、授業を受けて課題を発見し、具体的な行動につなげるための提案を発表する機会を設けている。

### 2. 校内の節電・節水・ゴミの分別

- ・ 節電・節水・ゴミ分別を徹底した。ゴミの分別チェックシートを生徒会が作成し、校内に設けた分別用のゴミ箱には、きちんと分別ができていないか、生徒会が定期的にチェックした。
- ・ 水道には「節水」、電気スイッチには「節電」と書いたシールを貼り、注意を喚起した。
- ・ エネルギー使用量の調査を行うために、電気使用量、水道使用量、灯油使用量を毎月記録し、グラフにし



ている。そしてそのグラフをもとに評価と振り返りを行う時間を設けている。

- ・グリーンカーテンづくりでは、アサガオでグリーンカーテンを作製した。なお、育てたアサガオを利用して酸性雨調査も行った。

### 3. 「池定・地域まもり隊」のエコ活動

- ・「池定・地域まもり隊」とは、2010年に本校生徒が組織したもので、夜間に学校周辺の防犯パトロールを行ったり、交通事故や特殊詐欺被害防止を呼びかける啓発活動などを行っている。この組織でのエコ活動にも力を入れており、地域と連携した廃油リサ

イクル活動を行っている。

- ・廃油リサイクル活動は、家庭で出た植物性廃食用油を集め、地域の収集所に提供するものである。回収された廃食用油はバイオディーゼル燃料となり、地域のゴミ収集車や給食配送車の燃料などに活用されている。
- ・地域の方と協同した環境美化活動として、「池定・地域まもり隊」は地域の方と共にゴミ拾いや神社の清掃も行っている。昨年度は2回、今年度は1回行った(参加人数 36名程度)。この活動は徳島新聞にも複数回取り上げられた。今後も活動を継続してゴミ0の町を目指している。



### 【成果・実績】

- ・1学期は昨年度に比べて電気使用量を削減させることができた。
- ・地域の推進しているリサイクル活動に参加したり、地域の方と清掃活動を行うことができた。



#### ●活動にあたり創意工夫したこと

電気、水道の使用量をグラフにして廊下に掲示することで具体的に節電・節水の状況がわかるようにした。グリーンカーテン作製において、昨年度はゴーヤを用いたがうまく伸びなかったため、今年度は成長が早く、丈夫なアサガオに変更した。また、校内の落ち葉を土に混ぜ込んで作った腐葉土を用いた。

#### ●活動の際に苦労したこと

グリーンカーテン作製時に土を2階に運ぶのに苦労した。地域の清掃活動の日は、暑いなか一生懸命作業した。

### 活動の環<sup>わ</sup>を広げよう 出場者からの提言

◎114校が応募したなか、まさか選ばれるとは思いませんでした。今まで人前で発表する機会があまりなかったので、不慣れなところがありましたが、すごく良い経験になりました。質疑応答の際に指摘していただいたことを今後の活動に生かして、後輩が今後もエコワンに出場して池定を輝かせてくれたらと思います。(岡崎 泰佳・男・4年)

◎今回、エコワングランプリという素晴らしい大会に出場でき、自分たちが行っているエコ活動を発表できたことを大変うれしく思っています。エコワンに出場し、改めてエコ活動の大切さを知りました。今後もエコ活動に力を入れ、地域に貢献していきます。(里久 夢羅・男・3年)



<b>札幌新陽高等学校</b>							
〒005-0005 北海道札幌市南区澄川五条7-1-1 ☎011-821-6161		山岡 実穂		中垣 友希		田淵 久倫先生	
活動団体	アグリクラブ	活動人数	16人				
主な活動時間	休み時間や放課後、部活動として	担当教諭	田淵 久倫				
最終審査会発表生徒	山岡 実穂(3年) 中垣 友希(2年)						

## 廃棄コーヒー豆の堆肥化による再利用への挑戦

### 【目標・今後の計画】

「日本の農業界に新しい風と刺激を与える」ことが我々の大きな目標であり、その手段として「都会の農業未経験高校生」が農業だけではなく、環境問題に向き合い、解決策を模索している姿を全国にPRしていきたいと考えている。本校アグリクラブは設立から7年目に突入するが、農業経験者は0人であり、教員も農業には詳しくない。しかし、農家の方々・農業法人や一般企業の方々の理解とアドバイスで活動を継続できた。虫も触れない高校生が必死に土と戯れる姿がメディアの注目を浴び、これまでに雑誌・新聞・テレビに取材され、様々な賞もいただいた。しかし、これがゴールではなく、今後も若者の農業への熱い取り組みを全国にPRしていかなければいけないと考えている。

そんな我々が現在一番力を入れているのが、産業廃棄物の堆肥化である。堆肥化が成功した際は様々な産業廃棄物の再利用に目を向けていきたいと考えている。現在、日本の食品廃棄量は世界でも1、2位を争うほど高い。政府広報によれば、日本では年間1900万トンの食品廃棄物が出ており、これは世界の7000万人が

1年間食べていける量である。「堆肥化」の目的は「産業廃棄物の再利用」である。廃棄されるコーヒー豆を再利用し堆肥として実用化できれば、多くの企業や団体が注目するだろう。さらにその活動を主体的に行っているのが「都会の農業未経験高校生」であれば、農業界だけでなく、全国への衝撃は計り知れない。

### 【活動内容】

2015年春から、札幌市(円山・大通り)・石狩市に3店舗展開するTOKUMITSU COFFEEさんと提携し、廃棄コーヒー豆の堆肥化に挑戦している。人数はTOKUMITSU COFFEE代表 徳光康宏氏、教員3名、部員13名(3年生4名、2年生1名、1年生8名)である。

廃棄コーヒー豆(ハネモノ・使用済み品) 500～1000L袋を定期的に無償で譲り受け(合計500～1000L袋5回分ほど)、学校敷地内に堆肥場を設けた。なお、発酵を観察するため以下の5区に分け、それぞれ廃棄コーヒー豆にミルフィーユ状に散布した。

- (1)混合堆肥区：乳酸菌(ヨーグルト)・納豆菌(納豆)・酵母菌(乾燥イースト酵母)・黒糖
- (2)ヨーグルト(乳酸菌)区：ヨーグルトのみ
- (3)納豆菌区：納豆のみ
- (4)酵母(イースト菌)区：酵母(乾燥イースト酵母のみ)
- (5)対照区：未処理

(1)は5×2m、(2)～(5)は1×1m区域で用意した。(1)～(4)それぞれの区で2015年9月～2016年8月まで経過観察したところ、(1)は発酵が順調に進んでいたことが確認されたため、2016年5月から畑作物生育状況の比較観察を行った。

畑をA コーヒー豆堆肥区、B 通常堆肥区、C 未処理区の3区画に分け、共通でトマトとレタスを栽培した。





それぞれの野菜に大きな変化は見られなかったが A コーヒー豆堆肥区と B 通常堆肥区は、未処理区に比べてトマトの枝分かれ数が多いことを目視で確認した。コーヒー豆堆肥は、土壌の酸性化による作物の生育不良が懸念されていたが、現在のところ生育障害もない。

### 【成果・実績】

まだプロジェクトは完成していないが、堆肥化・実験・普及・PR 全てにおいて成果が得られている。

**資源の循環**…廃棄コーヒー豆を譲り受け、堆肥化することに成功。作物の生育にも悪影響はない。しかし、一般の人が好んで使用(できれば有料化して販売)できるように、専門機関のアドバイスやより詳細のデータを分析して表示できるレベルまで持っていきたい。

**社会貢献**…「産業廃棄物の再利用」に向き合うこと自体に学びが多く、視野を広める素晴らしい機会だと感

じている。

**PR 活動**…今後の資源循環をテーマにした世界的問題に「高校生が向き合う」ことを大々的に PR していきたい。以下の報道歴は本クラブの目標である「全国への PR」と「農業界への新たな刺激を与える」という面を達成するためにとても良いきっかけとなった。また、これらの報道を通じて素晴らしい反響と応援の声をいただいた。また、本クラブの活動が賞を受賞したことは生徒の大きな自信、今後の活動原動力となった。

### <報道歴>

北海道新聞 / 2010年9月22日 朝刊アグリクラブ活動内容

2011年2月4日 札幌ファクトリー しそジュース販売

2014年11月 札幌大学いももち販売

北海道通信 / 2010年10月21日 札幌マルシェ道庁赤レンガ販売

朝日新聞 / 2016年4月12日 アグリクラブ活動・コーヒー豆実験

専門誌 / 2013年 ニューカントリー 掲載

2013年 無料広報誌 農 STYLE 掲載

2013年 農家の友 2月号 掲載

### <表彰歴>

2011年 第3回さっぽろ環境賞

環境保全・創造部門優秀賞

2014年 第9回コープさっぽろ農業賞

交流部門奨励賞

### ●活動にあたり創意工夫したこと

一般企業や大学生との連携を多く設けることで、専門的な知識や広い視野を育成することができた。また、栽培だけでなく、加工・販売を通して流通を学び、実験や地域交流の中で環境問題、農業の本質や必要性・課題を自ら提起して問題解決能力を発掘した。

### ●活動の際に苦勞したこと

時間の捻出…機械などがなく、ほとんどが手作業なので、要領を得ない不手際が多く、タイムロスは多くあった。与えられた少ない時間をいかに有効活用するべきかを深く考えさせられた。

資金面…チャレンジしている規模が大きいく部活動費だけでは賄えないので、大学からの研究費の補助や、自ら作った作物を販売した利益を活用している。しかし、これらも普通の教育活動では味わえない貴重な経済・経営の勉強につながると確信している。

### 活動の環を上げよう 出場者からの提言

◎私たちアグリクラブが行っている廃棄コーヒー豆の堆肥化プロジェクトはまだ完成していませんが、このプロジェクトをまず地域の方へ拡散することで廃棄物を少しでも減らし、さらに簡易的に出来るし身近な事に役に立つ手段があると知ってもらえると思います。もっと農業に関心を持つ生徒が増えればいいなと思っています。(山岡 実穂・女・3年)

◎産業廃棄物の問題は決して簡単に解決できる問題ではありません。だからこそ、私たち若い世代が積極的にその解決への活路を開拓しようと、必死になって考えることが重要であると感じました。これからはより一層視野を広げ、知識を深めた上で環境問題から目をそらさず、アグリクラブの活動に励んでいきたいと考えています。(中垣 友希・女・2年)



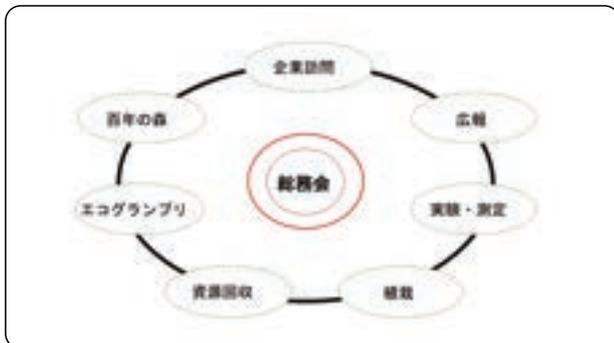
<b>埼玉県立浦和高等学校</b>							
〒330-9330 埼玉県さいたま市浦和区領家5-3-3 ☎048-886-3000		烏野 祐作		石田 優太		栗原 誠先生	
活動団体	環境委員会	活動人数	56人				
主な活動時間	休み時間や放課後	担当教諭	栗原 誠				
最終審査会発表生徒	烏野 祐作(2年) 石田 優太(2年)						

## 7つのパートに分かれた生徒中心のエコ活動

### 【目標・今後の計画】

浦和高校の環境委員会は、3学年28クラスより各2名ずつの合計56名で構成されています。実験・測定、資源回収、植栽、企業訪問、エコグランプリ、百年の森、広報の7つのパートのいずれかに全員が所属して年間を通じて活動をしています。

私たちの目標は大きく分けて2つあります。1つ目は全校生徒一人一人が何らかのエコ活動に参加するよう促すこと、2つ目は環境問題解決のための新たな方法を学ぶ機会を得ることです。今後は、新たな取り組みの発案と実践を計画しています。



### 【活動内容】

実験・測定パートの主な役割は、本校近くを流れる芝川の水質測定と校舎内の温度測定です。今年度は水質測定を休止していますが、昨年度まではパートを4班に分けて当番制で測定キットを用いて測定を行い、記録を取りファイルしていました。校舎内の温度測定は、エコ改修と呼ばれる改修工事が行われた2008年度以降に始まりました。校舎内を快適にするために施されたエコ改修の様々な工夫の効果を確認するために校舎内の場所による温度の違いを確認しています。

資源回収パートでは、全クラスにペットボトルキャップ回収の協力を呼び掛け、回収したキャップを

リサイクル業者に引き取ってもらい、売り上げをポリオワクチン購入のために寄付しています。他には、月に1回、学校で使われているコピー用紙の包装紙を回収し、それを用いてリサイクル封筒の作製を行っています。また英字新聞の回収という活動も行っています。3年生の全クラスには英字新聞が配られています。しかし、読み終わるとほとんどが廃棄されてしまいます。そこでそれらを回収し、それを用いてバッグをつくる取り組みを行っているecoくらぶという保護者の方々による団体にお渡ししています。



企業訪問パートは、様々な企業や各種団体を訪問し、環境に関する取り組み、環境にやさしい製品の技術などを取材し、報告書にまとめて、文化祭や広報を通じて報告しています。過去に訪問した企業の例としては、フランス大使館(2012年度)、イオンモール柏店(2013年度)、戸高建設(2014年度)、埼玉大学(2015年度)、株式会社花王(2016年度)などが挙げられます。

エコグランプリパートは、電力使用量の多い私たちの高校で少しでも節電を呼び掛けるためにエコグランプリという活動を行っています。毎月、各教室に設置された機器を用いて電気利用量を確認し、特殊な計算式で得点と電気料金を計算し、広報にてランキングを発表しています。また、毎年その年の得点の合計値が

最も高かったクラスに、エコバッジの進呈も行っています。節電への意識を高めるための活動です。

百年の森パートは、平成17年(2005年)に浦和高校創立110周年記念事業として埼玉県寄居町風布でスタートした「浦高百年の森」事業に関わるパートです。本校校歌にもうたわれている埼玉の母なる川、荒川上流の森を再生し、郷土の環境保全を図ることを目的として本校OBが中心となって取り組んでいるこの事業には、OBだけでなく、在校生も参加します。本パートの主な仕事は、参加してくれる生徒を募り、そして自身らも参加して活動報告をすることです。環境を保

全するだけでなく、OBや地域の方々との交流も深められます。

広報パートは、各パートの活動の成果を、原則として毎月環境委員会が発行する「エコ通信」に載せて各クラスに掲示し、活動状況を報告しています。環境委員会の目標の一つである、「全校生徒一人一人が何らかのエコ活動に参加するよう促すこと」において重要な役割を担っています。

### 【成果・実績】

1つ目の目標である「全校生徒一人一人が何らかのエコ活動に参加するよう促すこと」に関しては、かなり達成できています。ペットボトルキャップの回収やエコグランプリなど環境委員の行う活動は全校生徒にかなり浸透してきています。

2つ目の目標である「環境問題解決のための新たな方法を学ぶ機会を得ること」に関しても、ある程度達成できています。特に企業を訪問し学習したことをレポートにする活動により、環境委員会以外の多くの人にも学んでもらう機会を作ることができています。

浦高百年の森の位置



間伐の様子



#### ●活動にあたり創意工夫したこと

本校環境委員会は様々な活動を行い、それを共有するために7つのパートに分かれています。それぞれのパートでの仕事内容は先輩から後輩へと、マニュアルなどの形で受け継いでいます。また、委員長やパート長、会計といった役員が集まって主体的に話し合う総務会を1カ月に1度開いています。パートによっては保護者やOB、地域の方々との連携・協力があるのも特徴です。

#### ●活動の際に苦勞したこと

全校生徒に環境委員の活動を周知させるため、広報パートが環境通信を各クラスに配布したり、文化祭で各パートが展示、発表に取り組みましたが、一部の人にしか伝えられていない現状があります。全校生徒の意識を向上させるにはどう行おうかが一番苦勞したことであり、今後の課題でもあります。

### 活動の環を<sup>わ</sup>を広げよう 出場者からの提言

◎今回、エコワングランプリの最終審査会に参加させていただいたことで、身近な問題を多様な視点で捉えることの大切さを学びました。他校のみなさんの独創的かつ賢明なエコ活動を参考に私たちも自分たちにしかできないような活動を目指して今後も精進していきます。(石田 優太・男・2年)

◎私たちは、全校生徒にエコの意識を持つように促すという形で活動しています。より多くの生徒に発信するためにこの場で学んだことを生かして活動の幅を広げていきたいと思っています。そしてこの環境委員会を次へ受け継いでいきたいと思っています。(烏野 祐作・男・2年)



<b>岐阜県立坂下高等学校</b>			
〒509-9232 岐阜県中津川市坂下624-1 ☎0573-75-2163			
活動団体	家庭クラブ		
主な活動時間	授業の一環として、休み時間や放課後	活動人数	250人
最終審査会発表生徒	古幡 遼(2年) 市岡 美乃理(2年)	担当教諭	可知 美千代

## みんなでリサイクル！「健康棒」「プランター」で笑顔がいっぱい

### 【目標・今後の計画】

8年間続いているリサイクルグッズ「健康棒」の作製を今後も続けて、地域のあらゆる世代に広げていきたいと思えます。また、「花いっぱい運動」は現在校内での活動にとどまっていますが、今後は駅や公共トイレなど地域の主要箇所に設置していき、ペットボトルのプランターづくりや花を植える活動を地域の方と一緒に、運動をさらに広げていきたいです。

### 【活動内容】

#### 資源のリサイクル活動…「健康棒」の作製

本校は平成20年より、ペットボトルのキャップ収集を行ってきました。この活動は平成19年度、ペットボトルキャップが発展途上国の子どもたちへのワクチン接種につながるという新聞記事を見た一人の生徒の呼びかけがきっかけです。

キャップの収集を始めたころ、市役所より中津川市内の米寿をむかえる方への贈呈品を考案してほしいと依頼を受けました。「お金をかけずに、高校生が心を込めて手作りできる品」という条件があり、リサイクル、エコという観点で知恵を出し合い、考案されたものが、健康棒です。

これは、新聞の折り込み広告を対角線の長さに細く巻いた物を35本ほど束ね、両端にボンドでペットボトルのキャップをつけて、ビニールテープを螺旋状に巻いたものです。それ以来、全校生徒で作製し、毎年提供を続け今年で8年目を迎えます。

健康棒は、ヨガの先生のご指導を得て、健康棒体操を考案し、公民館で地域の方に講習会を行ったり、デイサービスセンターでのレクリエーションとして活用しています。また 東日本大震災の被災地の方々へも届けられ、健康棒体操の講習会を開いてくださいまし



た。また、子どもたちの遊具としても楽しむことができます。輪投げや輪つなぎリレーなど、幼児から高齢者まで遊具としての使い方も提案してきました。

今年は健康棒を650本作製し、市の高齢支援課に提供しました。また、敬老の日には、本校生徒代表者が市内の米寿を迎えた方に直接贈呈をしてきました。

#### 資源のリサイクル・花いっぱい運動

##### …オリジナルプランターでの花の栽培

今年度は、ペットボトルもリサイクルしようとプランターづくりの活動を始めました。スペインのパティオ祭りにならない、オリジナルプランターを使い、予算をかけずに校舎内を花でいっぱいにと計画しました。

まず、家庭クラブ委員と環境美化委員が2リットル



ペットボトルを用いてオリジナルプランターを作製しました。その際、ペットボトルを2cm角にカットして、油性ペンで着色したものを加熱し、ペレットを作製しました。ペレットはプランターの給水部分に入れ、カラフルになるよう工夫しました。また、タオルを細く切って水を吸い上げるように底に差し込み、テープで固定しました。このプランターに花の苗を植え、水をかけるとペットボトルの底の部分に水がたまるしくみです。これは水切れの心配が少なく、学校が休みの日にも水やりの必要がありません。

### 【成果・実績】

平成27年度、岐阜県家庭クラブ連盟指導者講習会で県下の家庭クラブ員に、作り方の講習や健康棒を使った体操を伝達し各校での実践につなげました。平成28年度は10月、11月に地域で行われる福祉健康まつりや本校行事の「乳幼児の親子交流会」で、健康棒の作り方や体操、健康棒を使った遊び方の講習会を行います。また、ペットボトルのプランターは、花を植え家庭クラブの大会でステージを華やかに装



飾する予定です。(10月25日予定)

岐阜県下の高校の生徒、教員が約250名参加するイベントでは、プランターを階段や通路に設置し、「通路や階段のプランターの花に心が温まりました」など感想が寄せられました。

今後もさまざまな世代にペットボトルや折り込み広告のリサイクル方法を普及したいです。また、ごみの減量やキャップ収集運動をさらに広げていきたいです。

#### ●活動にあたり創意工夫したこと

全校生徒が一丸となり広告やキャップを収集し、「健康棒」を作製する取り組みを継続してきたことで、地域に貢献することができています。また、平成28年度新たに始めた花いっぱい運動を通して、ペットボトルを余すことなくリサイクルし、心豊かな学校生活が送れるよう試みています。

#### ●活動の際に苦労したこと

「健康棒」の作製にはたくさんのキャップと折り込み広告が必要です。収集には、地域の住民の方にも協力を求めました。これは活動に関心を持っていただくことやアピールにもつながりました。

### 活動の環を上げよう 出場者からの提言

◎今回エコワングランプリに出場する機会をいただき、全国の高校生仲間がさまざまなアイデアでエコ活動に取り組んでいることを知り、よい刺激を受けました。本校の活動の特に「健康棒」はオリジナリティーと継続という点では誇れるものがあると思います。これからも続けていきたいです。(古幡 遼・女・2年)

◎本校の「健康棒」は、今年度も作り方や使い方の広報を行ってきましたが、これからの高齢社会に「健康棒体操」や「レクリエーション用具」として、さらなるアイデアを加えて普及に努めていき、エコの環を広げていきたいです。

(市岡 美乃理・女・2年)



<b>兵庫県立神戸商業高等学校</b>			
〒655-0038 兵庫県神戸市垂水区星陵台4-3-1 ☎078-707-6464			
活動団体	理科研究部		
主な活動時間	部活動として	活動人数	10人
最終審査会発表生徒	森光 春平(1年)  本山 将也(1年)	担当教諭	石川 正樹

## 西舞子海岸の漂着ゴミ回収

### 【目標・今後の計画】

私たち理科研究部は、神戸市垂水区にある西舞子海岸で毎月1回漂着ゴミの回収をしている。この海岸は明石海峡のすぐ西に位置しているが、観光地ではないので人の出入りはあまりない。一方で、バーベキューや花火を楽しんだ後、ゴミの捨て場に困りそのまま放置していく利用者が後を絶たない。漂着ゴミの回収については、私たちや地元の人たちのボランティアによる清掃活動に頼っている状態にある。

このような海岸はいたるところにあるので、今後、毎月1回の西舞子海岸でのゴミ回収を継続しつつ、インターアクトクラブ等の清掃活動に参加し、少しでも多く海ゴミを回収すること、海ゴミに取り組んでいる団体との連携を図ることを計画している。また、漂着ゴミに含まれるペットボトルを用いて、海外製の海ゴミがどのようにして西舞子海岸にたどり着くのかも調べている。こうした私たちの漂着ゴミの回収活動と調査研究の成果を、高等学校総合文化祭自然科学部門はじめ「瀬戸内海をを考える高校生フォーラム」などの研究発表会で発表することで、海ゴミ問題について知ってもらうことも目標としている。

### 【活動内容】

この夏で、西舞子海岸の漂着ゴミの回収を始めてまる3年となった。現在も毎月1回の漂着ゴミ回収活動が続け、西舞子海岸以外の場所でも調査研究を兼ねた清掃活動を行っている。これまでに理科研究部で持ち帰った漂着ゴミは45Lのゴミ袋150袋以上。それに含まれるペットボトルは4000本以上となった。昨年は部員10名で活動していたが、3年生が卒業し、新たに1年生が4名入部することで、活動を継続できるようになった。

この活動を始めて以来、尼崎小田高校が主催する「瀬戸内海をを考える高校生フォーラム」に生徒実行委員として参加している。生徒実行委員は兵庫、大阪、広島県の7つの高校で組織され、昨年のフォーラム実施においては、14校70名以上の高校生が集まり研究発表やパネルディスカッションが行われ、理科研究部も研究発表、ディスカッションの司会として参加した。また、このフォーラムの各校調査の一環として、理科研究部で愛媛県、香川県、広島県、大分県での海岸漂着物調査を行った。そして、部活動の合宿等で、和歌山県、徳島県でも漂着ペットボトルの回収を行った。



2015年度のエコワングランプリ近畿ブロック発表会で豊岡総合高校インターアクトクラブと知り合うことができ、2016年3月と7月に行われた竹野海岸の漂着ゴミ清掃活動に参加することが出来た。また、定点調査地点としている西舞子海岸で清掃活動をしている西舞子一丁目自治会があると知ったので、町内会の幹事さんと連絡を取り、今年の夏から理科学研究部も清掃活動に参加するようになった。

### 【成果・実績】

昨年度と本年度で45Lゴミ袋100袋以上、そこに含まれるペットボトル2600本以上の漂着ゴミを回収した。また、漂着ペットボトルを用いた海外製ペットボトル(海ゴミ)の漂流ルートの解明の調査研究を以下の研究会、学会などで発表した。

2015年10月 第15回漂着物学会徳島大会

(於：阿波海南文化村)

11月 第4回『AEON eco-1 グランプリ』

近畿ブロック大会(於：イオンモール京都)

11月 第38回兵庫県高等学校総合文化祭自然科学部門発表会(於：バンドー神戸青少年科学館)

11月 第5回海の環境を考える高校生フォーラム(於：環境学園専門学校)

12月 小中高生の探究活動発表大会

(於：京都大学総合博物館)

2016年1月 第11回世界閉鎖性海域環境保全会議

(EMECS11) 青少年環境教育交流プログラム 第2次選考会(於：兵庫県民会館)

7月 Science Conference in Hyogo

(於：神戸大学統合研究拠点)

なお、以下は、2015年11月の第38回兵庫県高等学校総合文化祭自然科学部門発表会のポスター発表要旨である。

「海外製ペットボトルはどこから来たのか」

昨年度の発表で西舞子海岸には海外からの漂流物が流れ着くことを報告した。本年度はさらに調査地点を増やし、八重山諸島小浜島、和歌山県南紀白浜、愛媛県伊予市でも漂着したペットボトルを収集した。そしてバーコードと使用されている文字から生産国を調べた。対馬海流が流れる日本海側では海外製ペットボトルが42%を占めた。この流れが関門海峡を通るならば、瀬戸内海は西に行くほど海外製の比率が高まるはずである。しかし、大阪湾と伊予灘(伊予市)で見つかった海外製ペットボトルは、播磨灘ではほとんど見つからなかった。また、伊予灘、播磨灘でほとんど見つからなかった韓国製品が、八重山諸島、白浜、大磯で見つかったことから、西舞子海岸に漂着する海外製のペットボトルは瀬戸内海を西から流れ着くのではなく、黒潮に乗り紀淡海峡を通ると推定した。



#### ●活動にあたり創意工夫したこと

清掃活動だけでなく、漂着ペットボトルを用い、海ゴミの漂流ルートを調べる調査研究にまで発展させた。また、漂流ルートの研究のために瀬戸内海に面した様々な地域に赴き調査を行った。そして、その研究成果を様々な場所で発表して、海ゴミ問題について知ってもらおう取り組みをしている。

#### ●活動の際に苦労したこと

調査は清掃活動を兼ねているので、拾ったペットボトルはすべて持ち帰った。大きなゴミ袋を抱えて、4～5時間の間、電車、バス、フェリーに乗ることに苦労した。また、持ち帰ったペットボトルは、メーカー名、商品名、消費期限年月日をデータとして記録し、再生できそうなペットボトルはボトルを洗って、資源ごみとして回収できるようにした。

### 活動の<sup>を</sup>を広げよう 出場者からの提言

◎調べたことや分かったことは、いろいろなところで発表してみましよう。発表に興味を持ってくれる人が必ずいるので、やる気が増えます。そして、内容が評価されれば仲間が増えるかもしれません。発表の際は、写真や実物があつたほうが興味を引きやすいし、理解されやすいと思います。(森光 春平・男・1年)

◎まずは行動してみましよう。次に地元の町内会などが同じようなことをやっていないかを確認してみましようか? 地元の方たちといっしょに行動することで自分たちが考えてもみなかった環境問題についての考えや意見を知ることができ、新しいことに気づくかもしれません。(本山 将也・男・1年)



<b>山口県立防府商工高等学校</b>			
〒747-0802 山口県防府市中央町3-1 ☎0835-22-3790			
活動団体	1年3組		
主な活動時間	休み時間や放課後	活動人数	40人
最終審査会発表生徒	尾中 真希(1年) 渡瀬 就月(1年)	担当教諭	清水 純一

## もったいないキッズゲームランドでおもちゃリサイクルと環境保護

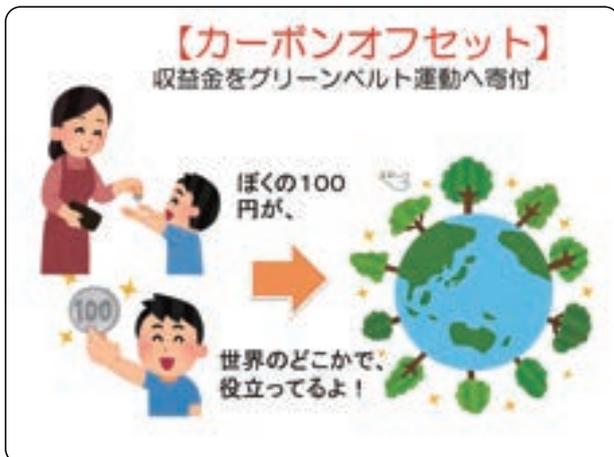
### 【目標・今後の計画】

私たち1年3組は、「もったいないキッズゲームランド」を企画しました。この活動の目標は、1人でも多くの子供たちに、Reuse（再利用）という環境活動を普及させることと、「もったいない」という言葉を知っていただき、「モノを大切にすること」を育てることです。また、このゲームで得た収益金は、全額、グリーンベルト運動に寄付します。カーボンオフセットという形で環境保護活動に参加し、地球に1本でも多くの植樹がなされるようにすること、さらに、活動を通して、様々な人に「ものを大切にすること」やリユース活動を普及啓発していくことが目標です。

今後の計画として、この活動を地域から発信し、eco-1 グランプリを通して全国に広げ、小・中・高等学校の文化祭などで、実施されればと思っています。

### 【活動内容】

「もったいないキッズゲームランド」とは、1回100円でゲーム（輪投げやストラックアウトなど）をしてもらい、景品として、家に眠っている昔使用していたおもちゃやぬいぐるみ、絵本、キャラクターグッズをプレ



ゼントします。

1学期にこの企画を立てて活動内容と趣旨を説明、クラス40人はもちろん、全校生徒約720人と先生方に、家に眠っている昔使用していた、おもちゃ、ぬいぐるみ、絵本やキャラクターグッズなどの提供を呼びかけました。

活動は、学校で開かれる文化祭などの学校行事を想定しています。本校では、10月2日に「天神まちかどフェスタ」という学校行事が地域で開催されます。例年市内外から約6000人の来場者で賑わいますが、ここでこの企画を実施します。小さい子供たちをたくさん招いて、大いに楽しんでもらいたいと思います。ゲームを通じて得た景品から、ものを大切にすることが自然に育つはずで

この活動で得た収益金は、「もったいない」という言葉を全世界に広めたワンガリ・マータイさんが始めた活動、【MOTTAINAI GREEN PROJECT】へ、窓口である毎日新聞社を通じて全額寄付し、カーボンオフセット、環境保全活動につなげます。よって、この活動は、3つのエコ活動で構成されているといえます。

1. おもちゃの再利用によるリユース活動
2. 収益金を寄付するカーボンオフセットによる環境保全
3. 全活動を通じて全校生徒やゲームをしてくれた子供たちなど、様々な人に物の大切さ「もったいない」の心を育てる啓発活動

### 【成果・実績】

家に眠っているおもちゃなどの提供を呼びかけたところ、たくさんのおもちゃが集まりました。

ゲームは、ストラックアウトと輪投げを用意しまし

た。段ボールとペットボトル、新聞紙などを使って手作りのストラックアウトのフレーム部分が弱くすぐにヨレヨレになってしまいましたが、子供たちは笑顔で楽しんでいました。成績に応じて、集めたおもちゃなどをプレゼントしまし



した。私たちが使わなくなったものでも、子供たちにとっては、宝の山です。みんな真剣に選んで、喜んで帰る姿が特に印象に残っています。

当日は、延べ200人の子供たちがゲームを楽しみ、2万円の収益を得ることができました。収益金は、毎日新聞社を通して、グリーンベルト運動に寄付しました。後日、募金証明書が送付されてきました。私たちの活動が世界のどこかで役立っていると思うと、うれしく思うと同時に達成感もありました。



収益金  
20,000円

毎日新聞社  
を通じて、  
グリーン  
ベルト運動  
寄付

●活動にあたり創意工夫したこと

この活動は「どの学校でも、どんな団体でも、やる気さえあれば簡単に始められる」ことがポイントです。どこの家にも、小さいころには遊んでいたけど、今は使っていないおもちゃは存在します。ゆくゆくはゴミとして捨てられますが、大切に持って、小さい子供たちに譲ってあげれば、ゴミの削減につながります。このとき創意工夫したのは、ゲームを取り入れたことです。中古のおもちゃを集めて販売するだけでは、単なるフリーマーケットですが、ゲームを楽しんでいただき、景品としておもちゃやグッズをもらうと、買うこと以上に心に残るはず。ふれあいを通して、ものを大切にする心が芽生えると考えました。

●活動の際に苦労したこと

この活動の最大のアピールポイントは、「どこでも誰でも簡単に楽しくできること」なので、苦労したことは特にありません。特別な知識や技術、施設や設備は必要ありませんし、必要な経費は0円です。どこの家庭にもある使わなくなったおもちゃをリユースするので、特定の地域資源に縛られず、どこでもできる活動です。用意したストラックアウトと輪投げは、段ボールをリサイクルして作りました。みんなで楽しく・誰でも簡単に・誰とでもどこでもできる活動として全国の小・中・高等学校に発信していきたいです。楽しく簡単にできることが、長く続けられて、広く普及できるコツであると考えています。

活動の環をを広げよう 出場者からの提言

- ◎大会に参加してエコ活動には地域の協力が必要と思いました。おもちゃは他校からも集めたり、おもちゃ病院は地域の方々などにボランティアで参加を募集すればいいと思います。そうすることで、この活動をより多くの人に知ってもらいたいと思っています。(尾中 真希・女・1年)
- ◎今回は子供たちを主に「モノを大切に作る心」を育てる、という目標で活動していました。今後は、子供だけでなく幅広い世代の人たちにリユース活動についても知ってもらいたいし、この活動が広く普及して、環境保護につながってほしいなと思いました。(渡瀬 就月・女・1年)



## 宮城県志津川高等学校

〒986-0775 宮城県本吉郡南三陸町志津川廻館92-2

☎0226-46-3643

活動団体 自然科学部

主な活動時間 部活動として

活動人数 2人

## 生ゴミが資源に！人と環境に優しく災害に強い南三陸町を目指して

## 【目標・今後の計画】

南三陸町は宮城県の北東部に位置し、森・里・海の恵みが豊かな町である。昭和35年のチリ地震津波をはじめとした過去の災害経験から、毎年防災訓練を実施するなど災害に強い町づくりを進めてきた。

しかし、東日本大震災での巨大津波はたくさんの町民の尊い命を奪い、財産を一瞬にして破壊し、生涯忘れることのできない大惨事となった。厳しい寒さの中、暖をとることもできず外部に依存していた電気、石油、ガスの入手は困難を極めた。

「生命活動に必要な最低限のものはできる限り地域内で賄えるよう備えるべきである」という教訓を再度確認し、町は今、自然の恵みを最大限に活用しながら、人と環境に優しく災害に強いまちづくりの実現を目指している。

本校は南三陸町が行っている「循環型まちづくり」に一緒に取り組んでいきたいと考えている。具体的には、家庭から出た生ゴミを微生物の力を利用してペットボトルで簡単にエネルギーに変える実験をすることである。生ゴミからバイオガスが発生している様子を身近に感じてもらうことを目指している。

また、どのような種類の生ゴミがもっともよくバイオガスが発生するのかを調べる実験も行っている。南三陸町から出やすい生ゴミを挙げて、1種類ずつにした場合・それらを混合した場合・混合比を変えた場合で実験を行い、その結果を町にフィードバックし効率よくエネルギー生産ができればと考えている。

## 【活動内容】

南三陸町内の住宅や店舗から出る生ゴミやし尿汚泥などの廃棄物を発酵処理し、バイオガスと液体肥料を製造している南三陸<sup>バイオ</sup>BIO(アマタ株式会社)の取り組みを知り、興味を持った。

校内発表ではエネルギーの材料となる生ゴミの分別のポイントについてパワーポイントを使って問題形式で説明し、正しい分別は良い液肥を作ることを説明し、全校生徒に生ゴミの回収分別の協力をお願いした。本校は、町内唯一の県立高校で、南三陸町地域連携型中高一貫教育が実施され約9割の生徒が南三陸町出身であるため生ゴミの回収分別の啓発にはとても有効である。

文化祭の一般公開では、アマタ株式会社さんの協力

## 東日本大震災の教訓

生きることに必要な最低限の物をできる限り地域内で賄う



人と環境に優しく災害に強いまちづくり

もいただき、出店から出た生ゴミを使いペットボトルに種菌を詰めてバイオメタンを生産する実験を行い、作ったガスで実際にベーコンを焼いて試食してもらった。

10月に行われた南三陸町産業フェアにおいては、来場者にバイオガスで沸かしたお湯を使って「バイオカフェ」をオープンした。飲み物を飲んでもらいながらペットボトルを使ったバイオ実験について説明し、町内のみならず県内の多くの方々に町で行っている素晴らしい取り組みを知ってもらうことができた。

### 【成果・実績】

生ゴミを使ってペットボトルで簡単にエネルギーに変わっていく様子を体験してもらうことで、町で行っている素晴らしい取り組みを実感してもらうことができた。

現在は生ゴミの種類の違いによって、どの程度バイオメタンの発生量に違いが出るかを比較する研究を

行っている。今回は①野菜のみ ②野菜と果物 ③野菜と魚 ④野菜と果物と魚の4種類を用意し実験を行った。単独の生ゴミ(野菜のみ)よりも様々なものが混ざっている方がバイオメタンの発生量が多いことがわかった。

今後も、生ゴミの組成を変えて研究を続けていきたいと考えている。



#### ●活動にあたり創意工夫したこと

実際に町内にあるバイオガス施設南三陸BIOを見学に行き、南三陸町内の廃棄物が100%資源に変わっていく、循環型まちづくりの取り組みを知ることができた。

生ゴミからエネルギーと液肥を作り、液肥は肥料として田んぼや畑に散布する。散布された農地でとれたお米や野菜を人間が食べる。このように資源が循環していく町を目指している。

#### ●活動の際に苦労したこと

原料が生ゴミやし尿汚泥ということで臭いに苦労しながら、実験を行っている。また、バイオメタンとともに発生する硫化水素や水素濃度に注意しなければならない。



# 埼玉県立特別支援学校さいたま桜高等学園

〒338-0824 埼玉県さいたま市桜区上大久保519-7

☎048-858-8815

活動団体 環境・サービス科

主な活動時間 授業の一環として

活動人数 60人

## クリーン&リサイクル ～地域とつながりエコ活動～

### 【目標・今後の計画】

本校環境・サービス科では、ペットボトルの回収と回収したペットボトルを再製するリサイクル活動を開校から10年間継続して実施している。ペットボトルのリサイクルでは、リサイクル率100%を目指して、日々活動に取り組んでいる。地域の方から協力を頂き、回収したペットボトルを植木鉢にリサイクルして還元することや、リサイクル作業を体験できるイベントなどを開催すること

で、リサイクル活動に対する関心を広めることを目指している。また、校内及び校外の清掃活動を同時に行い、回収したゴミを分別する作業も行っている。清掃活動を継続することで環境活動に対する取り組みを知ってもらい、更には地域住民と一緒に清掃活動を展開できるように地域と連携した活動を目指している。

このように私たちは、地域に密着したエコ活動を展開していくことを目標としている。

### 【活動内容】

環境・サービス科では、環境コースとメンテナンスコースの専門教科で、大きく二つの活動を中心に本学科在籍生徒全員で取り組んでいる。

#### (1)ペットボトルのリサイクル活動について(環境コース)

ペットボトルのリサイクル活動では、回収を生徒たち自身で行っている。リヤカーを生徒たちが用意し、自治会や協力店舗などに行き、ペットボトル容器の回収をしている。ただ回収するだけでなく、移動中にはごみ拾いもしている。また、学校内に地域向けのペットボトル回収スペースを設け、近隣の方々の協力を得た回収も実施している。持参していただいた方にはそ

### 地域と協働した特色ある取り組み

#### ペットボトル回収

#### 地域の方々の協力を得た回収



の数に応じて、リサイクルした植木鉢を配布している。これらに加え、校内で出たペットボトルについても、スペースを設けて回収している。

回収したペットボトルは生徒の手作業によってリサイクル植木鉢へと変わっていく。工程は次のとおりである。まず、ペットボトルについているラベルをはずす。次にラベルをはずしたペットボトルとキャップを洗浄する。その後、ペットボトルとキャップを乾燥させ、リングを取る。リングを取り終わったペットボトルを「粉碎機」にかけ、粉々する。粉々にしたものをチップと呼び、そのチップを「廃プラスチック溶融機」でゲル状に溶融し、「20tプレス機」で植木鉢の形状にする。一連の取り組みを生徒が分担して作業に取り組んでいる。このリサイクル活動は開校から10年間継続している。

#### (2)清掃活動(メンテナンスコース)

本学科で行っている清掃活動には三つの作業がある。校内清掃、校外清掃、洗車という作業である。校内清掃では、主に日常清掃を行っている。廊下やトイレ、階段などを中心として清掃している。校外清掃では地域の公共施設や大学、公園などを清掃している。

また、本校生徒が多く利用する最寄り駅の北浦和駅の清掃と駅までの道のり約4kmの道路の清掃活動をしている。洗車では、本校の教職員の車を使用し、安全に責任を持って洗車をしている。

### (3)啓発活動・社会貢献事業

夏休みに近隣の小学生を対象とした「夏休み環境教室」を開催し、ペットボトルを植木鉢に再製する体験をしてもらうことや、昨年度より実施している「地域清掃のお誘い」として自治会の協力を経て、北浦和駅清掃作業を行うことで近隣住民の環境への意識向上を図っている。

また、リサイクル植木鉢を利用して、本校の文化祭で「パンジープロジェクト」という企画を実施している。リサイクル植木鉢に他学科が栽培したパンジーを植え、それを文化祭で販売し、メッセージを添えて東北の被災地の方々に送る活動を通して、社会貢献を目指している。

#### 【成果・実績】

ペットボトルのリサイクルは、活動を開始した平成19年度は5万本(500mlペットボトルに換算した場合)の回収であったが、年を追うごとに回収量が増加し、4年目以降は毎年10万本近くを回収している。2015年度においては回収したペットボトルが25万本を超え、開校当初に比べると回収量が5倍近く増えている。開校から9年間で回収されたペットボトルの総量は75万本を超える。

植木鉢は500mlペットボトルに

換算すると約7本で1個を作ることができ、これまでに10万個を超える植木鉢を完成させてきたことになる。夏休み環境教室も毎年募集人数以上の申し込みがあり、本校のリサイクル活動への理解が高まっている結果と考える。

清掃活動も開校から校外での活動を始め、隣接する県立高校や大学、公共施設などの清掃を行ってきた。大学からは感謝状をいただいている。



#### ●活動にあたり創意工夫したこと

活動する際には安全第一を考え、お互いに声かけをするなど未然に怪我を防いでいる。なお、作業で使用している溶融機は日本に数台しかない貴重な機械である。

#### ●活動の際に苦労したこと

清掃活動においては、新しい道具や手順になった際に、慣れることに苦労した。また、「夏休み環境教室」を開催したときには、手順を小学生にわかりやすく教えることに苦労した。

ペットボトルのリサイクルでは、臭いが発生するため洗浄作業を丁寧に行う必要があった。



# 東海大学付属市原望洋高等学校

〒290-0011 千葉県市原市能満1531

☎0436-74-4721

活動団体 生徒会

主な活動時間 休み時間や放課後

活動人数 10人

## 藁を用いた和紙作り

### 【目標・今後の計画】

本校は、エコ活動としてペットボトルの分別を行っています。ボトルキャップは、ポリオワクチンに変えることができるので、キャップ回収業者に持って行っています。

2年前からは新しいエコ活動を始めました。売店で売っている紙パックジュースの紙パックが再利用できないかと考えたことをきっかけに、紙パックから和紙を作るという活動です。しかし、和紙は表面の凹凸が目立ち、あまり書きやすくありませんでした。そこで改善を目指し、学校にあるもので和紙を作製できないかと考えていると、生物部が学校で育てた古代米の稲刈りをしていました。先生がいつも「藁半紙」と言っているのです。稲藁を使えば良い和紙ができるのではないかと考えました。

今後は、藁と紙パックで作った和紙を近隣の学校に配布し、普及していきたいと考えています。

### 【活動内容】

#### ・キャップ回収

各教室に、燃えるゴミ専用・ペットボトル専用・キャップ専用のゴミ箱を設置し、分別してそれぞれのゴミ箱へ捨てています。キャップ回収は、学校近くにある市原特別支援学校と協力して行っています。特別支援学校では、授業の一環としてペットボトルの分別作業を行っています。そこで、本校では、分別しないで水洗いをしたペットボトルを回収しており、特別支援学校へ届けています。そのときに、特別支援学校で分別されたキャップをもらっています。このようにして集めたキャップを、学校近くの工場に持って行き、ワクチン代金の一部に変えてもらっています。

#### ・和紙作り

これまでは紙パックを細かくちぎってミキサーにかけ、洗濯のりと混ぜた液を漉いて作っていました

が、繊維が分解しきれずに、表面の凹凸が目立っていました。そこで、藁を用いた和紙作りを行いました。手順は、まず藁を2～3cmに切ります。その後に水酸化ナトリウム水溶液で1時間煮込み溶かします。煮込んだ藁を十分に洗い流し、水を切った後、金づちで叩いて残った繊維を細かくしていきま

#### 1. 藁を細かく切る



#### 2. NaOH水溶液で煮る



#### 3. 叩いて、さらに細かく切る



す。それをさらに5mm程度の大きさにカットした後、水と一緒にミキサーにかけていきます。こうしてできた紙料を漉いて、乾燥させて作ります。

藁からできた紙料と、紙パックから作った紙料の割合を変えながら、混ぜることで、どちらかの素材のみで作ったときよりも使いやすいものはできないかと考え、藁と紙パックの紙料をそれぞれ3：7、5：5、7：3の割合で混ぜたものを作りました。

### 【成果・実績】

104人に、「どの紙が一番使いやすい」というアンケートに協力してもらった結果、以下のようにになりました。

藁のみ…23%、紙パックのみ…8%、紙パック3：藁7…16%、紙パック5：藁5…20%、紙パック7：藁3…33%

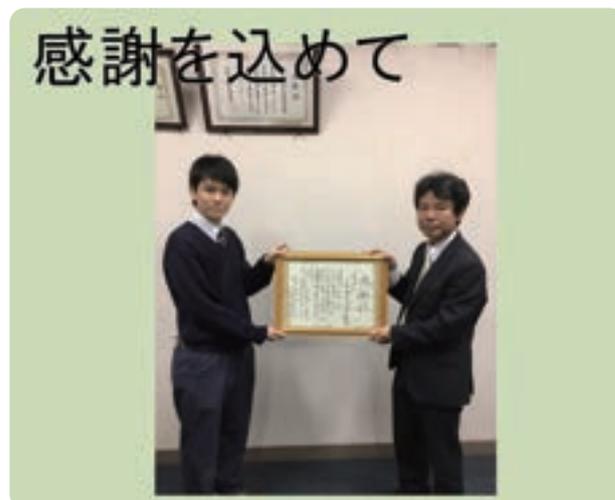


この結果から、今まで作ってきたものよりも、藁を使用したものの方が使いやすいという意見が多いことがわかりました。この結果を基に、一番使いやすい紙パック7：藁3の和紙を使用していくことにしました。そこで、私たちは協力をしている市原特別支援学校に

向けて、お礼の手紙を手作りの和紙で送りました。

和紙作りの際、今までは段ボールに貼り付けて乾燥させていたのですが、今年からは、紙の質を考えプラスチック製のシートの上に貼り付けました。しかし、シートに接していた部分に過剰な艶やスベリがでてしまい、書きにくくなってしまいました。そこで、木の板に貼り付けて乾燥させたところ、そのような問題点は解消され、表裏の紙質は均一なものになりました。

今後の目標とし、校内掲示物での利用を考えています。校内での使用が定着できたなら、校外でも使用できるように、実用性を高めていきたいです。また、手順の簡易化についても考えなければなりません。活動をより活発にし、周りに普及させるには材料の入手や手順が簡単であることが条件であると思います。



#### ●活動にあたり創意工夫したこと

エコ活動なので、お金をかけないようにすることを前提に考えました。最初に着目したのは、校内で出たゴミです。紙パックジュースのゴミはかさばり、いつもゴミ箱から溢れていました。何とかしようとパックを折りたたんで捨てるようにと指示をしていましたが、なにかもったいないような気がしていました。そこで、牛乳パックが再利用されているように、紙パックも学校で再利用したいと考えました。和紙はできたのですが、どうしたら品質の高い和紙ができるのか悩んでいたところ、校内で栽培した古代米の稲刈り現場に遭遇し、藁を使うことを思いつきました。

#### ●活動の際に苦労したこと

和紙作りを始めた際は、生徒会だけで行って、なんとか部活動に広めていきたいと考えていました。しかし、なかなか部活動に浸透させることができず悩んでいました。しかし、今回は、生物部と連携をとることができ、悩みが解消されました。また、和紙の品質を改善するためにはどうしたらいいかとずっと考えていましたが、藁に出合っただけで本当に良かったです。



# 慶應義塾湘南藤沢高等部

〒252-0816 神奈川県藤沢市遠藤5466

☎0466-49-3585

活動団体 有志団体環境プロジェクト

主な活動時間 休み時間や放課後

活動人数 72人

## 環境保全はここから始まる ～緑との共存・未来へつなぐバトン～

### 【目標・今後の計画】

環境プロジェクトは2002年にできた有志団体です。メンバーは部活動や他の委員会と両立させて活動しています。「身の回りの全ての、もの・こと・人のつながり」を環境と捉え、『環境に興味を持ち、自身の見聞を深める』『自らが行動し、啓発の中心となる』を共通理念に、自身の興味分野で環境と関わっていくことを目指しています。活動に際しては「縦・横・斜め」の関係性を大事にしています。「縦」は、世代間の交流、校内での学年を超えた交流、さらには一貫校との交流が挙げられます。「横」は、同世代との関わりや、地域交流も掲げられます。「斜め」は、普段自分たちが関わらないところにも何らかの繋がりを築き上げていくという意味で、産業連携・途上国支援などの活動をしています。

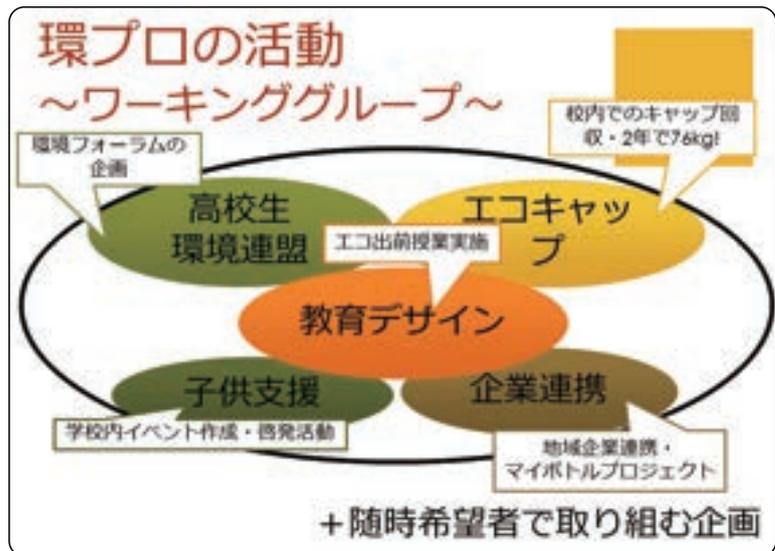
今後の計画は大きく4つあります。

1. 小学校でのeco出前授業…毎回小学校の教育進度に合わせた授業を数カ月かけて準備します。例年は1、2校でしたが今年は3校で行います。この試みを成功させ、今後も続く環境プロジェクトの主軸とさせるべく、クオリティーを維持して授業の準備をしていきます。

このほか、2. 校内でのペットボトルキャップの回収と寄付の継続 3. 周辺地域の企業と連携した清掃活動の実施 4. ユニセフと連携した校内における世界の子供支援に関する啓発活動を実施しています。

### 【活動内容】

現在約70名のメンバーが所属。全体ミーティングは週に1度、昼休みに行います。それ以外は、メンバーが各々の興味分野に応じてワーキンググループに所属して活動しています。グループはメンバーの興味によって数が変化し、活動しやすいようにしています。現在のグループは5つで、教育デザイン班、企業連携班、子供支援班、エコキャップ班、高校生環境連盟があり



## エコ出前授業

- 小学校2～4年生向け
- 今年度は3回
- 訪問先の先生との相談で内容決定
- メンバーの母校、一貫校の小学校を訪問
- 今までに**3000人以上**が授業を受講



ます。

まず今回の発表の軸である教育デザイン班は、毎年1、2校の小学校にてeco出前授業を行っています。昨年度は2月に慶應義塾横浜初等部の3年生に「生活排水」をテーマに授業しました。

前年9月の最初のミーティングで、授業の概要等を決定して情報収集し、2度目の訪問で詳しい授業内容を精査、冬休み中に部活の傍らパワーポイントや資料を作成して1月にリハーサルを数回行います。

当日は実験～レクチャーという2時間構成で、小学生が各家庭から持ってきた生活排水をろ過装置に通して、どれだけ透明になるかを観察してもらいました。下水処理場でろ過された水との比較を取り入れ、下水処理の大変さを実感してもらい学習を深めました。実験の後には生活排水が原因となった過去の公害を取り上げ、公害を防ぐために普段から何ができるかを考え、発表してもらう機会を設けました。

企業連携班はスターボックスと連携した「マイボトルプロジェクト」で、紙カップの利用度を下げ、水筒の利用を啓発する活動を行いました。今年度からは最寄り駅から学校までのバス通りの企業と連携してバス通りの清掃活動を行うべく、企業と連絡を取り合っています。

子供支援班は途上国の子供たちの支援活動を行う班です。途上国の状況を想像することは難しく、訪問も簡単にはできませんが、少しでも多くの人に知ってもらいたいという思いで活動しています。

訪問班では、主に発展途上国に関連する施設やイベントを訪問し、学んだことを校内に啓発しています。

高校生環境連盟は、環境保全の啓発を目的とし、年

に2回『高校生環境フォーラム』を開き、高校生を始め大学生や社会人の方など、環境に興味のある幅広い年代の方が参加し、環境問題について意見や知識を共有できる場を企画しています。早稲田大学高等学院、多摩科学技術高校など複数の学校の生徒が所属し運営し、他校と環境を通じて交流できる場でもあります。

エコキャップ班は、2014年度から3年間で45Lのポリ袋18袋分を回収。生徒が自発的に分別してキャップを専用箱にいれられる環境を作っています。

### 【成果・実績】

環境プロジェクトの班はそれぞれ異なるプロジェクトを同時に進行しています。今年一年、教育デザイン班では生活排水に関する授業を実施。企業連携班ではスターボックスと連携して「マイボトルプロジェクト」を行いました。また、学校までのバス通りにある企業と連携し清掃活動を予定しています。

子供支援班では8月下旬に品川・ユニセフハウスを訪問しました。

高校生環境連盟では本年度も2回、第25回と第26回の環境フォーラムを早稲田大学高等学院で開催。それぞれ食と環境、交通と環境というテーマのもと開催し例年よりも多くの学校の参加を得られました。

エコキャップ班では今年も校内でボトルキャップを回収。他にも、TOMODACHI Youth Club Asia (通称TYCA)やTOMODACHI Toshiba Science & Technology Leadership Academy (通称TTA)といった国際交流のプログラムにも一部メンバーが参加し、最新の環境保全に向けたスマートコミュニティーの構築や、新たな技術についての見聞を深めています。

#### ●活動にあたり創意工夫したこと

エコ出前授業では、毎回異なったテーマを、訪問先の小学校の先生方と相談しながら決めていきます。授業を作っていく中でプロの先生の意見を豊富に取り入れ、メンバーにとって一種の職業体験の場にもなるように工夫しています。何度も話し合いを重ね、小学生にとってより意義のある内容にできるように心がけています。

さらに、環境プロジェクト全体としては、自分たちにも何かしらの学びがあるよう工夫しています。企業との連携で、企業の行うCSRなどの環境活動を知ることでも、社会勉強としても充実した活動となっています。

#### ●活動の際に苦労したこと

全体の人数が約70人と多く、まとめることが難しいです。個々が自主的に取り組むことを共通理念に掲げていますが、常に積極的な姿勢で取り組むメンバーは所属する部活動などの関係で限られます。そこで、部活終わりの活動や通学時間を使った作業など、なるべく多くのメンバーが関わることでできる形態を作ることを目標にしています。さらに、メンバーの経験や知識が常に環境プロジェクト全体に伝わるように、報告や発表の機会を積極的に設けています。

その他、苦労していることは教育デザイン班の出前授業づくりです。全メンバーに向けて小学校授業の魅力について語り、「何をやっているのか」「何をどのように誰のためにやっているのか」といった詳細を、全てのメンバーと共有し、賛同を得る難しさを肌で感じました。



# 長野県須坂園芸高等学校

〒382-0097 長野県須坂市南横町1616

☎0262-45-0103

活動団体

授業の一環として、休み時間や放課後、部活動として

主な活動時間

休み時間や放課後

活動人数

33人

## 花とみどりのまちづくり事業活動

### 【目標・今後の計画】

本校は須坂市の中心部にあり、北アルプスや北信五岳などの山々に囲まれた高校で、創立104年目を迎えるが、来年3月に閉校になる。活動には、園芸高校最後の生徒が取り組んでいる。

活動を通して公共機関等でのマナーや正しい職業観を身につける事を目標としている。また、地域の方と接し、様々な人たちと交流するなかで、コミュニケーション能力を高めたり、普段の授業実習では学ぶことのできない協調性や責任感を養う事も目的として取り組んでいる。

活動の具体的な内容は、水資源の有効利用、宿根植物による毎年の飾花、木酢液を利用した害虫防除、イベントで不要になった花等の利用を行うことである。

### 【活動内容】

#### 1. 校外での植栽、飾花活動

須坂市は平成7年度から市民と協働で「花と緑のまちづくり事業」を行っている。本校も、須坂市と協力して以下の飾花活動を行ってきた。

- ・県道長野須坂IC線では、平成9年より20年間実施。米子大瀑布へ行く路肩脇に1000本のサルビアを定植した。

- ・須坂駅前にある歩道橋では平成17年より12年間飾花活動を行い、平成27年からは飾花の改善に取り組んでいる。また、須坂駅のホーム内では、今年度から飾花活動を行うことになった。

- ・県道横花壇は平成7年より活動し今年で22年目の飾花活動となった。

- ・5月連休に行われる善光寺花回廊では平成16年から参加し今年で13年目の飾花活動となった。

- ・6月5日の全国植樹祭に向け花の栽培活動を行った。

#### 2. 環境にやさしい栽培、生育特性を生かした栽培

広島原爆投下から1カ月で咲いた「カンナ」の花を平和のシンボルとして、須坂市では花壇をはじめ、多くの場所で栽培している。本校では昨年「カンナプロジェクト」に参加し、宇宙へ届けるためのカンナの種子の採種に協力した。

今年度はたくさんの花を効率よく飾花するために、市の推奨するカンナや毎年設置できる宿根草を増やした。運搬や朝夕の灌水作業など管理が大変だったプランターの設置をやめ、鉢の栽培を試みた。鉢の栽培では、底面吸水による設置を考えた。また農薬を使わないように、病気に強い宿根植物を選定して栽培期間の長い種類を選んで栽培することにした。

平成27年の研究結果では、プランターの表面から



の水分の蒸発を防止するためにマルチ資材等の効果が認められた。プランター表面の温度は無処理区が高い結果となり、この結果からも水分蒸発に資材の導入を考え、この研究成果をもとに今年度の目標を明確にした。

### 3. 花いっぱい飾花 平成28年度の活動

平成28年度は花いっばいに飾花するために、(1)新たにカンナ以外の品種にも注目 (2)駅前歩道橋をたくさんの花で飾花する (3)普通のプランターに花鉢を入れ底面給水し、管理を行った。

#### 【成果・実績】

宿根草でほふく性があり花壇に用いられているパーベナ(耐暑性があり、生育旺盛な植物)を選び、底面給水の実験を行った。鉢に水をため、不織布を入れ、鉢をセットしたところ見事に花が咲いた。

通常のプランターには5号鉢を3鉢入れ、深型のプランターには8号鉢を2鉢入れ、猛暑時はプランター

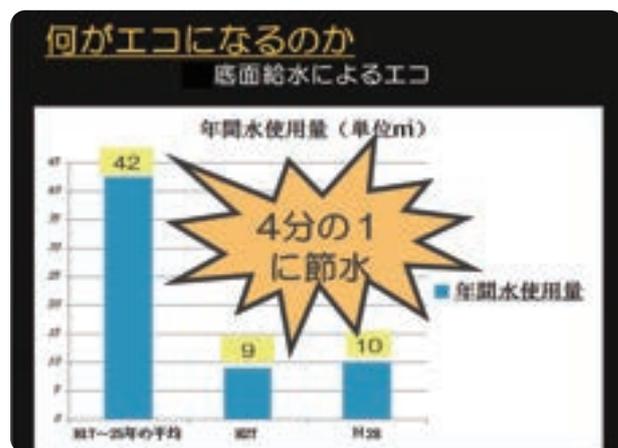
の半分以下に水をため栽培した。夏季休業時は少し多めに水を入れると、朝夕の毎日の灌水の手間が省けた。また、プランターに直接鉢を入れ、水をためる管理にも成功した。

エコの観点から考えると、平成17年度から続けた飾花協力で灌水した水道量の平均値は平成28年度では約4分の1に節水することができた。また、栽培に使う用土も減らすことができた。用土は学校から歩道橋へ二輪車で運んでいたが、労力も削減できた。合計するとプランター栽培に比べ約半分の土の量を削減することができた。

また、鉢栽培により多くの飾花が可能になった。持ち運びが簡単で入れ替えが可能になり、平成27年度に比べ約2倍の鉢を飾花することができた。高齢者でも鉢の持ち運びができ、応用が可能になると考えられる。

きれいな花を咲かせ続けることで、地域の方々に声をかけられることもあり、喜んでいただいている。

私たちの活動が認められ、今年の10月26日に行われた、日本花の会主催第26回全国花のまちづくりコンクール団体部門で応募1597団体から入選(41団体)し、表彰された。閉校後もこの活動を継続できるように新校へ引き継いでいきたい。



#### ●活動にあたり創意工夫したこと

底面給水用のプランターを設置することにより管理の簡便化を図り、多くのプランターを設置することができた。

#### ●活動の際に苦勞したこと

底面給水用のプランターの設置は根腐れがおこり生育しないと考えていた。根腐れ防止のため、珪酸塩白土を用土に混ぜることによりどの割合が適切であるのか研究を行った。歩道橋は夏季の照り返しが強いいため花へのダメージが大きいと思われたが、影響はなかった。そのため平成28年度は水をためたプランターに2鉢入れた状態で設置し、研究した。



<b>大谷高等学校</b>			
〒605-0965 京都府京都市東山区今熊野池田町12		☎075-541-1312	
活動団体	B年7組		
主な活動時間	授業の一環として、休み時間や放課後	活動人数	42人

## みんなで楽しく環境活動 書道パフォーマンス

### 【目標・今後の計画】

私たちは、普段何気なく飲んでいるペットボトル飲料について、ペットボトルキャップの回収運動が、途上国の文具やワクチンに変わるということを担任の先生を通じて知りました。学校全体でおよそ2000人がいる本校では、1日にペットボトル2本ほどを飲んでいることがわかり、ペットボトルキャップを回収することで、手軽にエコ活動できるのではと思いました。集めたペットボトルキャップはNGOに持っていく予定です。

また、学園祭を前にクラスとしてどのようなことができるかを考えた結果、廃材をつかってエコな書道パフォーマンスをすることを計画しました。

### 【活動内容】

6月からペットボトルキャップを回収し、学校全体の啓蒙活動を行ってきました。ただ集めるだけでなく、どうすれば環境活動を学校全体に知ってもらえるか、いろいろとアイデアを出し合いました。

演劇をすることでエコ活動の大切さを訴えるなど、いろいろな提案が出ましたが、担任の先生の助言によって、書道パフォーマンスを行うことに決定しました。書道の筆はかなり高く、私たちの学園祭予算に見合うものではありませんでした。そこで、道具を「買う」のではなく、「リサイクル」でできないだろうかと考え、筆をつくることを考えました。その際、いらなくなった廃材や廃棄物から筆をつくり、エコな書道パフォーマンスができないか考え、学校の廃棄物が置いてあるゴミ置き場で、使えるものがないか探し、実行委員8名で選びました。その中で大筆の柄の部分、工事現場にあるトラバーやグラウンドを整備するトンボ、椅子の脚の部分など、廃材から新

たに命を宿すことのできるものを見つけました。これらを使って大筆や小筆をつくりました。

また、夏休みを利用してペットボトルキャップを集めました。すると、45リットルのゴミ袋3個分も回収することができました。クラスでそのような取り組みを行っていることを聞きつけた他のクラスや他学年の生徒、先生方からもキャップをいただきました。このキャップを使って何かもっと啓蒙活動ができないかと思い、ベニヤ板にペットボトルキャップを貼り付けたキャップアートを作製しようという声が上がりました。なかなかうまくいかず、最初はすぐにキャップが落ちてしまいましたが、工夫することで、ベニヤ板1枚分のキャップアートを完成させました。

8月に入り、書道パフォーマンスの練習を本格化していくにあたり、エコな練習方法はないかと考えた結果、新聞紙をつかって巨大な半紙をつくり練習をしました。本来はちゃんとした巨大半紙が欲しかったのですが、お金がかかることは地球環境に対してエコでない(新しいものを購入すると二酸化炭素が発生する)という観点から、自分たちで再生紙をパッチワークのように継ぎ合わせました。そして練習を行い、振り付けや音楽を決めて団結して書道パフォー



マンスを行いました。

本番では校舎の3階からも多くのお客さんに見てもらい、大変満足のいく結果となりました。また、エコ活動に関しても関心を持ってもらうことができ、大変有意義な学園祭でした。

### 【成果・実績】

多くのペットボトルキャップを回収することができ、10月にはNGOへ持って行く予定です。より良い文具やワクチンになってくれることを願っています。

書道パフォーマンスを見ていただいた書道の先生の発案で、ベニヤ板2枚程度の作品をつくることとなり、それを市の芸術展に出展していただけることになりました。クラスの有志で行う予定ですが、作品ではエコにまつわることを訴えようと考えています。そして、市全体にアピールできる展示物を作製しようと考えています。

こうした活動を通して、クラスの中でエコに対する意識が少し変わってきたのではないかと思います。こうした活動や意識が継続的に学校に根付くことが大切だと思います。今後はクラスから学校全体に発信できるようにがんばりたいと考えています。



#### ●活動にあたり創意工夫したこと

大筆や半紙など工夫しました。エコ活動を通してみんなと繋がり、交流することができました。クラスの絆や書道パフォーマンスをしたことによる一体感が一番のアピールポイントです。

#### ●活動の際に苦勞したこと

活動はこれからまだまだ続くので、達成感やエコ活動をもっと多くの人に届けたいと思っています。この楽しい苦勞を良い活動に変えていきたいです。



# 京都府立北稜高等学校

〒606-0015 京都府京都市左京区岩倉幡枝町2105

☎075-701-2900

活動団体

京都府立北稜高等学校

主な活動時間

授業の一環として、休み時間や放課後、部活動として

活動人数

906人

## 環境にやさしい学校

### 【目標・今後の計画】

北稜高校は京都市左京区の岩倉にあり、自然豊かなところである。この豊かな自然を生かして、生徒と教員が一体となり、環境保護活動を推進している。活動では、生徒が対外的に活動の成果を発表する機会を作り、社会のあり方について考える機会としたいと考えている。また、生物多様性の観点から、川の生物調査、樹木調査を行い、環境について考える機会としたい。

### 【活動内容】

今年度の主な活動規模は下記のとおりである。

- ・周辺河川の水質調査と大気調査(7クラス)
- ・地球環境学研究所との連携(1クラス)
- ・里山観察(4講座)
- ・生ゴミを利用したミミズの飼育による堆肥作りとそれを利用した花の栽培(生活委員42名)
- ・校内や行事での美化活動、エコキャップ回収(学校全体)
- ・ゴミの分別チェック(2015年度生活委員42名、2016年度保健委員42名)
- ・身近な川の生物調査(生活委員18名)

なお、本格的に活動をはじめた2003年以降、次のような取り組みを行ってきた。

**1. 花の栽培と寄贈**…花を栽培して施設や駅に寄贈する取り組みは、生徒会の委員会のひとつである生活委員会が中心に行っている。肥料はミミズが作った堆肥を使用している。2003年からミミズの育成をはじめ、校内の生ゴミ、主にお茶の葉やコーヒーかす、家庭科の調理実習で出たゴミなどを木の葉や雑草などと一緒にしてその中でミミズを育成すると、ミミズがゴミを土に返し、



良い肥料ができる。現在、2万匹のミミズを育成しており、この5年間で約2.5tの生ゴミを処理した。年間500tの生ゴミを処理したことになる。

**2. 雨水利用**…雨水を蓄えておく雨水タンクを設置し、花やゴーヤなどの栽培に利用している。



**3. ゴーヤカーテン**…ゴーヤを校舎の窓に沿って栽培し、夏の室温上昇を抑えている。

**4. 清掃活動**…今年はPTAの方や部活動の生徒たち総勢205名が手分けをして、学校周辺の草抜きやゴミ拾い、側溝の泥出しなどの作業を行った。

**5. ゴミの分別**…各クラスに5種類のゴミ箱を設置。学校全体のゴミを、「ペットボトル」「缶」「燃えるゴミ」「プラゴミ」「雑紙」に分別して回収する。



**6. エコキャップ運動**…生徒会が中心になり、教室、ランチルームや職員室に回収袋や箱を置いて回収。

**7. ビオトープ**…2011年3月にビオトープが完成。年々植物が育ち、多くの生物が集まるようになり、理科で自然観察や水質調査などに利用している。

**8. 紙すき体験**…2003年以降、資源リサイクルの観点から生物基礎の授業で紙すきを行ってきた。当初はケナフによる紙すきであったが、ケナフは非常に繁殖力の強い外来植物であることから、現在は、同じアオイ科のオクラの栽培を行い、その繊維を用いた紙すきに移行している。

9. **水質調査**…毎年、学校の近くの川や池の水を採取して、化学基礎の授業で水の汚れを調べている。調査の項目は、水温、pH、電気伝導度、COD等である。

10. **里山観察**…生物の授業で学校のすぐそばにある里山へ観察に行っている。

11. **地球環境学研究所**…高校の近くに総合地球環境学研究所があり、環境についての連携授業を行っていた。

12. **川の生物調査**…

生活委員が今年初めて、長代川の生物調査を行った。見つけた生物によって、その水質を調査するもので、ナガレトビケラ類やカワニナ類が見つかり、水質階級Ⅱの「ややきれいな水」という判定が出た。



13. **太陽光発電**…2010年に校舎の屋根に太陽光パネル336枚が設置され、校内で消費する電力の4分の1をまかなっている。最大出力は60kWである。

14. **普及・啓発活動**…今年は京都環境賞発表会でプレゼンテーションを行った。また、マレーシアの姉妹校生徒に環境ツアーを行い、活動について英語で説明を

したり、全校生徒の前で学期ごとに生活委員長が活動についての成果や課題の発表を行っている。

**【成果・実績】**

- ・環境活動の計画的な推進により、地球温暖化などの問題を考え、環境に対する理解を深めた。
- ・ゴミの分別回収、資源リサイクルから環境意識を高め、PTAとも連携し、各家庭での環境改善活動を進めた。
- ・ミミズの飼育で生ゴミから堆肥を作り、その土で育てた花を最寄り駅や福祉施設に寄贈し、地域との連携を進めた。

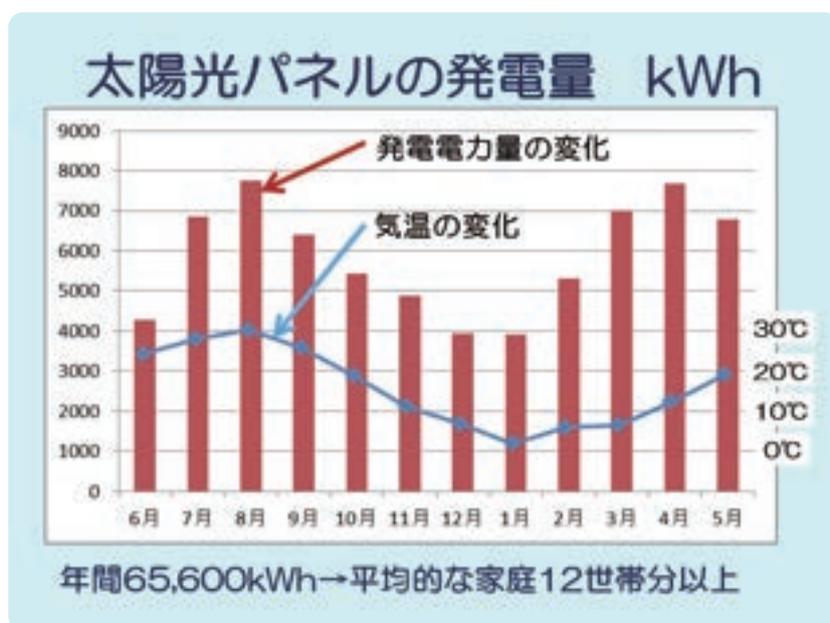
なお、長年の環境活動に対し、下記の表彰を受けた。

2015年

- 京都市から京都環境賞(環境教育賞)
- 京都府から京都府環境保全功労者表彰
- 環境省から水・土壤環境保全功労者表彰

2016年

- 環境大臣から地域環境保全功労者表彰



●活動にあたり創意工夫したこと

ゴミの分別では保健委員がゴミ集積場に立ち、分別のチェックをしたり、生活委員が啓発活動を行った。

●活動の際に苦労したこと

時間的な制約の中で活動時間を確保することや、生徒は3年ごとに変わっていくため、活動を継承していくための工夫が必要であった。



<b>香川県立多度津高等学校</b>			
〒764-0011 香川県仲多度郡多度津町柴町1-1-82		☎0877-33-2131	
活動団体	生徒会		
主な活動時間	休み時間や放課後、部活動として	活動人数	80人

## グリーンカーテンを通じて考える環境問題とエコ活動

### 【目標・今後の計画】

本校は専門高校の学習内容の特性上、環境やエコに触れることが多く、生徒も高い関心を持っています。「緑のカーテン計画」は取り組んで6年目になります。

活動の目的は県が進めている地球温暖化対策の「緑のカーテン」の設置に参加すること。生徒会を中心とした活動を行い、生徒一人一人がグリーンカーテンの設置を通して環境問題について考え、夏の省エネ・節電などエコを意識し、それらについて取り組める人材を育成することを目指しています。

### 【活動内容】

2014年から全校を挙げてグリーンカーテンの設置に取り組みはじめ、今年で活動は3年目になります。毎年、以下のようにテーマを決めてグリーンカーテンをつくっています。

#### 2014年「グリーンドーム」

環境やエコを考えた「エコハウス」に竹の籠を組み、ドーム状にしました。竹、プランター、土、肥料、水など、ほとんどが再利用しています。

#### 2015年「グリーンウォール」

校内の2カ所に設置し、職員室前にあさがお、正門前に足場を組んでゴーヤとシカクマメを植えました。

#### 2016年「グリーントネル」

就職活動中の3年生のベランダと学校の中心を通る渡り廊下の2カ所に設置しました。渡り廊下が緑のトンネルになっています。

植物は、昨年度から植えている多年草のものを中心に種類を増やし、より興味や関心を持ってもらうように心がけました。

環境問題やエコ活動に関する啓発用の看板などを用意し、学校全体で取り組むことができました。

文化祭や毎年夏に開放する「ミニ水族館」の来場者にも好評でした。正門近くなど、地域の方にも見ていただける場所を選んで設置することで、地域の方との交流も増えています。できた野菜は差し上げています。

### 【成果・実績】

グリーンカーテンは、日陰を作ることでその役割を果たしていますが、正門などのまったく日陰にする必要の無い場所に設置することでも、新たな憩いの場所が生まれています。

また、建築科の作ったベンチを置くと、友達との待ち合わせの場所としても利用されていました。

あさがおなど花の観賞もできましたが、ゴーヤなど食材も食べきれない程の豊作で、地域の方に差し上げて喜ばれました。見学会などにより、地域との交流が増えたこともプラス内容でした。

グリーンカーテンには環境問題やエコ活動を解説する看板を設置し、本校の生徒や地域の方への啓発も行いました。緑のカーテンの機能だけでなく、エコに関する意識の変化が少しではありますが表れているように感じます。

最初は予算もほとんどないままスタートした「緑のカーテン計画」ですが、環境に関する取り組みが理解され、規模も拡大していきました。一人一人の意識を少しでも変えられる無理のない活動をこれからもしていきたいと思います。そして、一人でも環境問題やエコ活動に関心を持ってほしいと思っています。

平成26年度  
校内テーマ「グリーンドーム」



植物の種類  
・あさがお  
・ゴーヤ

規模  
約50㎡

場所  
校中庭にある  
エコハウス周辺

工夫した点

- 青鉛の竹は職員所有の竹林から運ぶ。
- プランターは建築科の生徒が製作。
- 土は園芸同好会の余りをもらう。
- 肥料は職員飼育の山羊の糞を利用。
- 水はエコハウスに設置している  
雨水タンクの水を利用。

効果

エコハウスとは環境を考慮して建築科を中心に  
建てた小室です。そこを中心として活動したため、  
多くの生徒が関心を持ってくれました。思ったより  
よむ草が残りなく、活動場は広く使えますが、  
ゴーヤの実などにより頻りに空腐けてきました。  
また、公開前(12月)まで設置したため、校内  
の方にも見ていただくことができました。

平成27年度  
校内テーマ「グリーンウォール」



植物の種類  
・あさがお  
・ゴーヤ  
・シカクマメ

規模  
約170㎡

場所  
・正門付近  
・職員室前

工夫した点

- 昨年度の反省を生かし、水と肥料の管理を  
校内全体で行なった。
- プランターを大型化し、保水力を高めた。
- 建築科の生徒が製作したプランターは、  
耐久力を高めるため、錆びて強化させた。
- できる限り、昨年度のを再利用した。

効果

正門前の緑化は、環境問題の啓発と校内外の  
連携を図ることになりました。一歩ずつ進んで  
あり、目標を作るのと同じく、ゴーヤやアサガオが  
豊作でした。また、活動の恒例化のために準備を  
かけていただきありがとうございます。  
職員室前の緑化は、あさがおが咲いて  
きれい、今年の活動でも多くの生徒が関  
与しました。基本活動が楽しくなり、毎  
日の掃除が楽しみになりました。

平成28年度  
校内テーマ「グリーントネル」



植物の種類  
・日本あさがお  
・西洋あさがお  
・ゴーヤ  
・シカクマメ  
・アサリナ  
・千成ひょうたん  
・ルコファンワ  
・時計草  
・ヘチマ  
・キュウリ  
・パッションフルーツ  
・ツルムラサキ

規模  
約250㎡

場所  
・2期ペランダ  
・中央通り地下

工夫した点

- プランターのほとんどを大型化し、  
保水力を高めた。
- 植物の種類を大幅に増やし、生徒が関心  
を持たせた。
- できる限り、昨年度のを再利用した。

効果

「地下」は全学年を通して進行が遅く、  
活動の場やエコ活動に携われる機会となり、活動  
活動も盛り上がってまいりました。また、活動の場  
は地下の場にもエコ活動が展開され、活動の  
場にもグリーンカーテンを知ってもらえること  
になりました。  
【本館ペランダ】は、毎年4月に  
生徒が活動活動で活動の場が中心に  
となり活動しました。グリーンカー  
テン本館の活動で活動の場が中心に  
となり活動しました。

多度津高校 その他の環境やエコに関する取り組み

- エコプロジェクト  
(エコハウス、エコ茶室、モバイルハウス)
- イケチョウガイによる水質浄化プロジェクト
- 海洋環境調査
- 海浜美化活動
- 廃材を利用した地域貢献
- グリーン活動  
(グリーン活動推進日、プルタブ・アルミ缶回収運動)
- エコキャップ回収運動

●活動にあたり創意工夫したこと  
本校は工業科と水産科を併せ持つ専門高校です。その特徴を生かし、建築科が作った木製プランターやベンチを使用したり、建設現場の枠組み足場を利用したりしました。また、電気科の準備した照明を利用してタイマー式でライトアップを行いました。  
経費を節減するため職員の竹林から運んだ竹材で骨組を作ったり、飼っている家畜の糞を肥料として利用したりしました。

●活動の際に苦労したこと  
一番苦労したのは、水やりです。各部活動や委員会で担当を決めましたが、特に休日や長期休暇中は忘れることも多く、一気に葉が落ちることがありました。木製のプランターは保水力がないため、特に気をつけました。  
また、台風による被害が深刻でした。ネットを外したり、ヒモや単管で固定しましたが、かなりのダメージを受けることもありました。



# 中村学園三陽高等学校

〒819-0162 福岡県福岡市西区今宿青木今宿1042-33

☎092-882-6611

活動団体 生徒会執行部

主な活動時間 休み時間や放課後

活動人数 20人

## 私たちができるエコ ～継続～

### 【目標・今後の計画】

私たちが目標としていることは、活動の継続化です。現在アルミ缶・スチール缶を回収しており、今後はプラトップ回収を考えています。



### 【活動内容】

- 樋井川の清掃活動は平成28年で7年目となり、約20人で活動しています。福岡大学の「はかたわん海援隊」の方と協力行っています。
- ゴーヤのグリーンカーテンは今年で7年目となり、有志で行っています。
- ペットボトルキャップの回収は今年で6年目となり、保健委員で行っています。各クラスに回収筒を設置し、回収を行っています。
- 割り箸回収は今年で7年目となり、保健委員で行っています。食堂で使用した割り箸を回収しています。
- 紙パック回収は今年で6年目となり、保健委員が始めた活動ですが啓発を図るため、高校美化委員に引き継ぎました。回収箱を設置し、飲み終わった紙パックを集めています。
- 大濠公園の花いっぱい運動は今年で7年目となり、有志や部活動で行っています。夏にはひまわり、冬にはチューリップを植えています。

- 環境授業は今年で7年目となり、3Rステーションの方と協力し、保健委員が「先生」となり、授業を行います。各地域の公民館で地域の子どもや保護者に環境について理解を深めてもらうとともに、リデュース、リユース、リサイクルの「3R」や、リフューズ、リペアを取り入れた「5R」についても知ってもらおうという活動です。
- 星野村ボランティアは、今年で5年目となり、有志や部活動で行っています。きっかけは、OBの方が星野村でボランティアや地域づくりに関わっていたことです。その人から応援要請があり、九州北部豪

### 環境授業

- 今年で6年目・地域の子どもたちや保護者が対象
- 三陽の生徒が先生になり、環境についての授業を行う
- 三陽中学校での「竹製エコ食器」の使用、研究発表大会での準優勝をきっかけにこの活動に取り組む
- その年々で違うテーマのもと取り組む



### 星野村ボランティア活動

- 今年で3年目
- 2012年から年に約2回
- 家にたまっている泥などを外に出す、公園に新しい階段を作る等



雨復興ボランティア「三陽生星野村復興応援隊」を立ち上げました。年に約2回、現地に赴き活動を行っています。この活動では、豪雨で家にたまっている泥などを外に出したり、流木を細かく切って運んだり、公園に新しい階段を作ったりしています。

- ・熊本地震における災害ボランティアは平成28年9月10日(第1回)に生徒会及び有志で行いました。NPO「がんばりよるよ星野村」理事長の協力を得て、被災された方の自宅のがれきの撤去を行いました。今後、継続して行きたいと考えています。

### 【成果・実績】

- ・ゴーヤのグリーンカーテンでは一番良い効果が表れた時には、10℃以上もの温度差が出た日もありました。収穫したゴーヤは、中学校給食の献立の一品として使われました。
- ・ペットボトルキャップの回収では、地域の方々が本校のホームページを見て、行事の際に持ってきてくださるようになりました。その成果もあり、今までで、約80人分のワクチンになりました。
- ・割り箸回収では割り箸を専用のゴミ箱に入れる事が当たり前になりました。その成果もあり、今までで回収した割り箸は合計で204.5kgになりました。
- ・紙パック回収では高校生の活動を見た中学生にも繋がっています。
- ・大濠公園の花いっぱい運動では美しく咲きそろった花が、公園を訪れる人の目を楽しませてくれます。
- ・環境授業では今までで18回行い、今ではやる事が当たり前になっています。



#### ●活動にあたり創意工夫したこと

ペットボトルキャップの回収筒の衛生面を考慮して、年度当初に保健委員で作り直しています。  
ゴーヤのグリーンカーテンは、プランターで育てているので、こまめに追肥を行っています。

#### ●活動の際に苦労したこと

環境授業の時に、原稿を覚えたり、幼稚園生に分かりやすい言葉遣いに換えたり、道具を使いながらの説明に苦労しました。

また、すべての活動において、継続することが大変でした。例えば26年度の割り箸回収では、引き継ぎがうまくいわずに処分した時期がありました。これは、細かく説明することで以前通りに回収できるようになりました。



# 佐賀県立伊万里農林高等学校

〒848-0035 佐賀県伊万里市二里町大里乙1414

☎0955-23-4138

活動団体 食品化学科 微生物研究班

主な活動時間 授業の一環として

活動人数 9人

## 身近な食品を活用したエコ活動

### 【目標・今後の計画】

身近な食品を使って家庭でも簡単に作ることができる「微生物酵素活性剤マイエンザ」を利用して生ごみを分解する取り組みをしています。マイエンザとは、世界初の食品だけで作られる微生物活性酵素です。消臭効果や汚れ分解作用、さらに有機物分解作用を強化し、環境を守る補助材の役割を果たすと考えられています。また、化学薬品に比べ、人にも、自然環境にも優しいものです。私たちは先輩方の研究を引き継ぎ、今年「家庭でも簡単にできる」をキーワードに、さらなる研究に取り組むことにしました。

今後の目標として、1. 有機物分解作用を利用して、学校の生ごみを全て堆肥化する 2. 堆肥化した土を使い野菜を栽培する 3. 普及活動に取り組む 以上のことを活動のテーマとし、研究に取り掛かりました。



### 【活動内容】

微生物酵素活性剤マイエンザを用いた家庭菜園と家庭用コンポストの研究をしました。家庭でも簡単にそろえられる材料であるヨーグルト、砂糖、イースト、納豆を混ぜて40℃で1日発酵させて手作りマイエンザを作り、研究に用いることにしました。

マイエンザを利用したラディッシュ栽培…昨年度の作

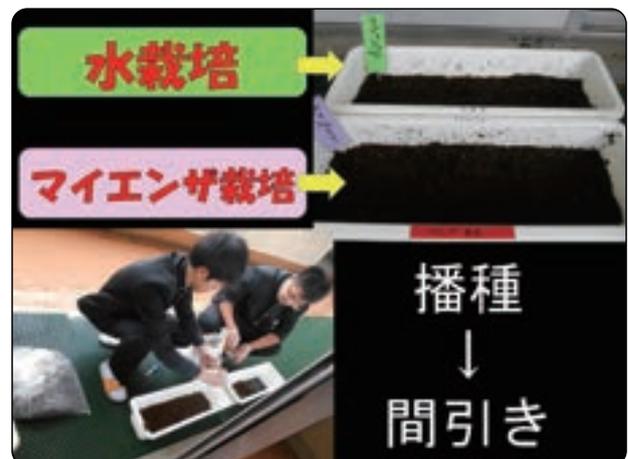
物栽培実験では、ブロッコリーの茎の肥大や、カイワレ大根の生育状況が良くなるという実験結果となりました。これをもとに家庭でも簡単にできるプランターでのラディッシュ栽培に挑戦しました。

播種後、間引きを行い、2つのプランターの株数をそろえました。マイエンザ栽培と水栽培で、できたラディッシュの大きさを測定し、比較したところラディッシュの大きさに違いが見られました。

水栽培は平均約0.9cmだったことに対し、マイエンザ栽培では、平均約1.58cmであり、マイエンザ栽培のほうが水栽培より約1.7倍大きく育っていることがわかりました。なお、糖度の差は見られず、どちらのプランターでも同じ糖度を維持することがわかりました。

また、マイエンザを散布してのコンポスト実験を行いました。昨年行ったコンポスト実験では水散布コンポストの分解率は63%であるのに対し、マイエンザ散布コンポストでは分解率97.3%となり、マイエンザの有機物分解促進作用が明確になっていたため、今年ラディッシュ栽培で用いた後のプランターの土にさらにマイエンザを加え、プランターでのコンポスト実験を行いました。

学校の調理実習で出た生ごみを入れ、毎日マイエン



ザを散布しながらかきまぜました。その結果、約3kgの生ごみを1カ月半ほどで堆肥化することに成功しました。現在、コンポストで作った土でもう一度ラディッシュを栽培する試験栽培を行っています。

**マイエンザ作り体験教室の実施**…マイエンザの普及拡大のため、私たちは昨年文化祭で、マイエンザ作り体験教室を開催しました。マイエンザについての説明パンフレットやバッジ、マイエンザスプレーも配布し、多くの方に知ってもらえるよう工夫をしました。家庭でも簡単に作っていただけるよう、分かりやすく材料の配合を行い、参加者全員にマイエンザスプレーを持ち帰っていただきました。

**【成果・実績】**

調理実習で7月に出た生ごみはすべて堆肥化することができました。

平成27年年7月に行われた農業クラブ発表大会で

は、この研究について発表し、佐賀県大会で最優秀賞を受賞し、九州大会に出場することができました。他にも平成28年2月に地域で行われた課題研究発表会、10月29日にはマイエンザの開発者である愛媛県の曾我部先生の講演会にも招待していただき、研究発表をすることができました。

**今後の課題**…今回は、家庭科室の調理実習で出た生ごみを堆肥化しましたが、今後は家庭科室だけではなく職員室などで出たごみを堆肥化し、学校のすべての生ごみの堆肥化を目指したいと思います。また、各家庭でも取り組んでもらえるよう、普及活動にも力を入れていきたいです。今後もこの天然の贈り物であるマイエンザの魅力と可能性を追求し、人と環境にやさしい農業を目指します。私たちの挑戦は続きます。

これからも、簡単・安全・便利をキーワードに、各家庭に普及させる取り組みをしていきたいです。



**●活動にあたり創意工夫したこと**

地域で生ごみの堆肥化に取り組まれている企業の方へ相談に行った際、木くずなどは微生物がたくさんすんでいるので、コンポストに混ぜるとより効果的であるということをお聞きしました。そこで本校の森林工学科から木くずをもらい、プランターに混ぜることにしました。木くずを混ぜることにより土に保温と保湿効果をもたらしてくれました。

**●活動の際に苦労したこと**

卵の殻をそのままコンポストに入れていたので、混ぜてもなかなか堆肥化しませんでした。分解は遅いですが、最初から細かく砕いて混ぜると少しずつ消えていくことが分かりました。今後も微生物の力を利用したエコ活動に積極的に取り組んでいきます。



# 佐賀県立致遠館高等学校

〒849-0919 佐賀県佐賀市兵庫北4-1-1

☎0952-33-0401

活動団体 ボランティア部

主な活動時間 休み時間や放課後、部活動として

活動人数 36人

## ゴミを資源に！ 無理なく継続できるエコ活動

### 【目標・今後の計画】

本校では個人ゴミは持ち帰りがルールとなっており、校内も比較的きれいに保たれています。ボランティア部では、更なるゴミの減量化のために、ゴミの再利用を進めています。費用をかけずに、誰でもでき、参加しやすく、楽しく継続できるエコ活動を目指しています。

環境保全の意識を養い、ゴミをできるだけ出さない生活が習慣になることを目標としています。また、何のためにどのように行動するのかを考えて活動できるようにすることを目標としています。

### 【活動内容】

主なエコ活動は、以下の通りです。

#### 1. 地域のイベント時の環境美化活動

県下一斉美化活動、バルーンフェスタ会場の清掃ボランティア、栄の国まつりでのゴミ拾いボランティアなどに参加。さが桜マラソンでは、給水ボランティアとして参加し、給水活動が終了した後、自主的にペットボトル、ペットボトルキャップ、アルミ、燃えるゴミ、その他にゴミを分別しました。生徒に、ゴミの分別意識が浸透してきていると感じました。

#### 2. ペットボトルキャップの回収

校内の自動販売機の横に、ペットボトルキャップ回収箱を設置し、どのようにリサイクルされ、使われるのかを掲示し、回収率をあげています。回収したペットボトルキャップは、イオンに持って行きました。

#### 3. レンタル観葉植物

校内にレンタル観葉植物コーナーを作り、必要な人が、必要な場所に持って行き観賞し、植物が弱ってきたり、不要になったら戻す形式にしました。植物の管理は部員が行っています。

#### 4. 落ち葉の腐葉土化と植物栽培

校内の空き地を利用して、季節の植物や野菜を植え、緑化を進めています。5年前に始めた当初は、水はけが悪く、土も痩せていて、植物栽培には不向きでした。そこで、校内の落ち葉や、草、調理実習後の生ゴミを利用した腐葉土作りを行い、ゴミ削減にも繋がっています。サツマイモ栽培では土をマルチで覆った方が、雑草が生えにくく芋の成長もよかったので、マルチを使用していますが、ビニールマルチはビニールゴミが出るのが欠点です。清掃工場の剪定枝ゴミをチップにした植物マルチでも、雑草は生えにくかったのですが、



腐葉土を使った畑

量を確保するのが難しいです。

## 5. 再生チョーク

エコワングランプリ第2回応募校の東筑紫学園高等学校のチョーク再生プロジェクトを参考にして、文化祭で「再生チョーク作り体験」を行いました。各教室から、短いチョークや、黒板消しクリーナーの粉チョークを集めて再利用しました。

## 6. ゴミの再利用

図書室で廃棄する古新聞をもらい、窓ふきに利用しています。また、新聞紙ゴミ袋を作り、ゴミ入れや、トイレの汚物入れに利用しています。事務室の先生に協力していただき、再利用できない印刷物の裏面を、計算用紙として利用しています。置き忘れの傘は1年に1回、学校で傘の整理を行っています。持ち主の現れない傘は、一定期間保管した後、置き傘として再利用しています。不要な鉢は文化祭で自由に持ち帰っていただきました。昨年、今年と鉢はすべてなくなりました。また、家庭クラブ活動では、古切手回収や古いタオルを集めて雑巾を縫い、保育園等に寄付したりしています。

## 7. 災害食作り体験

文化祭で、ポリ袋で作る災害食ご飯を体験してもらいました。身近な材料で、簡単に美味しいご飯が炊けることが分かり好評でした。ストーブの余熱を使ったり、箱なしレトルトカレーを購入したり、皿にラップを敷いて食べるとエコになることも伝えました。

## 8. マングローブ植樹

部長が赤十字海外派遣事業でベトナムを訪問し、マングローブ植樹を行いました。その経験をもとに、ベトナムの現状、緑化の必要性等を、文化祭で全校生徒にむけて発表しました。また、県内高校生にも、JRC活動で報告しました。

## 【成果・実績】

校内の落ち葉ゴミの削減、紙ゴミの削減、生ゴミの削減等に貢献できました。今後も部員数に応じて、ゴミの削減、校内緑化の推進をすすめていきたいと思えます。同時にボランティア部の活動を通して、本校生のエコ意識が高まるよう努力していきたいです。

なお、本校の活動は、ボランティアスピリット賞九州ブロックコミュニティ賞(平成27、平成26、平成25年)を受賞しています。



### ●活動にあたり創意工夫したこと

ボランティア部員以外の多くの生徒にも、落ち葉の回収や、ゴミの分別など、エコ活動にかかわってもらうようにしました。また、こまめに作業しなくても済むように、腐葉土化に向かない葉や枝なども一緒に土にすきこんでいます。堆肥化のスピードに時間差はありますが、手間がかからず腐葉土にすることができました。

落ち葉ゴミ等を利用した腐葉土で栽培した植物は、ボランティア部と特別支援学校生との交流活動で収穫し、夏野菜ピザを作ったり、芋掘りを行ったりと、ボランティア活動にも有効活用しています。

物を大切に使うこともエコではないかと考え、黒板消しクリーナーを掃除しました。昨年、フィルターの取り付け方、掃除方法を掲示したので、適切に使用されている黒板消しクリーナーが増えました。

### ●活動の際に苦勞したこと

ピオラ、パンジーなど花を種から育てようとしたのですが、育成が難しく、うまくいきませんでした。土や肥料を購入して生育しないといけないのかもしれませんが。また活動全体では、ほぼ全員が兼部であるため、リーダーとなる人材が育っておらず、生徒中心の活動が難しい状態です。

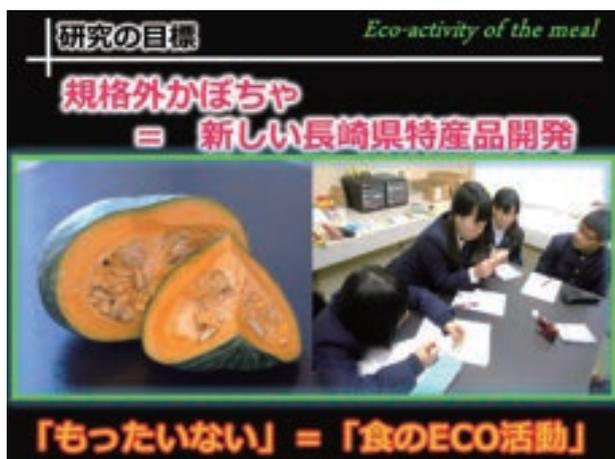


<b>長崎県立諫早農業高等学校</b>			
〒849-0919 長崎県諫早市立石町1003			☎0957-22-0050
活動団体	食品科学部		
主な活動時間	休み時間や放課後、部活動として	活動人数	11人

## 規格外かぼちゃの有効利用法 ～中華菓子「月餅」の開発と普及～

### 【目標・今後の計画】

長崎県はかぼちゃの生産量8180tで全国第4位を誇る。しかし、生産農家の悩みとして、年間生産量の約20%は傷が付いたり、表面色や形の悪さで処分されているという現実がある。私たちはそのような規格外かぼちゃを用い、新しい長崎県の特産品となるような加工品を開発することを目的とした。



### 【活動内容】

- ・2014年4月～2015年3月(12名)
  1. かぼちゃに関する事前調査
  2. かぼちゃを加工するための前処理法の検討
  3. 新商品の開発
- ・2015年4月～2016年3月(11名)
  1. 市場調査
  2. 品質検査(成分分析・保存試験)
- ・2016年4月～現在(11名)
  1. 商品化に向けての取り組み
  2. 普及・啓発活動

### 【成果・実績】

- ・2014年4月～2015年3月
  1. かぼちゃに関する事前調査
 

生産量や品種、規格外品の量などを長崎県県央振興局、長崎県農林技術センター、栽培農家で研修を受けた。さらに、栽培を実際に行いその技術を学んだ。
  2. かぼちゃを加工するための前処理法の検討
 

かぼちゃの品種や前処理法の検討のため、100通りの組み合わせを試した結果、180℃で45分焼成したものが色を最も鮮やかに保てた。
  3. 地域との連携による開発



開発方法は10種類の加工品を約100パターン行い官能検査で評価した。良くできた5種類を菓子専門家(ホテルのパティシエ長)に評価していただいた。また、長崎ウエスレヤン大学の先生方や中国人留学生も参加し、話題性や将来性を考え、かぼちゃを用いた月餅に決定した。試作はシロップ、生地、餡の配合試験を試み品質の高い新商品を完成させた。

・2015年4月～2016年3月(11名)

1. 市場調査

市場調査は市内イベントなどで実施し、幅広い年齢層に受け入れられた。また、東京の長崎県特産品販売会や中国・上海から来日するクルーズ船での販売など普及活動に努めている。

2. 品質検査(栄養評価・保存試験)

栄養評価は市販品と比較して、カリウムと食物繊維が豊富に含まれており、しかも機能性成分であるβ-カロテンも含まれ、生活習慣病の予防に有効な商品であることが証明された。

・2016年4月～現在(11名)

1. 商品化に向けての取り組み

商品化に向けてはコスト計算、ラベル、商品名などを決定した。また、PRも延べ1万人へ継続して行い、マスコミ等にも取り上げられ、地域へさらなる広がりを見せている。また、地元大手の菓子業社において商品化が決定している。商品として販売されると県内の規格外かぼちゃの81tが消費され、高付加価値商品として蘇り、地元農業の活性化につながると思われる。

2. 普及・啓発活動

現在、保育園、幼稚園、小学校、高齢者福祉施設へ出向き、商品の紹介や作り方など、紙芝居を用いて啓発活動を行っている。一方、地域のイベントなどにも積極的に参加している。子供たちやお年寄りの方々に私たちの日頃の活動を知っていただく機会となり、とても良かったと思う。



●活動にあたり創意工夫したこと

商品開発を行うにあたり、かぼちゃの前処理方法の検討や月餅の特徴をいかに表現するかに工夫をした。かぼちゃの色や風味をいかに鮮やかに印象強く出すか、生地と餡の区別をどのように表現するかに合計200通りの実験を繰り返し、工夫を重ねた。また、普及・啓発活動では、保育園や幼稚園、小学校では、分かりやすく興味を持たせるために紙芝居を行いながら活動した。高齢者福祉施設においても紙芝居は好評で地元の高校生が日頃何をやっているのかを知っていただくいい機会となった。

●活動の際に苦勞したこと

今回、最も苦勞したことは、かぼちゃの前処理方法である。かぼちゃの色や風味をどのように生かすかに苦勞し、煮沸処理、蒸煮処理、焼成処理、レンジ処理など100通りの組み合わせを試すのは、時間と根気を必要とする作業だった。しかし、毎日の努力の成果が実り、色鮮やかで風味豊かなままの状態を保てる製法を確立することができた。



## 大分県立津久見高等学校

〒879-2421 大分県津久見市大字津久見3185-1

☎0972-82-4126

活動団体 津久見高校商業調査部

主な活動時間 部活動として

活動人数 4人

## つくみ蔵エコチャレンジ ～廃食用油リサイクルについての研究～

## 【目標・今後の計画】

津久見市は県内で最も人口が少ない市であり、中心地周辺は寂しさが漂う地域となっている。そこで地域の活性化につながればと「つくみ蔵」と称してさまざまなマーケティング活動を行ってきた。そして、これまでの店舗販売を中心としてきた活動から、持続性のある資源循環型サイクルの構築にテーマを転換し、「つくみ蔵エコチャレンジ」とした。私たちの活動の目標は下記のとおりである。

- ・廃食用油を回収・リサイクルすることによってCO<sub>2</sub>削減、地球温暖化防止に貢献する。
- ・石鹸やキャンドルを製造して販売実習の際に廃食用油を提供の方に無料で配付する。

## 【活動内容】

## 1. 地元の住民へのアンケート

平成27年7月～28年6月に市場調査を行い、「つくみ蔵」での販売商品をABC分析した。すると、売上構成比の大きい主力商品の共通点は「油」を使っていることだとわかった。そこで事業所や家庭から出る「廃食用油」の回収と、資源の有効利用を研究テーマとして、本年度の活動を行っていくこととした。

「廃食用油」に関する調査・研究を行うため、平成28年

5月6～28日の期間、本校生徒保護者及び教職員、近隣中学校生徒保護者、津久見市内飲食店を対象に、アンケートを実施し、次のことが分かった。

一般家庭は、回答者の大半が中高生の保護者であったため40歳代が多く、食用油を使った料理の頻度が高い。津久見市内では廃食用油だけの回収を行っていないためか、廃食用油は新聞紙に染み込ませたり、凝固剤で固めて可燃ごみとして処理するケースが多かった。事業所は、回答者が飲食店や唐揚げ、精肉店等の店主で、食用油を使った料理の頻度も定休日以外ほぼ毎日行っていた。油の排出量も多く、処理は回収業者に無料で引き取ってもらっていることが多かった。これらのアンケート結果から廃食用油回収と資源の有効利用についての調査・研究をさらに進めることにした。

## 2. 自治体・民間企業・NPO法人での廃食用油回収の取り組みを取材

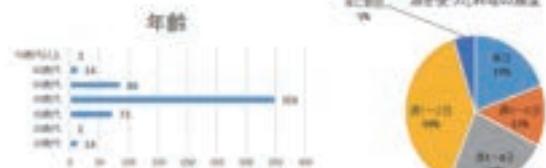
廃食用油のリサイクル、自動車排ガスのクリーン化や地域コミュニティ活性化の先進的取り組みを視察するために、豊後大野市三重町「みえっ粉工房」、京都市役所、株式会社レポインターナショナル、くにさきエコシステム株式会社を訪問した。

「みえっ粉工房」では「三重町くらしを考える会 生活

## アンケート集計結果(事業所)



## アンケート集計結果(一般家庭)



学校」が毎週第2・第4火曜日に使用済み天ぷら油を回収し、リサイクル石鹸作りを行っている。京都市役所の取材で一番に驚いたのはリサイクルされる廃食用油の7割が飼料用油脂原料にされていることであった。株式会社レポインターナショナルは、ふるさとの川や湖を環境汚染から守ろうと活動するボランティア団体が母体となっている。使用済み天ぷら油などの廃食用油からバイオディーゼル燃料(C-FUEL)を製造し、軽油の代替燃料とする取り組みが行われている。

取材後、廃食用油を使って商品開発ができないかと考え、石鹸作りとキャンドル製作を始めた。

### 【成果・実績】

資源循環型社会の実現のため高校生ができる石鹸、キャンドル作りと、防災キャンドルを完成させた。

今回の調査により地球温暖化や異常気象、化石燃料の枯渇化等、環境に対しての考え方が大きく変わった。食用油がリサイクルにより新たな商品に生まれ変わったり、様々な用途に使えることを学んだ。中でも石鹸やキャンドルは一般家庭でも簡単に作れるため多くの方々に製法を伝えたい。

「防災キャンドル」は津久見市内の全戸に配布できるようにこれからも生産を続ける。



#### ●活動にあたり創意工夫したこと

「つくみ蔵防災キャンドル」を作ったこと。その活用例と利点は以下のとおりである。

- ・ 地震、津波、台風等で停電になった時に電球代わりになる。
- ・ 普段はアロマキャンドルや花火等で使用できる。
- ・ 部屋のインテリアや小物入れ(鍵、携帯置きとして利用)に活用。
- ・ 建物の倒壊等非常時に、マッチ、笛も入れているので、火や煙、笛で助けを呼ぶことができる。
- ・ 瓶に入った蓋つきキャンドルのため、防水で衛生面にも優れ、火災の心配がない。

#### ●活動の際に苦労したこと

取材が大分県内から京都市まで広範囲であったことや、人数が少ない中でアンケートから商品開発までを短期間で行ったこと。



# 沖縄県立中部農林高等学校

〒904-2213 沖縄県うるま市田場1570

☎098-973-3578

活動団体 草花班

主な活動時間 授業の一環として

活動人数 7人

## 緑のカーテン活動 継続3年目

### 【目標・今後の計画】

平成26年度より緑のカーテンの研究に取り組み、平成28年度も「緑のカーテンの栽培技術の研究」「緑のカーテンの効果の研究」「緑のカーテンの普及活動」の研究を進めました。今後は、植物栽培の継続研究、普及活動、苗の無料配布、講習会、各種施設等への設置などの活動を計画しています。

### 【活動内容】

1. 5月7日にゴーヤの苗200鉢程度とメキシコサワギクの苗約100鉢の無料配布を行いました。

2. 学校で、メキシコサワギク、ゴーヤ、フウセンカズラ、花トケイソウ、ツンベルギア・サンダンス、ツンベルギア・アフリカンの緑のカーテンを研究。

1)メキシコサワギクは、平成26年6月に定植した株が3mまで成長。緑のカーテンを形成し開花も確認できました。2年目の昨年7月の台風で設置枠が折れ、地際から切り戻しを行い、再度枠を設置し栽培を継続したところ、1～4月の長期間にわたり開花を確認しました。3年目の今年も6月中旬には株の成長で支柱が折れ、折れた状態のまま栽培を継続中ですが、分厚い絨毯のような緑のカーテンの仕上がりになっています。

2)スズメゴーヤは、連作の影響を調べるために意図的に3年前のプランターの土を使用しました。播種は行わずこぼれ種子が発芽したものを使用。8月14日以降1週間おきに摘心と液肥1000倍希釈液を与え、9月上旬には枠全体に成長し緑のカーテンが形成されました。用土は3年目でも悪い影響はでませんでした。

3)フウセンカズラは6月22日に播種を行い、7月2日にプランターに定植しました。用土は3年間継続して使用しました。8月14日以降は1週間おきに摘心と液肥1000倍希釈液を与え、9月中旬には高さ180cm程に成長し、緑のカーテンを順調に形成しました。

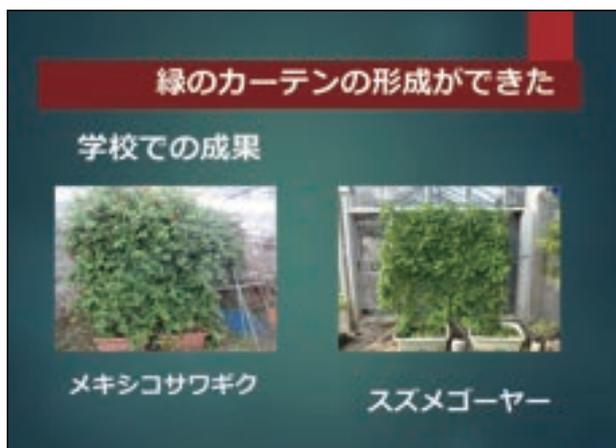
4)花トケイソウは3年前に1株をプランターに定植しました。昨年12月31日にツンベルギア・サンダンスの株を譲り受け、プランターに1株を定植しました。6月29日には花数は少ないものの両方の開花を確認、8月14日以降は1週間おきに液肥1000倍希釈液を与え、9月中旬には、ツンベルギア・サンダンスの株の勢いが優勢となり、花トケイソウのプランターまで勢力を伸ばし、株を覆うように緑のカーテンの形成が見られました。混植の場合は蔓を整枝してバランスを保つ技術が必要であることが分かりました。

5)ツンベルギア・アフリカンは、6月中旬に播種し、夏季は成長が悪かったものの、9月以降株は成長し、現在はプランターへの定植ができる状態となっています。

### 3. 普及活動

1)パーラーに昨年9月1日に緑のカーテンを設置し、1年間継続。栽培植物はメキシコサワギクで1～4月には開花し見応えがあり、店長も喜んでいました。

2)うるま市老人ホーム「さくら館」に、昨年10月中旬から緑のカーテンを食堂側と花壇側に設置。食堂側



はメキシコサワギクを30Lプランター4つ配置し、花壇側にはメキシコサワギクとゴーヤ10株を定植し混植して経過を観察してきました。

- 3) 沖縄市の花屋に昨年11月10日にメキシコサワギクを植えて、緑のカーテンに取り組んでいただいています。ツンベルギア・サンダンスとフウセンカズラも植えて3種類の混植となり、ツンベルギア・サンダンスを1株分けて頂きました。
- 4) うるま市内で食堂を営む講習会参加者が、昨年11月4日にメキシコサワギクを植えて緑のカーテンを継続。
- 5) うるま市のT氏宅に、昨年11月よりメキシコサワギクで緑のカーテンを設置し、現在まで継続。
- 6) うるま市デイサービス施設で今年5月28日に緑のカーテンを設置しゴーヤを5株定植、現在まで継続。

## 【成果・実績】

### 学校での緑のカーテンの栽培について

- 1) メキシコサワギクは3年間株を継続して緑のカーテンの形成ができました。
- 2) スズメゴーヤでは、用土を3年間継続して使用しても順調に緑のカーテンを形成できました。
- 3) フウセンカズラでも摘心を行うことで、密度のある緑のカーテンの形成ができました。
- 4) 花トケイソウとツンベルギア・サンダンスとの混植においては、1年前に植えた花トケイソウが、後から植えたツンベルギア・サンダンスに勢いがおされた状態で緑のカーテンの形成が見られました。

### 普及活動での効果

- 1) パーラーに設置したメキシコサワギクは、約4カ月の開花が楽しめ、お店の雰囲気や和らげてくれる効果があると店長から評価されました。

- 2) うるま市老人ホーム「さくら館」では、メキシコサワギクの緑のカーテンが良い状態で形成できました。メキシコサワギクとゴーヤの混植が可能であり、ゴーヤの実も収穫できたと声が寄せられました。
- 3) 沖縄市の花屋ではメキシコサワギクでの緑のカーテンを見て、苗をもらい育てる方も出てきたり、花屋を起点に公民館でも栽培するなど広がりが見られました。
- 4) うるま市内の食堂では、店長が西日の対策として緑のカーテンに取り組み、7月中旬にはメキシコサワギクが良い状態で緑のカーテンを形成し、西日対策として大きな効果があったと報告されました。またジョギング中の方々も成長を楽しんでいたそうです。
- 5) うるま市のT氏宅ではメキシコサワギクでの緑のカーテンを設置し、楽しんでいるとお話が聞きました。
- 6) うるま市デイサービス施設では、利用者がゴーヤの成長を楽しみにしていたこと、実を収穫して食べたとの喜びの声が寄せられました。



### ●活動にあたり創意工夫したこと

台風対策で足場板にキャスターを付けた台車を作製。短時間で台風対策ができ、温室の中に移動させれば植物へのダメージも少なくすみます。キャスター付きの台車の上で栽培すれば、台風への備えも同時に行え、好きな場所に簡単に移動できるのも利点です。デイサービス施設での設置枠にはハウスパイプを使用。これまでのイボ支柱は強度が弱く、緑のカーテンを形成しても途中で折れるなどの被害もあり、その弱点を克服し、同時に見栄えも良くなりました。

### ●活動の際に苦労したこと

うるま市老人ホーム「さくら館」で昨年定植したメキシコサワギクが良い状態で成長していましたが、8月中旬に枯死しました。職員の方がフェンスの外側の草を除くために除草剤を使用したとの話があり、根に除草剤が触れたことが原因である可能性を考えました。除草剤の悪影響は想定もしておらず、大変残念でした。除草剤の使用に注意することを学びました。緑のカーテンの活動は、日々のかん水管理や肥培管理、病気への対応、台風対策などが必要であり、初めての方が気軽に取り組めるようになるには、まだまだハードルが高いことを感じました。

## 「イオンエコワングランプリ」全応募高等学校

ブロック	学校名	第1回応募	第2回応募	第3回応募		第4回応募		第5回応募	
				普及・啓発	研究・専門	普及・啓発	研究・専門	普及・啓発	1次通過
	北海道旭川農業高等学校		●2				●		
	北海道岩見沢農業高等学校		○	○					
	北海道大野農業高等学校	●							
	北海道音更高等学校	●							
	北海道帯広農業高等学校		●				●		
	北海道帯広南商業高等学校	●	○						
	北海道霧多布高等学校							○	
	北海道倶知安農業高等学校	●未吉					●		
	北海道札幌旭丘高等学校		●						
	北海道札幌清田高等学校	●							
	北海道更別農業高等学校				●				
	北海道静内農業高等学校				●		●		
	北海道標茶高等学校	●						○	
	北海道下川商業高等学校	●							
	北海道洞爺高等学校		○						
	北海道中標津農業高等学校	●	○						
	北海道函館水産高等学校			○	●				
	北海道美幌高等学校	●	○●		●2		●	○	
	北海道真狩高等学校	●							
	札幌市立北海道札幌藻岩高等学校	●							
	(北海道)クラーク記念国際高等学校			○		○			
	(北海道)札幌新陽高等学校					○		○	○
	(北海道)札幌山の手高等学校			○					
	(北海道)北海学園札幌高等学校		○	○		○			
	(北海道)北海道龍谷学園双葉高等学校	●	○	○		○		○	
	青森県立柏木農業高等学校			○	●			○	
	青森県立五所川原農林高等学校	●					●		
	青森県立三本木農業高等学校	●毎日							
北海道・東北	青森県立名久井農業高等学校		●	○内閣			●未吉	○	
	(青森県)八戸聖ウルスラ学院高等学校			○					
	岩手県立大槌高等学校	●	○	○		○		○	
	岩手県立遠野緑峰高等学校				●内閣	○			
	岩手県立盛岡農業高等学校					○内閣/BP			
	宮城県石巻商業高等学校	●							
	宮城県加美農業高等学校	●			●				
	宮城県黒川高等学校				●			○	
	宮城県工業高等学校		●3		●2				
	宮城県小牛田農林高等学校					○		○	
	宮城県志津川高等学校							○	○
	宮城県白石工業高等学校							○	
	宮城県水産高等学校		●						
	宮城県仙台第二高等学校		●						
	宮城県築館高等学校			○					
	宮城県農業高等学校	●					●	○	
	宮城県迫桜高等学校							○	
	仙台市立仙台工業高等学校					○		○	
	秋田県立大曲農業高等学校	●	●内閣						
	秋田県立十和田高等学校	●							
	秋田県立増田高等学校					○		○	
	秋田県立横手清陵学院高等学校		●		●				
	秋田市立秋田商業高等学校	●							
	山形県立上山明新館高等学校				●				
	山形県立村山産業高等学校 (旧東根工業・旧村山農業)	●	○●				●	○	
	(山形県)米沢中央高等学校	●							
	福島県立会津農林高等学校							○	
	福島県立郡山北工業高等学校				●				

ブロック	学校名	第1回応募	第2回応募	第3回応募		第4回応募		第5回応募		
				普及・啓発	研究・専門	普及・啓発	研究・専門	普及・啓発	1次通過	2次通過
北海道・東北	福島県立修明高等学校鮫川校							○		
	福島県立相馬農業高等学校		●					○		
	福島県立平工業高等学校	●南沢	○	○		○		○		
	福島県立平商業高等学校	●								
	福島県立西会津高等学校	●	○	○						
	福島県立福島北高等学校	●イワ								
	茨城県立中央高等学校	●								
茨城県立竹園高等学校	●									
栃木県立宇都宮白楊高等学校	●	○		●	○					
栃木県立小台北桜高等学校	●							○		
栃木県立国分寺特別支援学校								○	○	○I1
栃木県立さくら清修高等学校								○		
栃木県立栃木農業高等学校	●文科	●環境/BP								
栃木県立馬頭高等学校								○		
栃木県立矢板高等学校								●		
群馬県立伊勢崎興陽高等学校								●		
群馬県立大泉高等学校	●	●		●	○					
群馬県立太田東高等学校				○						
群馬県立尾瀬高等学校	●									
群馬県立勢多農林高等学校		●								
群馬県立高崎商業高等学校	●									
群馬県立利根実業高等学校								●ニコル	○	
群馬県立中之条高等学校	●							○		
群馬県立前橋女子高等学校						○				
太田市立商業高等学校	●	○								
新潟県立海洋高等学校	●									
新潟県立加茂農林高等学校	●	○								
新潟県立高田農業高等学校					●					
長野県飯田O I D E長姫高等学校		○			●	○		○		
長野県白田高等学校	●									
長野県下高井農林高等学校	●					○2		○		
長野県須坂園芸高等学校		●						○	○	
(長野県)エクセラシオン高等学校	●	○	○			○		○	○	○ニコル
(長野県)長野俊英高等学校	●									
(長野県)長野女子高等学校	●									
山梨県立巨摩高等学校	●									
山梨県立甲府南高等学校	●	○	○			○		○		
(山梨県)山梨英和中学校・高等学校								○2		
静岡県立伊豆総合高等学校	●									
静岡県立磐田農業高等学校	●	○		●	○			○		
静岡県立佐久間高等学校		●		●						
静岡県立静岡農業高等学校				●				●		
静岡県立島田工業高等学校	●	○								
静岡県立榛原高等学校				○		○マタ※				
静岡県立浜松城北工業高等学校								○	○	○文科
静岡県立富岳館高等学校	●	●		●	○			○		
(静岡県)オイスカ高等学校	●	○						●	○	
(静岡県)静岡県西遠女子学園高等学校						○				
(静岡県)星陵高等学校		○								
(静岡県)浜松開誠館高等学校		○								
首都圏	東京都立井草高等学校							○		
	東京都立園芸高等学校							○		
	東京都立大島高等学校	●	○					●南沢	○	
	東京都立第四商業高等学校		○							
	東京都立多摩工業高等学校	●								
	東京都立つばさ総合高等学校	●	○文科	○マタ-	●	○			○	
	東京都立農業高等学校		●		●					

ブロック	学校名	第1回応募	第2回応募	第3回応募		第4回応募		第5回応募			
				普及・啓発	研究・専門	普及・啓発	研究・専門	普及・啓発	1次通過	2次通過	
首都圏	東京都立農芸高等学校	●									
	(東京都)お茶の水女子大学附属高等学校						○				
	(東京都)海城高等学校							●			
	(東京都)共立女子第二中学高等学校				○						
	(東京都)実践学園高等学校	●	○					●			
	(東京都)創価高等学校	●									
	(東京都)東京女子館中学・高等学校						○				
	(東京都)獨協中学・高等学校	●									
	(東京都)広尾学園高等学校		●2								
	(東京都)富士見丘高等学校		○								
	(東京都)明治大学付属中野八王子中学高等学校		●								
	(東京都)早稲田大学高等学院	●	○		○						
	千葉県立安房拓心高等学校				○						
	千葉県立磯辺高等学校	●									
	千葉県立大網高等学校							●			
	千葉県立君津青葉高等学校	●	●			●					
	千葉県立清水高等学校				○		○				
	千葉県立下総高等学校	●									
	千葉県立成田西陵高等学校					●南沢					
	千葉県立船橋芝山高等学校	●									
	(千葉県)市川高等学校		●2			●2					
	(千葉県)東海大学付属市原望洋高等学校 (旧東海大学付属望洋)				○				○	○	
	埼玉県立いずみ高等学校								○		
	埼玉県立浦和高等学校								○	○	○
	埼玉県立小鹿野高等学校			○					○	○	○南沢
	埼玉県立川越高等学校	●									
	埼玉県立秩父農工科学高等学校	●	●			●					
	埼玉県立特別支援学校さいたま桜高等学園	●	○		○		○		○	○	
	埼玉県立羽生実業高等学校	●									
	(埼玉県)本庄東高等学校			●							
(埼玉県)早稲田大学本庄高等学院						○					
神奈川県立相原高等学校	●					○	●				
神奈川県立麻生高等学校	●										
神奈川県立厚木西高等学校	●										
神奈川県立小田原城北工業高等学校	●										
神奈川県立川崎高等学校							●				
神奈川県立中央農業高等学校	●	●									
神奈川県立氷取沢高等学校							●	○	○	○I	
神奈川県立平塚農業高等学校	●	●									
神奈川県立平塚農業高等学校初声分校	●										
神奈川県立藤沢工科高等学校		●									
(神奈川県)慶應義塾湘南藤沢高等部	●	○				○		○	○		
(神奈川県)光明学園相模原高等学校							●				
北陸・中部	富山県立中央農業高等学校		●								
	富山県立氷見高等学校							○			
	(富山県)高岡龍谷高等学校		○●		○		○				
	石川県立大聖寺高等学校		○								
	石川県立津幡高等学校				○		○		○		
	福井県立小浜水産高等学校	●2									
	福井県立若狭高等学校								○2		
	岐阜県立池田高等学校								○		
	岐阜県立恵那農業高等学校	●				●					
	岐阜県立大垣東高等学校	●						●			
	岐阜県立大垣養老高等学校		●						○	○	
	岐阜県立可児工業高等学校	●	●		○			●	○		
	岐阜県立加茂農林高等学校	●	○内閣			●		●			

ブロック	学校名	第1回応募	第2回応募	第3回応募		第4回応募		第5回応募		
				普及・啓発	研究・専門	普及・啓発	研究・専門	普及・啓発	1次通過	2次通過
北陸・中部	岐阜県立岐山高等学校		●毎日		●		●	○		
	岐阜県立岐阜工業高等学校	●	○	○		○		○		
	岐阜県立岐阜農林高等学校		●				○			
	岐阜県立坂下高等学校							○	○	○
	岐阜県立多治見北高等学校		●							
	岐阜県立飛騨高山高等学校		○							
	岐阜県立飛騨高山高等学校山田校舎	●								
	岐阜市立岐阜商業高等学校				○トイ		○			
	(岐阜県)大垣日本大学高等学校	●								
	(岐阜県)高山西高等学校	●								
	(岐阜県)中京高等学校	●								
	(岐阜県)麗澤瑞浪高等学校						○			
	愛知県立愛知工業高等学校	●								
	愛知県立愛知商業高等学校				○					
	愛知県立渥美農業高等学校	●	●	○						
	愛知県立稲沢高等学校					●2				
	愛知県立鶴城丘高等学校						○			
	愛知県立刈谷工業高等学校		●	○						
	愛知県立杏和高等学校	●								
	愛知県立佐屋高等学校	●内閣				●2		●2	○2	
	愛知県立時習館高等学校						○			
	愛知県立新城高等学校	●	●							
	愛知県立田口高等学校	●								
	愛知県立豊田工業高等学校		●							
	愛知県立豊田東高等学校				○未吉					
	愛知県立南陽高等学校						○文科			
	愛知県立半田商業高等学校				○					
	愛知県立碧南工業高等学校						○		○	
	愛知県立緑丘商業高等学校	●								
	愛知県立名南工業高等学校	●						●		
	名古屋市立名古屋商業高等学校						○			
	(愛知県)名古屋大谷高等学校								○	
	(愛知県)名城大学附属高等学校		○							
(三重県)高田高等学校	●									
近畿	滋賀県立長浜農業高等学校	●	●							
	滋賀県立八幡工業高等学校	●								
	京都府立綾部高等学校	●		○			○		○	
	京都府立綾部高等学校東分校		○							
	京都府立乙訓高等学校								○	
	京都府立海洋高等学校	●								
	京都府立桂高等学校	●	●	○	●			●		
	京都府立北桑田高等学校	●								
	京都府立北嵯峨高等学校		●							
	京都府立木津高等学校	●	●2					●		
	京都府立須知高等学校	●	●		●					
	京都府立南丹高等学校	●								
	京都府立農芸高等学校	●								
	京都府立福知山高等学校三和分校					●	○		○	
	京都府立北稜高等学校								○	○
	京都市立伏見工業高等学校		●		●				○	
	京都市立洛陽工業高等学校	●	○	○					○	
	(京都府)大谷中学校・高等学校	●	○						○	○
	(京都府)京都産業大学附属高等学校		●							
	(京都府)京都産業大学附属高等学校 (京都府)京都学園高等学校 ※連名応募	●								
	(京都府)洛星高等学校		●							
	大阪府立園芸高等学校	●	○●2	○	●3・環境		○		○	

ブロック	学校名	第1回応募	第2回応募	第3回応募		第4回応募		第5回応募		
				普及・啓発	研究・専門	普及・啓発	研究・専門	普及・啓発	1次通過	2次通過
近畿	大阪府立堺工科高等学校						●			
	大阪府立城東工科高等学校	●	○							
	大阪府立長吉高等学校		○	○		○				
	大阪府立西淀川高等学校		○							
	大阪府立農芸高等学校	●								
	大阪府立枚岡樟風高等学校		●							
	大阪府立枚方なぎさ高等学校	●								
	大阪府教育センター附属高等学校		○							
	大阪教育大学附属高等学校平野校舎					●				
	(大阪府)関西創価高等学校	●								
	(大阪府)関西学院千里国際高等部				○					
	(大阪府)好文学園女子高等学校	●	○							
	(大阪府)清風高等学校							●	○	
	(大阪府)帝塚山学院泉ヶ丘高等学校				○					
	(大阪府)梅花高等学校	●								
	(大阪府)羽衣学園高等学校	●	○	○						
	(大阪府)PL学園高等学校	●								
	兵庫県立有馬高等学校		○			●		●		
	兵庫県立香住高等学校					●			○	
	兵庫県立神戸商業高等学校							●	○	○
	兵庫県立飾磨工業高等学校								○	
	兵庫県立篠山産業高等学校	●								
	兵庫県立篠山東雲高等学校	●	○	○文科/BP				●内閣	○	
	兵庫県立大学附属高等学校							●		
	兵庫県立豊岡総合高等学校				○		○		○	
	兵庫県立西宮甲山高等学校								○	
	兵庫県立西宮香風高等学校	●	●							
	兵庫県立西脇工業高等学校				○		○			
	兵庫県立農業高等学校							●		
	兵庫県立播磨農業高等学校	●				●2		●		
	兵庫県立姫路工業高等学校	●								
	兵庫県立姫路南高等学校	●								
	兵庫県立三木北高等学校	●	○イサ				○		○	
	兵庫県立山崎高等学校	●	●							
	(兵庫県)雲雀丘学園高等学校	●								
	奈良県立磯城野高等学校	●								
	奈良県立王寺工業高等学校		○							
	奈良県立御所実業高等学校	●	●			●		●		
	奈良県立奈良北高等学校	●						●		
	奈良女子大学附属中等教育学校				○		○			
	(奈良県)天理高等学校		●							
	和歌山県立有田中央高等学校	●	○	○				●		
	和歌山県立那賀高等学校								○	
	和歌山県立箕島高等学校								○	
	中国・四国	鳥取県立智頭農林高等学校							○	
鳥取県立米子南高等学校		●					●			
(鳥取県)米子工業高等専門学校							○	○		
(鳥取県)米子松陰高等学校		●	○							
島根県立出雲農林高等学校								●		
島根県立隠岐水産高等学校		●								
(島根県)出雲西高等学校		●	○末吉	○		○		○		
岡山県立岡山朝日高等学校		●								
岡山県立邑久高等学校						●		●	○	
岡山県立倉敷天城高等学校		●								
岡山県立興陽高等学校		●								
岡山県立高松農業高等学校		●	●			●		●	○	
岡山県立津山工業高等学校		●	○	○			○		○	

ブロック	学校名	第1回応募	第2回応募	第3回応募		第4回応募		第5回応募		
				普及・啓発	研究・専門	普及・啓発	研究・専門	普及・啓発	1次通過	2次通過
中国・四国	岡山県立真庭高等学校						○トイ	○		
	岡山県立水島工業高等学校		●							
	岡山県立矢掛高等学校		○	○			○	○		
	(岡山県)山陽女子高等学校	●		○				○		
	(岡山県)明誠学院高等学校	●								
	広島県立加計高等学校							●	○	
	広島県立忠海高等学校	●	○							
	広島県立広島皆実高等学校		○							
	広島県立福山工業高等学校	●								
	広島県立油木高等学校	●環境	●エコル				○		○	
	広島市立広島工業高等学校		●		●			●	○	
	(広島県)盈進高等学校	●								
	(広島県)呉港高等学校	●								
	山口県立大津緑洋高等学校(旧日置農業)	●								
	山口県立防府商工高等学校								○	○
	山口県立山口農業高等学校	●							○	
	下関市立下関商業高等学校		●	○						
	(山口県)慶進高等学校	●								
	(山口県)高川学園高等学校							●		
	香川県立志度高等学校	●								
	香川県立高松工芸高等学校								○	
	香川県立多度津高等学校								○	○
	香川県立飯山高等学校		○							
	高松市立高松第一高等学校	●								
	(香川県)坂出第一高等学校				●					
	愛媛県立伊予農業高等学校	●	●		●				○	
	愛媛県立宇和島水産高等学校		●		●			●		
	愛媛県立大洲農業高等学校	●								
	愛媛県立小松高等学校	●								
	愛媛県立丹原高等学校	●								
	愛媛県立東予高等学校							○		
	愛媛県立長浜高等学校	●	○							
	愛媛県立新居浜工業高等学校							○		
	愛媛県立三崎高等学校	●								
愛媛県立南宇和高等学校								○		
徳島県立池田高等学校定時制								○	○	
徳島県立新野高等学校 ※連名応募					○		○	○	○環境	
徳島県立小松島西高等学校勝浦校										
高知県立高知農業高等学校	●									
高知県立高知南高等学校				○						
高知県立四万十高等学校	●									
高知県立嶺北高等学校		○	○					○		
(高知県)清和女子中高等学校								○		
九州・沖縄	福岡県立糸島農業高等学校	●	●					●		
	福岡県立浮羽工業高等学校						○			
	福岡県立香椎工業高等学校	●	○							
	福岡県立嘉穂総合高等学校						○			
	福岡県立小倉工業高等学校		●				○			
	福岡県立水産高等学校							○		
	福岡県立宗像高等学校	●	●							
	福岡市立博多工業高等学校				●					
	那珂川町立福岡女子商業高等学校	●								
	(福岡県)中村学園山陽高等学校	●	○2						○	○
	(福岡県)東筑紫学園高等学校		○					●		
	佐賀県立伊万里農林高等学校							○	○	○
	佐賀県立鹿島実業高等学校		○							
	佐賀県立唐津青翔高等学校	●	●						●	

ブロック	学校名	第1回応募	第2回応募	第3回応募		第4回応募		第5回応募			
				普及・啓発	研究・専門	普及・啓発	研究・専門	普及・啓発	1次通過	2次通過	
九州・沖縄	佐賀県立唐津南高等学校	●	○南沢				●				
	佐賀県立高志館高等学校	●									
	佐賀県立佐賀商業高等学校								○2	○	○末吉
	佐賀県立佐賀農業高等学校	●									
	佐賀県立致遠館高等学校						○		○	○	
	長崎県立諫早農業高等学校	●					○	●	○2	○	
	長崎県立国見高等学校	●									
	長崎県立島原農業高等学校	●	●		○	●エコ	○	●環境	○		
	長崎県立西彼農業高等学校	●									
	長崎県立豊玉高等学校	●									
	長崎県立北松農業高等学校		●			●					
	大分県立大分上野丘高等学校				○						
	大分県立大分東高等学校				○		○				
	大分県立玖珠美山高等学校(旧玖珠農業)		●			●		●	○		
	大分県立竹田高等学校	●									
	大分県立津久見高等学校								○	○	
	大分県立中津南高等学校耶馬溪校	●									
	大分県立日出総合高等学校(旧日出陽谷)	●	○								
	大分県立日田林工高等学校	●震災									
	熊本県立芦北高等学校	●	○			●					
	熊本県立阿蘇中央高等学校	●							○		
	熊本県立天草工業高等学校		○								
	熊本県立鹿本農業高等学校		●			●		●			
	熊本県立菊池高等学校	●									
	熊本県立熊本西高等学校	●									
	熊本県立熊本農業高等学校	●				●		●			
	熊本県立甲佐高等学校	●									
	熊本県立翔陽高等学校						○				
	熊本県立八代農業高等学校泉分校	●				●		●			
	熊本市立必由館高等学校	●	○		○						
	宮崎県立延岡工業高等学校		●					●			
	宮崎県立都城工業高等学校		●								
	宮崎県立都城農業高等学校	●									
	鹿児島県立市来農芸高等学校								○2		
	鹿児島県立鹿屋農業高等学校	●									
	鹿児島県立薩南工業高等学校	●	●								
鹿児島県立薩摩中央高等学校								○			
鹿児島県立種子島高等学校	●										
出水市立出水商業高等学校						○					
沖縄県立久米島高等学校			○3								
沖縄県立中部農林高等学校	●			○		○		○2	○		
沖縄県立辺土名高等学校	●										
沖縄県立宮古総合実業高等学校	●	●									
沖縄県立八重山高等学校	●										
沖縄県立八重山農林高等学校	●				●						
沖縄県立読谷高等学校								○			

第5回総応募点数 121件

<注釈>

内閣:内閣総理大臣賞 文科:文部科学大臣賞 環境:環境大臣賞 末吉:審査員末吉竹二郎特別賞 エコ:審査員C.W.ニコル特別賞 南沢:審査員南沢奈央特別賞  
 震災:震災復興貢献賞(第1回のみ) BP:ベストプレゼンテーション賞(第2回から) ｲﾝ:ｲｵﾝ賞(第1・2回) 毎日:毎日新聞社賞(第1・2回)  
 ｲﾗ:ｲｵﾝエコの環ﾄﾗｲ賞(第3・4回) ﾏｽﾀ:毎日エコの環ﾏｽﾀｰ賞(第3・4回) ｲ:エコの環賞(第5回から)

○普及・啓発

●研究・専門

※ただし、第1回は部門の区別はありません

※●の後の数字は複数応募点数

## 都道府県別応募校数一覧

北海道	25
青森県	5
岩手県	3
宮城県	13
秋田県	5
山形県	3
福島県	8
茨城県	2
栃木県	7
群馬県	10
新潟県	3
長野県	7
山梨県	3
静岡県	12
東京都	19
千葉県	10
埼玉県	9
神奈川県	12
富山県	3
石川県	2
福井県	2
岐阜県	18
愛知県	21
三重県	1

滋賀県	2
京都府	20
大阪府	18
兵庫県	18
奈良県	6
和歌山県	3
鳥取県	4
島根県	3
岡山県	11
広島県	8
山口県	6
香川県	6
愛媛県	10
徳島県	3
高知県	5
福岡県	11
佐賀県	8
長崎県	6
大分県	8
熊本県	11
宮崎県	3
鹿児島県	6
沖縄県	7
合計	386

※連名応募校も個別にカウント。

※応募後、統廃合された高校も含めた校数です。

# 第1～5回入賞校一覧

## 【第1回】

### グランプリ・内閣総理大臣賞

愛知県立佐屋高等学校 「羽ばたけアヒル農法」 研修班  
「羽ばたけアヒル農法 ～アヒル農法による生物多様性の保全～」

### 準グランプリ・文部科学大臣賞

栃木県立栃木農業高等学校 環境科学部プロジェクト班  
「ヨシの恵みで環境保全活動 ～とりもどせ農村のヨシ産業・足尾の緑」

### 準グランプリ・環境大臣賞

広島県立油木高等学校 油木高校ミツバチプロジェクト  
「花咲く神石高原町『ミツバチ』から広がる交流・地域活性化」

### 震災復興貢献賞

大分県立日田林工高等学校 林産クラブ  
「東日本大震災の『がれき』の利用を温かみのある住宅材料に！」

### チームワーク賞（イオン賞）

福島県立福島北高等学校 家庭クラブ  
「福島北高等学校でのエコ活動への取り組み」

### オリジナリティ賞（毎日新聞社賞）

青森県立三本木農業高等学校 生産環境研究室、農業問題研究室  
「カラー LED による未来型エコ養鶏への挑戦」

### 審査員 C.W. ニコル 特別賞

福井県立小浜水産高等学校 ダイビングクラブ  
「小浜湾アマモマーメイドプロジェクト」

### 審査員 末吉竹二郎 特別賞

北海道倶知安農業高等学校 農業クラブ  
「未利用ジャガイモ資源を有効活用した循環型農業の確立」

### 審査員 南沢奈央 特別賞

福島県立平商業高等学校 生徒会  
「福島から、未来の地球のためにできること。」

## 【第2回】

### 内閣総理大臣賞《普及・啓発部門》

岐阜県立加茂農林高等学校 林業工業科環境班  
「里山に風穴をあける（どこでもできる休耕田オーナー制度の提案）」

### 内閣総理大臣賞《研究・専門部門》

秋田県立大曲農業高等学校 きのこ研究グループ  
「Our Green Innovation utilizing area resources」

### 文部科学大臣賞

東京都立つばさ総合高等学校 ISO 委員会  
「つばさ総合高校のゴミ処理について」

### 環境大臣賞

栃木県立栃木農業高等学校 とちぎ水土里づくりプロジェクト班  
「元気あふれる故郷再生活動 ～とりもどせ里山の原風景・伝統文化」

### イオン賞

兵庫県立三木北高等学校 環境研究部 ECO-P  
「三木から未来へ ～僕たちの action for our future! ～」

### 毎日新聞社賞

岐阜県立岐山高等学校 生物部  
「カワニナを通して考える地域の生態系」

### 審査員 C.W. ニコル 特別賞

広島県立油木高等学校 ナマズプロジェクトチーム  
「ナマズ養殖による地域活性化と地域環境保全活動」

### 審査員 末吉竹二郎 特別賞

出雲西高等学校 インターアクトクラブ  
「出雲西高 IAC の環境保全活動と国際活動について」

### 審査員 南沢奈央 特別賞

佐賀県立唐津南高等学校 「虹の松原」 松露プロジェクトチーム  
「虹の松原」を守ろう！ ～松露プロジェクトを通して『地域』を元気に～」

### ベストプレゼンテーション賞

栃木県立栃木農業高等学校 とちぎ水土里づくりプロジェクト班

## 【第3回】

### 内閣総理大臣賞《普及・啓発部門》

青森県立名久井農業高等学校 TEAM FLORA PHOTONICS  
「草花による環境浄化活動」

### 内閣総理大臣賞《研究・専門部門》

岩手県立遠野緑峰高等学校 草花研究班  
「廃棄されるホップの主蔓(しゅづる)を活用した和紙の研究と普及」

### 文部科学大臣賞

兵庫県立篠山東雲高等学校 特産で eco and smile  
「山の芋グリーンカーテンで GOOD ★ LIFE」

### 環境大臣賞

大阪府立園芸高等学校 ピオトープ部  
「蝶の舞う街づくりと絶滅危急種昆虫少年・少女の復活プロジェクト」

### 審査員 C.W. ニコル 特別賞

長崎県立島原農業高等学校 食品加工部  
「循環型椎茸菌床栽培方法及びバイオエタノールの生成について」

### 審査員 末吉竹二郎 特別賞

愛知県立豊田東高等学校 獣害対策プロジェクトチーム  
「イノシシとの共生 ～学校全体での取組を目指して～」

### 審査員 南沢奈央 特別賞

千葉県立成田西陵高等学校 地域生物研究部  
「テントウムシによる環境に優しい農業の実現を目指して」

### イオン・エコの環・トライ賞

岐阜県立岐阜商業高等学校

### 毎日・エコの環・マスター賞

東京都立つばさ総合高等学校

### ベストプレゼンテーション賞

兵庫県立篠山東雲高等学校 特産で eco and smile

## 第1～5回入賞校一覧

### 【第4回】

#### 内閣総理大臣賞《普及・啓発部門》

岩手県立盛岡農業高等学校 環境科学班 林業班  
「落ち葉を森に帰そう！～ペットボトル苗で造る自然林ピオトープ～」

#### 内閣総理大臣賞《研究・専門部門》

兵庫県立篠山東雲高等学校 しののめ竹林バスターズ  
「地域資源で環境創造～竹チップで未来を変える～」

#### 文部科学大臣賞

愛知県立南陽高等学校 Nanyo Company 部  
「カーボン・オフセットを活用した地域の環境意識改善の取組」

#### 環境大臣賞

長崎県立島原農業高等学校 食品加工部  
「長崎県特産品『枇杷』のゼロ・エミッションへの挑戦」

#### 審査員 C.W. ニコル 特別賞

群馬県立利根実業高等学校 生物生産科生物資源部  
「イノシシから圃場を守れ～農業廃材利用による浸入防護柵の製作～」

#### 審査員 末吉竹二郎 特別賞

青森県立名久井農業高等学校 TEAM FLORA PHOTONICS  
「国立公園におけるサクラソウ自生地の保全活動」

#### 審査員 南沢奈央 特別賞

東京都立大島高等学校 農林科  
「ツバキを守って島おこし～伊豆大島発。椿の島のエコ活動～」

#### イオン・エコの環・トライ賞

岡山県立真庭高等学校

#### 毎日・エコの環・マスター賞

静岡県立榛原高等学校

#### ベストプレゼンテーション賞

岩手県立盛岡農業高等学校 環境科学班 林業班

#### 審査員 末吉竹二郎 特別賞

佐賀県立佐賀商業高等学校 さが学美舎  
「みんなではじめる『e-coねっと』ごみ減量化作戦」

#### 審査員 南沢奈央 特別賞

埼玉県立小鹿野高等学校 ボランティア部  
「2つのエコ活動から広がる絆～鹿高生の小さな努力～」

#### エコの環賞

栃木県立国分寺特別支援学校 高等部紙工班  
「特別支援学校のエコ活動『たかが紙パック、されど紙パック』」

#### エコの環賞

神奈川県立氷取沢高等学校 ボランティア部  
「地域交流活動から国際貢献につながる取り組みの模索」

#### エコの環賞

徳島県立池田高等学校定時制 池定・地域まもり隊  
「地域と進めるエコフレンドリープロジェクト！」

#### ベストプレゼンテーション賞

岐阜県立大垣養老高等学校 瓢箪倶楽部秀吉

### 【第5回】

#### 内閣総理大臣賞

岐阜県立大垣養老高等学校 瓢箪倶楽部秀吉  
「グリーンカーテンに革命を！冬でも楽しめる瓢箪グリーンカーテン」

#### 文部科学大臣賞

静岡県立浜松城北工業高等学校 環境部  
「地球にやさしいエンジニア」

#### 環境大臣賞

徳島県立新野高等学校・徳島県立小松島西高等学校勝浦校  
緑のリサイクル・ソーシャル・エコ・プロジェクト  
「緑リサイクルモデル『資源循環型肥料の開発』から環境創生へ」

#### 審査員 C.W. ニコル 特別賞

エクセラシオン高等学校 環境科学コース  
「ぶらすαの河川・里山整備とあまのじゃくのエコ活動」



第5回「イオン エコワングランプリ」の一次審査を通過した全28点のエコ活動の活動事例を収録しています。

テキストは、ご応募いただいた「活動報告シート」から作成し、写真は添付資料のパワーポイント等から採用しています。なお、スペースの関係からテキストを一部省略している活動があります。

「イオン エコワングランプリ」は、高校生の中に発生し、継続している環境に対する取り組みを、より多くの高校生に、より広く地域や社会にその活動の環が展開していくことをめざしています。

新たなエコ活動の指針として本誌を大いにご活用いただければ幸いです。ホームページ (<http://www.eco-1-gp.jp/>) では第1～5回の応募事例(一次審査通過のみ)を紹介していますので、ぜひご覧ください。

発行日	2017年4月1日
発行者	公益財団法人 イオン1%クラブ 千葉県美浜区中瀬 1-5-1 (〒261-8515) 電話 043-212-6023
編集	イオンエコワングランプリ運営事務局 毎日新聞社 (〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1) 毎日企画サービス (〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-6-17 千代田会館) 電話 03-6265-6813 (平日 10-17時)

©illustration by Boojil <http://boojil.com/>

※無断転載は固くお断りします。

# 寄附・協賛企業一覧

イオン1%クラブは、「地域社会のお客さまから頂いた利益を、地域のため、未来のために正しく使う企業でありたい」という想いから、環境保全と社会貢献活動を行うことを目的として、1989年に設立されました。イオングループの主要企業が税引前利益の1%を寄付し、「次代を担う青少年の健全な育成」「諸外国との友好親善の促進」「地域社会の持続的発展」の3つを柱に、様々な環境保全・社会貢献活動を推進しています。

会社名		主な事業内容	会社名		主な事業内容
AEON	イオン株式会社	純粋持株会社		イオンフィナンシャルサービス株式会社	カード事業を中心に金融サービスをグローバルに展開する銀行持株会社
	イオンリテール株式会社	全国で総合小売業を展開		株式会社イオン銀行	商業と金融が融合した小売業の銀行を展開
	イオン北海道株式会社	北海道において総合小売業を展開		イオンクレジットサービス株式会社	クレジットカード事業を中心に、銀行代理業、電子マネー事業などの金融サービス事業を展開
	イオン九州株式会社	九州において総合小売業を展開		イオン保険サービス株式会社	生命保険、損害保険代理業を展開
	イオン琉球株式会社	沖縄において総合小売業を展開		イオンディライト株式会社	総合FMS(ファンリディマネジメントサービス)業を展開
	株式会社サンデー	青森県を中心に東北でホームセンターを展開		株式会社イオンファンタジー	ショッピングセンター内で、ファミリー向けアミューズメント施設とインドアプレイグラウンドを展開
MaxValu	マックスバリュ北海道株式会社	北海道で食品スーパーマーケットチェーン「マックスバリュ」を展開		株式会社ツヴァイ	「結婚相手紹介サービス」およびパーティイベントの開催、ウエディングサービス、地方自治体の結婚支援事業サポートを展開
	マックスバリュ東海株式会社	静岡県を中心に中部・西関東エリアで食品スーパーマーケットチェーン「マックスバリュ」を展開		イオンエンターテイメント株式会社	マルチプレックス方式による映画、演劇、音楽その他各種イベントの興行を展開
	マックスバリュ中部株式会社	中部エリアで食品スーパーマーケットチェーン「マックスバリュ」を展開		イオンコンパス株式会社	旅行商品販売のほか、貸し会議室運営やイベント企画運営などビジネスソリューション業務を展開
	マックスバリュ西日本株式会社	西日本で食品スーパーマーケットチェーン「マックスバリュ」「ザビッグ」を展開		リフォームスタジオ株式会社	洋服のリフォーム、靴修理と合鍵の専門店を展開
	マックスバリュ九州株式会社	九州で食品スーパーマーケットチェーン「マックスバリュ」を展開		株式会社ジーフット	紳士靴、婦人靴、スポーツ靴および靴用品の販売
	株式会社光洋	関西都市部でスーパーマーケットチェーンを展開		株式会社コックス	紳士衣料、婦人衣料、子供衣料ならびに雑貨商品の企画・製造・販売
	株式会社マルナカ	四国・淡路エリアにおいて食品スーパーマーケットチェーンを展開	AEON♥PET	イオンペット株式会社	ペットフードや用品の販売、トリミングサロン、動物病院、ペットホテル、しつけ教室、介護ケアなどを展開
	株式会社山陽マルナカ	中国・近畿エリアでスーパーマーケットチェーンを展開		株式会社未来屋書店	イオンを中心とした大型ショッピングセンターに書籍専門店を展開
	ミニストップ株式会社	コンビニエンスストア「ミニストップ」を展開		株式会社メガスポーツ	大型スポーツ専門店「スポーツオーソリティ」のほか、スポーツファッションのセレクトショップ、スポーツジムなどを全国に展開
	オリジン東秀株式会社	弁当、惣菜販売を中心に事業展開	AEON	イオンアイビス株式会社	イオングループ各社のITインフラシステム開発・運用、ならびにバックオフィス業務のシェアードサービスを展開
	ウエルシアホールディングス株式会社	調剤薬局併設型ドラッグストアを展開するウエルシア薬局(株)などの企業を傘下に持つ持株会社		イオントップバリュ株式会社	トップバリュの商品企画・開発、販売促進を展開
	イオンモール株式会社	多機能複合型商業施設を開発する商業ディベロッパー		イオンフードサプライ株式会社	畜産・水産・デリカ商品の製造加工ならびに配送事業を展開

※36社 ※2017年3月現在

高校生のエコ活動を募集！

## 第6回 イオン エコワンングランプリ

応募  
してね

《普及・啓発部門》《研究・専門部門》の2部門で募集を行います。

だれでも、どこでも始められる《普及・啓発部門》。

地域固有の問題に専門的なアプローチで挑む《研究・専門部門》。

いずれも高校生らしい視点で、高校生ならではの工夫をもとに、優れた成果が認められる活動を表彰します。

★応募校にオリジナルタンブラー 3本プレゼント



エコ活動を始めたら「**エコの環<sup>わ</sup>スクール**」に登録を！

登録校は216校(2017年3月31日現在)。

皆さんの高校から発信する Facebook など SNS で交流します。

★登録するとオリジナルクリアファイルをプレゼント  
最終審査会(東京・12月9日)にご招待特典あり



始めよう！ **イージー・エントリー**

- ・鳥の巣箱設置……希望校に巣箱と取り付けキットを贈呈。
- ・身近なエコ活動にチャレンジ……できることから始めよう。  
あなたの回りにも課題がきっとある！

★活動を始めると図書カード(1万円分)贈呈。ビギナーを応援します。



お問い合わせ：エコワンングランプリ運営事務局（毎日新聞社・毎日企画サービス）  
〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-6-17 千代田会館 5 階  
Tel. 03-6265-6813（平日10～17時）  
Fax. 03-6265-6837  
<http://www.eco-1-gp.jp/>



**AEON 1%**  
Club Foundation

